

2018年12月改訂版

アジュール舞子の 植物図鑑 (花木・海浜植物・草花)

この図鑑は、アジュール舞子のご来園の際のご参考にしていただく事を目的として公開しています。
学術・商業目的など目的外の利用や、その事による不利益に関しましては一切の責任を負いかねます。

■花木・・・・・・・・・・・・・・・・

- 1) ソシンロウバイ
- 2) ヤブツバキ
- 3) アセビ
- 4) ボケ
- 5) オオシマザクラ
- 6) ユキヤナギ
- 7) レンギョウ
- 8) ヒイラギナンテン
- 9) ヤマモモ
- 10) コデマリ
- 11) カメリア' エリナ・カスケード'
- 12) ヒラドツツジ
- 13) ハナカイドウ
- 14) ハナズオウ
- 15) ヒメウツギ
- 16) トベラ
- 17) ハイビヤクシン
- 18) ハイネズ
- 19) クロマツ
- 20) ウバメガシ
- 21) シラカシ
- 22) アラカシ
- 23) オリーブ
- 24) ピラカンサ
- 25) ハマナス
- 26) シャリンバイ
- 27) マルバシャリンバイ
- 28) ベニカナメモチ
- 29) クロガネモチ
- 30) タラヨウ
- 31) ハコネウツギ
- 32) ハクチョウゲ
- 33) ユズリハ
- 34) フェイジョア
- 35) ニシキギ
- 36) ネズミモチ

- 37) シモツケ
 - 38) ガクアジサイ
 - 39) イトラン
 - 40) マサキ
 - 41) アメリカノウゼンカズラ
 - 42) バイカウツギ
 - 43) モッコク
 - 44) ネムノキ
 - 45) ヒペリカム・ヒドコート
 - 46) ヒペリカム・カリシナム
 - 47) ビヨウヤナギ
 - 48) キョウチクトウ
 - 49) アベリア
 - 50) アベリア・ホープレイズ
 - 51) ハマゴウ
 - 52) ハマボウ
 - 53) フヨウ(スイフヨウ)
 - 54) ムクゲ
 - 55) サルスベリ
 - 56) クコ
 - 57) ヒイラギモクセイ
 - 58) ナワシログミ
 - 59) サザンカ
 - 60) カンツバキ
 - 61) ローズマリー
 - 62) ユリオプスデージー
 - 63) オカメザサ
 - 64) ヘデラ
 - 65) ワシントンヤシ
- 海浜植物・・・・・・・・・・・・・・・・
- 66) コウボウムギ
 - 67) コウボシバ
 - 68) ハマボウフウ
 - 69) ハマヒルガオ
 - 70) ハマユウ
 - 71) イソギク
 - 72) ハナイソギク

参考文献

・松江の花図鑑、庭木図鑑植木ペディア、植物雑学辞典、ヤサシイエンゲイ
・Wikipedia ・季節の花300・Garden Vision ・みんなの趣味の園芸 等インターネット検索より

■草花.....

- 73)ニホンズイセン(スイセンテイタテイタ)
74)オオイヌノフグリ
75)ホトケノザ(ヒメドリコソウ)
76)ミチタネツケバナ
77)ハナナ(ナハナ)
78)ナズナ
79)ハコベ
80)キュウリグサ
81)ツルニチニチソウ
82)カラスノエンドウ
(スズメエンドウ、カスマグサ)
83)オランダミミナグサ
84)イオノプシディウム
85)オステオスペルマム
86)キンギョソウ
87)マーガレット
88)ノゲシ
89)セイヨウタンポポ
90)ナガミヒナゲシ
91)スズメノヤリ
92)マツバウンラン(ツタバウンラン)
93)コメツブツメクサ(コメツブウマコヤシ)
94)クスタマツメクサ
95)シロツメクサ
96)ナデシコ
97)オニタビラコ
98)カタバミ
99)ハナカタバミ
100)オキザリス・桃の輝き
101)アメリカフウロ
102)ミチバタナデシコ
103)シロバナマンテマ
(マンテマ、サクラマンテマ)
104)セイヨウヒキヨモギ
105)ニワゼキショウ
(オオニワゼキショウ、セッカニワゼキショウ)
106)コバンソウ(ヒメコバンソウ)
107)チガヤ
108)マメグンバイナズナ
109)ヒナキキョウソウ
110)ヒナギキョウ
111)ヒメジヨオン(ハルジオン)
112)ネジバナ
113)ノボロギク
114)ノアザミ
115)ブタナ
116)コマツヨイグサ
117)ユウゲショウ
118)ウラジロチチコグサ
119)チチコグサ
120)ハクチョウソウ
121)アレチノギク
122)ガザニア
123)ヘラオオバコ
124)エノコログサ(キンエノコロ)
125)ツユクサ(マルバツユクサ)
126)メリケンムグラ
127)スベリヒユ
128)ノブドウ
129)イガナオモミ
130)メヒシバ(オヒシバ)
131)ヘクソカズラ
132)イタドリ
133)イヌクグ
134)アキノノゲシ
135)ヒガンバナ
136)ヨモギ
137)メリケンカルカヤ
138)セイタカアワダチソウ
139)ツワブキ
140)ガーデンシクラメン
141)ノジギク
142)フユシラズ
143)クリスマスローズ
144)ノースポール
145)ナルトサワギク

花木

ソシンロウバイ 素心蠟梅

中国原産の落葉樹で真冬に満開の花を咲かせる数少ない花木の一つです。花びらは分厚くロウのような質感があり非常によい芳香を放ちます。日本には明治時代に渡来したと言われていています。「ロウバイ」の変種で、蠟梅は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅は花被片全体が黄色くなる。(黄色一色の花) 蠟細工のような花で、芳香があり、12月～2月ごろ、冬枯れの中、葉の展開に先立って花を咲かせます。

科目:ロウバイ科ロウバイ属

学名: *Chimonanthus praecox*

別名:カラウメ(唐梅)

原産地:中国 花言葉:純愛

開花期:12月～2月



素心ロウバイ

満月ロウバイ

ロウバイ

和ロウバイともいう



ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間は200品種を超える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種は、このヤブツバキとその変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけである。日本最古の観賞用花木あるいは代表的な茶花として知られ、江戸時代には数多くの品種が作られたが、単にツバキという場合は本種を示す。2月から4月にかけて赤又は白の花を咲かせ、花は一つの枝先に一輪だけ、筒状に開き全開しない。咲き終わると丸ごと落下する。9月から10月にかけて熟す実から採れる種子から良質の油が採れます。「つばき」の語源は厚葉木(あつばき)又は艶葉木(つやばき)と言われています。英名のカメリアは、この木を日本から持ち帰ったチェコスロバキア人宣教師の名前。

科目: ツバキ科ツバキ属

学名: *Camellia japonica*

別名: ヤマツバキ、ツバキ

原産地: 日本

開花期: 2月～4月

花言葉: わが運命は君の手にあり



＜椿と山茶花の見分け方＞

- ・山茶花は秋から冬に花が咲く。椿は晩冬から初春。
- ・椿は花が丸ごと落下して散る。山茶花は花びら単位で散る。
- ・山茶花は若い枝には細かな毛が生えている。



アセビ 馬酔木

葉は濃いグリーンで光沢があり、春にスズランのようなつぼ形の花を房状にたくさん付け、満開時期は花穂が樹を覆うように咲き誇ります。新芽はやわらかな光沢のある赤色で、花と同じくらい美しい。万葉集にも10首が読まれており、古くから日本で親しまれている花木だと言うことがわかります。

漢字で「馬酔木(あせび)」と書くのはアセボトキシンという有毒成分をもち、馬が食べると神経が麻痺し酔ったような状態になるところに由来します。具体的な中毒症状は、吐く、下痢、腸からの大量出血などが挙げられます。かつては葉を煮出して殺虫剤としても利用されていました。

科目：ツツジ科アセビ属

学名：Pieris japonica

別名：あしび、あせぼ

原産地：日本、中国

開花期：2月～4月

花言葉：犠牲、献身、
あなたと二人で旅をしましょう



新芽



アケボノアセビ
(ペニバナアセビ)

ボケ 木瓜

ボケは日本、中国を原産とする落葉性の低木です。中国原産の野生種や日本原産の「クサボケ」を掛け合わせた園芸品種などが多く存在します。現在では200あまりの品種が知られています。花の形は、一重、半八重、八重などがあり花色は赤、白、ピンクなどで絞り模様のはいるものや2色になるものなど多彩です。枝にはとげが生えており、短い枝に花がびっしりとつきます。

ちなみに漢字では「木瓜」と書きますが、中国ではこの単語は「パパイア」のことを指します。

科目：バラ科ボケ属

学名：Chaenomeles speciosa

原産地：日本、中国

開花期：3月～4月

花言葉：先駆者、指導者、退屈、平凡、情熱、妖精の輝き



11月頃から咲き出す花は春に開花するものと区別するために「寒木瓜(かんぼけ)」と呼ばれることがある。



オオシマザクラ 大島桜

伊豆半島、房総半島や三浦半島に見られるものは、かつて薪炭用などに植栽されたものが野生化したという説があります。伊豆大島に生息している事から、この名前になっています。桜の多くは葉のない枝に花をつけますが、オオシマザクラは青い葉と一緒に花が咲きます。山桜も葉と一緒に花を咲かせますが、新芽が茶色っぽい色をしているものが多いので見分ける事ができます。

葉は、互生(互い違いにつく)し、卵状楕円型で、葉先は細長く尾状に伸びます。葉の縁には鋸歯(葉の縁のギザギザ)があります。葉には、よい香りがあり、塩漬けにして桜餅を包むのに使われます。

花は春に、新葉が開き始めると同時に房状(散房状花序)につけます。花は径3~4cmで白色です。花弁は5枚です。

オオシマザクラは花が白くて遠くから見るとやや青白く見えるのが特徴です。また、オオシマザクラの葉は他の桜の仲間に比べると葉の丸みが強いのも特徴のひとつです。

果実は、やや大きく径12mmほどの球形で、初夏に赤から黒紫色に熟します。熟した果実は甘みがあって食べられます。

*オオシマザクラは他の桜との交配から様々な品種が生みだしています。ソメイヨシノはこれとエドヒガン系の桜との交配で出来た品種、カワヅザクラもこれとカンヒザクラが自然交配で出来た品種です。

科目:バラ科サクラ属

学名: *Cerasus speciosa*

別名: 薪桜、餅桜

原産地: 伊豆諸島

開花期: 3月~4月



ユキヤナギ 雪柳

日本や中国に分布する落葉性の低木です。株元から枝をたくさん出してわさわすと茂ります。緩やかなアールを描きながら長くしなやかに枝垂れる枝と株を被うほど咲く白い花が特長です。

枝が弓状に湾曲して真っ白い花を咲かせるので雪柳の名前があります。ヤナギのように枝が枝垂れると言うだけで、ヤナギの仲間ではありません。中国名は「噴雪花」、名前の通り満開時は株全体が雪をかぶったように花で埋まります。岩肌や岩の裂け目などに生える様から、昔は「岩柳」とも呼ばれたようです。花は4月頃が見頃で、葉が出る直前～同時期に咲きます。花後に若い枝が出てきて、秋頃まで枝分かれしながら伸びていき、その枝に翌春花が咲きます。晩秋には葉が黄色～赤に色づいて落葉します。

科目：バラ科シモツケ属

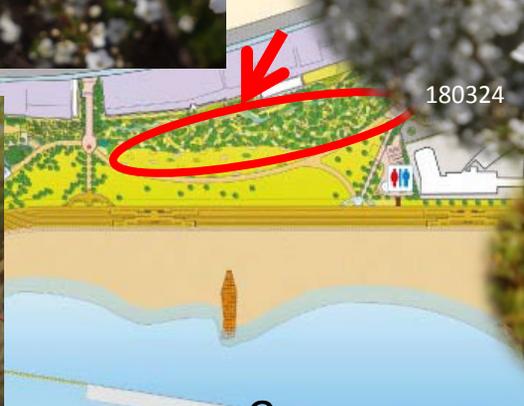
学名：Spiraea thunbergii

別名：岩柳、コゴメバナ、コゴメヤナギ

原産地：日本 中国

開花期：3月～4月

花言葉：希望、愛らしさ、静かな思い



レンギョウ 連翹

一般にレンギョウ属の植物を総称してレンギョウと呼んでいます。しかし、レンギョウ (*Forsythia suspensa*) という標準和名をもった種があります。この種は中国原産で、早くから欧州へ紹介され広く普及している園芸的に重要な種です。

レンギョウ属は繁殖力が旺盛で、よく繁る。樹高は1 - 3mまで育ち、半つる性の枝は湾曲して伸び下に垂れ、地面に接触すると、そこから根を出し新しい株ができる。枝は竹のような節を持つ。

まだ葉が芽吹く前の早春、黄色い4弁の花が、細い枝に密に多数開く。中国名は黄寿丹。英名はゴールデンベル。

その花が咲き終わる頃、入れ違うかのように今度は、緑色の葉が対生に芽吹き、それが秋になると濃緑色、概憤色(くすんだ黄緑色)、紫色と順に変色し、最後に落葉する。

科目: モクセイ科レンギョウ属

学名: *Forsythia suspensa*

別名: レンギョウウツギ、イタチハゼ

原産地: 日本、中国、朝鮮半島

開花期: 3月~4月



花言葉: 希望、期待、集中、情け深い

ヒイラギナンテン 柎南天

台湾、中国に分布する常緑性の低木です。葉っぱがヒイラギ、実の付き方がナンテンに似ているためこの名前があります。光沢のある葉は美しく、姿も低くまとまるので、庭木や植え込みに広く利用されています。葉っぱにとげとげがありチクチクするので、公園などでは進入・立入禁止を目的として植えられることもあります。葉っぱは革質で厚みがあり、縁はぎざぎざになり、その先端がかたく針状になります。冬になると葉は赤く色づきます。春に茎の頂点から花茎を横から斜め下伸ばして小さな黄色い花をたくさん咲かせます。雄しべは触れるとめしべの方向に動くおもしろい性質があります。花後には丸い果実がブドウのように房状になってたくさん付きます。果実は6月頃に黒紫色に熟し、表面は白い粉を吹きます。

科目：メギ科メギ属

学名：Mahonia japonica

別名：トウナンテン

原産地：中国、台湾

開花期：3月～4月

成実期：6月

花言葉：激しい感情、愛情は増すばかり、激情



ヤマモモ 山桃

日本(関東より西)、中国南部に自生する常緑性の樹木です。雄木と雌木があり(雌雄異株(しゆういしゆ))、雌木は梅雨時期にルビー色の美しい果実を付けます。この果実は平安時代から食用として親しまれていました。葉も光沢があり美しく、樹形もきれいに整い、病害虫にも強いので近年では街路樹などにも利用されています。

3月~4月に花を咲かせます。花は雄木と雌木で異なり、雄木は赤みを帯びた3cm程度の花穂に褐色の雄花を咲かせ、雌木は長さ1cmほどの紅色の雌花を咲かせます。いずれもぱっとしない花ですが、風によって受粉する風媒花です。

科目: ヤマモモ科 ヤマモモ属

学名: *Myrica rubra*

別名: 楊梅、山桜桃

原産地: 中国、日本

開花期: 3月~4月

成実期: 6月~7月



* 公園のヤマモモは雄木一本だけなのでこのような果実は実りません。



花言葉: 教訓、一途、ただ一人を愛す

コデマリ 小手毬

中国原産の落葉低木で、名前は小さな
手毬状の花姿に由来します。
細い枝や葉が見えなくなるほど白い多数
の花を咲かせ、枝垂れる姿がとても見事
で、春を代表する花木です。同じ仲間の
ユキヤナギよりも遅く、赤褐色の新梢が
伸びたあと、4月から5月に開花します。
5枚の花弁をもつ小花がまとまって咲き、
およそ3cmの手毬状になります。
秋に紅葉して、冬は葉を落とします。
オオデマリ(大手毬)は名前こそ近いです
が、全く別の植物(スイカズラ科)です。

科目：バラ科シモツケ属

学名：Spiraea cantoniensis

別名：スズカケ(鈴掛)

原産地：中国

開花期：4月～5月



170422



170514



170514



180505



花言葉：優雅、上品、友情、努力

カメラリア‘エリナ・カスケード’

中国の野生種とヒメサザンカの交雑により作出されたツバキ科ツバキ属の「椿」の園芸品種である常緑中低木です。枝が細いので湾曲し、先端が下垂する枝垂れ性の椿で、春、白色で外弁花が薄桃色の小花を咲かせます。秋に葉は赤銅色に変化します。花は蕾の時濃桃色で、開花すると白色になる。

科目：ツバキ科ツバキ属

学名：Camellia tsaii var. *synapica* ‘Erina cascade’

別名：ヒメサザンカ(姫山茶花)

原産地：中国の野生種を日本で改良した園芸品種

開花期：4月

花言葉：高潔な理性、清らかな愛、気取らない美しさ



ヒラドツツジ 平戸躑躅

江戸時代の貿易港・長崎の平戸では、外来と在来が自然交雑したツツジ類が栽培されていました。その中から戦後に選抜された大型ツツジの品種群をヒラドツツジといいます。

オオムラサキをはじめ様々な品種があり、サツキの開花期に先立って枝先に花を数個つけます。花はやや横を向いて咲き、花弁のガイドマークで昆虫を誘うようです。刈り込みに耐え、萌芽力が強いことから街路樹としてよく使われており、おなじみです。花が大輪で美しいので、満開のときの美しさは例えようもありません。

科目：ツツジ科ツツジ属

学名：*Rhododendron × pulchrum*

別名：リュウキュウツツジ、シロトガワツツジ

原産地：日本 花言葉：愛の喜び

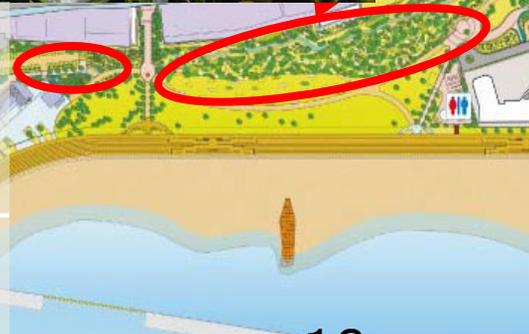
開花期：4月～5月



ツツジの主な園芸品種

- ① ヤマツツジ系
- ② 霧島ツツジ系
- ③ 久留米ツツジ
- ④ 琉球ツツジ系
- ⑤ 平戸ツツジ系

交雑
交雑
交雑



ツツジとサツキの違い

- ・ツツジの開花4月～5月
- ・サツキの開花5月～7月

サツキは元々山奥の岩肌などに自生していたので、ツツジ属の中の一つで5月頃に咲くことから「サツキツツジ」と言われ、サツキのほうが全体的に小さく、花や葉の小さいのが特徴。

ハナカイドウ 花海棠

中国原産の落葉樹で、庭木や鉢花として親しまれています。リンゴの仲間です。日本には江戸時代に入って来ました。漢字で書くと『海棠』です。棠は梨のことで、海棠とは海外から来た梨という意味です。中国では古く牡丹と並び称されて人気の高い花で美人を表す言葉でもありました。

ソメイヨシノが咲き終わる頃に紅色の可憐な花を枝いっぱい咲かせます。花びらは雄しべと雌しべを軽く包むような半開状態になり、完全に開きません。大きさは径4cm前後で一重から半八重です。長めの花茎を伸ばして、垂れ下がるように花を付けるのでスイシカイドウ(垂糸海棠)とも呼ばれます。花の盛りは短いですが、一度見ると印象に残ります。やや病害虫に合いやすいのが庭木としてはネックです。

科目:バラ科リンゴ属

学名: *Malus halliana*

別名:カイドウ(海棠)
スイシカイドウ(垂糸海棠)

原産地:中国

開花期:4月~5月



花言葉:美人の眠り、温和、友情

ハナズオウ 花蘇芳

中国北部～朝鮮半島にかけて分布するマメ科の落葉樹です。日本では樹高2m～5mの低木状に育ちますが、自生地では10mを越す高木になるといわれています。

花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついてるように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲン^①を短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。

科目：マメ科ハナズオウ属

学名：Cercis chinensis

原産地：中国

開花期：4月～5月

花言葉：疑惑、裏切り、不信、高貴



ハナズオウに似た名前のスオウ(蘇芳)はインド、マレー諸島原産の染料が撮れるマメ科の植物。蘇芳(スオウ)色は黒味を帯びた赤色で伝統色である。■

ハナズオウからは染料は採らない。ハナズオウの名前は、花色が蘇芳(スオウ)の材を煮出した染色に似ているため付けられました。

ヒメウツギ 姫空木

ヒメウツギは、日本の関東地方以西、四国及び九州に分布している落葉低木です。日本固有種で、海岸の岩の上など、日当たりのよい場所に自生しています。ウツギに似ていて花が小さいことから「ヒメウツギ」の名があります。美しい花を咲かせることから、古くより庭木として愛されてきた花です。枝先に小さな白い花を穂状に咲かせます。花は5枚の花弁を持っており、花付きが非常に良く、最盛期には株が花で覆われます。

科目：アジサイ科ウツギ属

学名：Deutzia gracilis

原産地：日本

開花期：4月～5月

花言葉：秘密、秘めた愛、古風、潔白



*ウツギ(空木)は別名ウノハナ(卵の花)
童謡「夏は来ぬ」でうたわれている花です。



トベラ 扉

常緑で潮風や大気汚染に強いので海岸に近い場所や公園に多く植えられています。葉は幅2~3cmで先が丸く、表面に光沢があり厚めでやや革質です。葉は乾くと裏側にくるりと巻き込みます。

4~5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株(しゅういしゅ)で果実は雌株にできます。

トベラは枝葉を切ると異臭を発するため、節分にイワシの頭などとともに悪除けとして枝を扉に挿したところからトビラノキといわれ、それが転じてトベラとなったといわれています。

科目:トベラ科トベラ属

学名: *Pittosporum tobira*

別名:トビラノキ、トビラキ

原産地:日本、中国、朝鮮半島南

開花期:4月~5月



花言葉: 偏愛、慈しみ、飛躍

ハイバクシン 這柏槇

常緑かん木で、匍匐性。主幹を認めず枝は横走し、枝端上向する。樹皮は赤褐色、樹冠は帯白青緑色をなす。葉は大多数針葉であるが、老成すると鱗葉を生じ、枝は平行に斜上する。通常雌雄異株。球果は、圧偏球形、初め緑色で2年目に成熟して紫黒色となる。

イブキ(バクシン)の変種であるが、葉の様子や姿かたちは大きく異なる。老木では時としてイブキのような鱗片葉となるとのことで、通常は3輪生の針葉。強剪定したカイズカイブキの杉葉をイメージすると、この仲間であることに納得できる。海岸に生育する植物は乾燥に強いことが多いが、ハイバクシンも例に漏れず、グランドカバーとして植栽される。

科目:ヒノキ科バクシン属

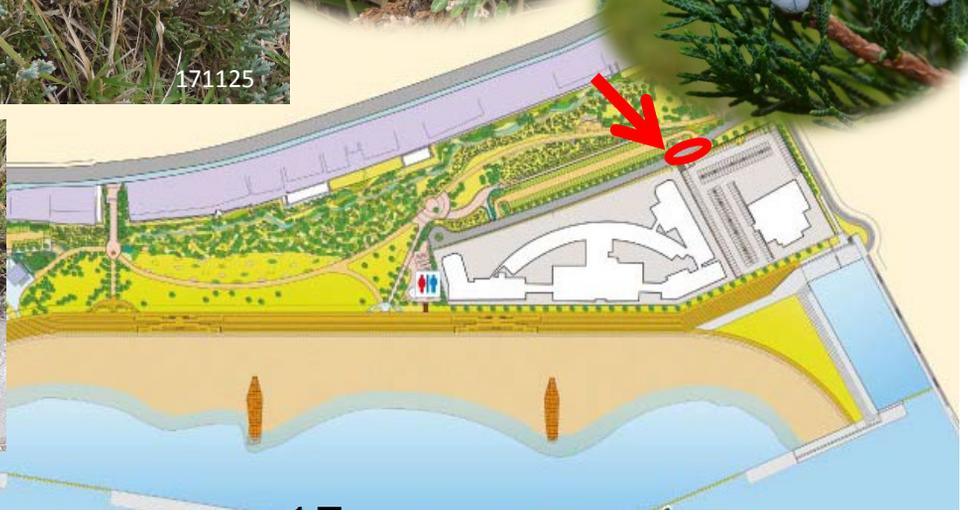
学名: *Juniperus chinensis* var. *procumbens*

別名: イワダレネズ(岩垂杜松)

原産地: 日本

開花期: 花4月 実10月

花言葉: 援助、保護



ハイネズ 這杜松

海岸の砂地に見られる常緑低木。幹はほふく性で多数分枝し、周囲に広がる。針葉は3個輪生し、長さ約2cm。球果は直径1cmほどで、翌年の秋に緑色～紫黒色に熟し、白いろう質に覆われる。ハイネズは「地を這って育つネズミサシ（鼠刺し）」という意味。ネズミを刺すほど葉が硬いことに由来する。ネズミサシは同属の高木で、チクチクした葉をネズミ除けに使うことから。

科目：ヒノキ科ビャクシン属

学名：Juniperus conferta Parl.

別名：ネズミマツ

原産地：日本

開花期：4月～5月



クロマツ 黒松

針葉は二葉で、7~12cmの長さで幅が1.5~2mm。球果は4~7cmの長さである。樹皮は灰黒色で厚く、亀甲状に割れ目が入りはがれる。

アカマツと比較して黒っぽい樹皮をしており、名前はこれによる。針葉もアカマツより硬く、枝振りも太いことから、別名「雄松(オマツ)」とも呼ばれる。一方、アカマツは「雌松(メマツ)」と呼ばれる。

科目：マツ科マツ属

学名：Pinus thunbergii

別名：オマツ(雄松)

原産地：日本、朝鮮半島

開花期：4月~5月

雄花



180414

雌花



180408



150411

クロマツ

- ・海辺に生える
- ・幹灰黒色
- ・新芽 白い
- ・葉はチクチク痛い
- ・雄松(オマツ)

アカマツ

- ・山地に生える
- ・幹赤茶色
- ・新芽 茶色
- ・葉は柔らかい
- ・雌松(メマツ)



ウバメガシ 姥目櫨

ウバメガシは沿岸地域の急傾斜地などに生育する常緑樹です。ドングリがなることでもわかるように、カシの仲間です。ウバメガシのドングリは殻斗(かた)が鱗状(ウロコ模様)。ウバメガシの葉は堅く、乾燥に強い抵抗力を持っています。瀬戸内海気候と同様に、温暖・乾燥を特徴とする地中海気候の地域では、やはり葉が堅い常緑の樹木からなる、堅葉樹林が発達します。瀬戸内海地域の急傾斜地は、温暖・乾燥であるとともに、地形的な要因に伴う保水力の低さ、そして汐風が当たるという大変厳しい場所です。このような場所にウバメガシは生育しています。

ウバメガシは備長炭とよばれる良質の木炭の原料として重用されました。名前の由来は新芽が褐色であることを、老女にみたてたためという。刈り込みに強く、乾燥にも強いために生け垣にもよく使われている

科目：ブナ科コナラ属

学名：Quercus phillyraeoides

別名：ウバメ、イマメガシ、バベ

原産地：日本、中国、濟州島

開花期：4月～5月

花言葉：良質な

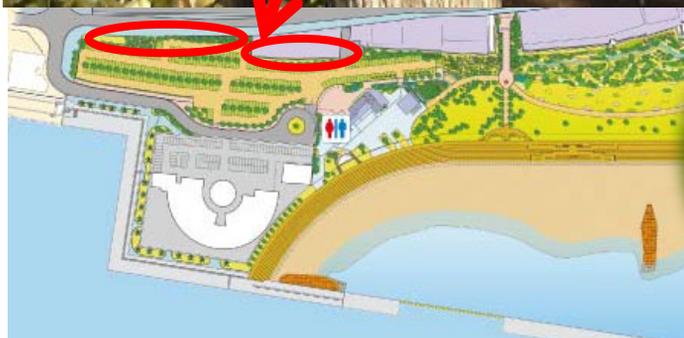


雄花

180414



170206



シラカシ 白欐

シラカシは本州から九州、中国にも分布する常緑の高木。葉は長さ4~13cm、やや皮革質で端正なイメージがある。裏面は緑白色であるが、あまり白くはなく、やや白味がかかる程度。4~5月に尾状の雄花序が下がり、堅果(ドングリ)はその年の秋に稔る。殻斗(かくと)は6~8の環があるのが特徴である。

山地に生育している状態では直幹がすらりと伸びて、樹高は20mほどになる。和名は葉の白さではなく、材が白い事に由来する。器具材に利用されてきたが、現在では公園樹や庭木としてよく利用されている。関東地方では極普通に生育するカシであり、生け垣・防風林として仕立てられることも多い。

科目: ブナ科コナラ属

学名: *Quercus myrsinaefolia*

別名: クロカシ

原産地: 日本、朝鮮半島

開花期: 4月~5月

花言葉: 勇気、力、長寿



・アラカシと比べるとシラカシの葉は細長くて薄く、色も薄い。また、アラカシは葉の先端付近のみにギザギザ(鋸歯)があるのに対して、シラカシは葉の縁すべてが細かにギザギザしている。

・シラカシの実(ドングリ)はアラカシに比べると細長くて小ぶりのものが多い。



・ブナ科コナラ属の常緑性 = 欐(カシ) = LIVE OAK

・ブナ科コナラ属の落葉性 = 櫟(ナラ) = OAK(オーク)

アラカシ 粗榿

アラカシは本州（宮城県、石川県以西）・四国・九州・沖縄、朝鮮からアジア東南部に分布する常緑の高木。常緑カシの中では二次林的性格が強く、萌芽性が高く、多幹になっているものも多い。

生け垣にもよく植栽されており、棒ガシなどとも呼ばれている。植栽する際に棒のように切りつめて植栽するからではなかろうか。関東地方ではシラカシによる生け垣が多い。シラカシに比べて芽だしが早く、ほぼ落葉樹の芽出しと同じ時期に新芽が出て、春の到来を感じることができる。

アラカシの葉はうどん粉病にかかりやすい点は、庭木としては欠点であろう。葉の表面に粉を吹いたような病斑ができ、次第に広がっていく。秋から春にかけて、日陰の葉がかかることが多いが、日向の葉にも発生することがある。

科目：ブナ科コナラ属

学名：Quercus glauca

別名：ボウカシ（棒榿）

原産地：日本、朝鮮半島、東南アジア

開花期：4月～5月



枝の出方が荒いこと、幹に割れ目が多くて粗い感じがすること、材が堅いことなどから「粗い堅し」→「アラカシ」と呼ばれるようになった。

花言葉：勇気、力、長寿

オリーブ Olive

葉が小さくて硬く、比較的乾燥に強いことからスペインやイタリアなどの地中海地域で広く栽培されている。

多くの品種では自家受粉できない。DNAが同一の花粉には反応せず実をつけないことが多い(自家不結実性)。このため、オリーブは2本以上隣接して植えた方がよいとされる。

果実は油分を多く含み、主要な食用油の一つであるオリーブ・オイルの原料である。オリーブの果実は油を搾るほか、食用にされ、ピクルスやピザの材料としたり、塩漬けにしてカクテルのマティーニに必須の材料である。

オリーブの木材は硬く(爪の先で押してもほとんど傷つかない)重く(比重は約0.9)緻密で、油分が多く耐久性があり、装飾品や道具類、特にまな板、すりばち、すりこぎ、スプーン、調理用へらなどの台所用品を作るのによく用いられる。木製品としてはかなり高価である。日本では印鑑の材料にされることもある。

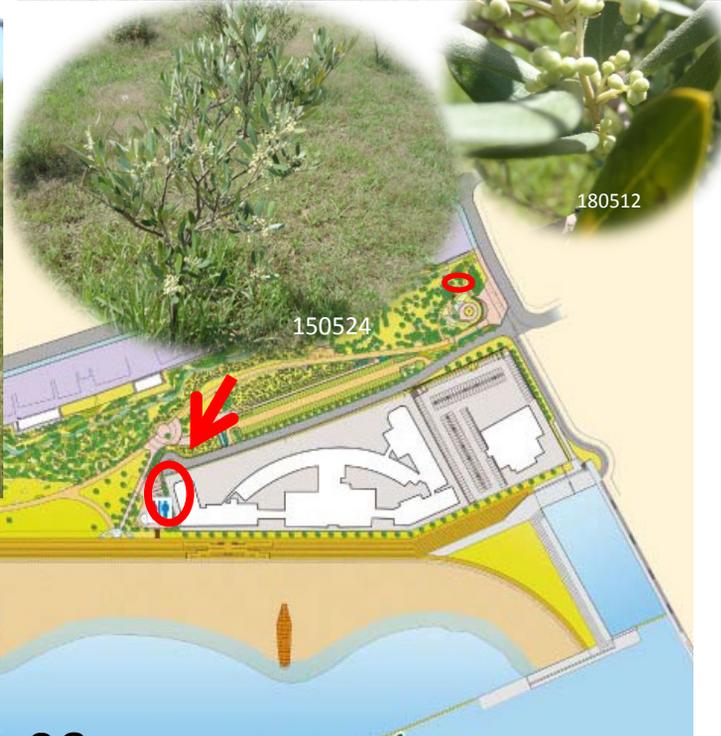
科目:モクセイ科オリーブ属

学名: *Olea europaea*

原産地: 中近東、地中海、北アフリカ

開花期: 4月~6月

花言葉: 平和、安らぎ、知恵、勝利



ピラカンサ バラ科トキワサンザシ属の総称

ピラカンサはトキワサンザシ、タチバナモドキ、カザンデリマ等のバラ科トキワサンザシ属の種類総称です。

春～初夏に、木全体が真っ白に見えるほどたくさんの白い小さな五弁花を咲かせます。花が終わった秋～冬に、赤や橙、黄色の小さな実を枝が撓むほど沢山付けます。果実は鳥の好物なので、庭や公園等に植えられバードウォッチングを楽しむ人も多いです。枝には刺があります。

科目：バラ科トキワサンザシ属

学名：Pyracantha spp.

別名：トキワサンザシ、タチバナモドキ

原産地：中国、ヨーロッパ南部

開花期：4月～6月

果実鑑賞期：10月～2月



花言葉：美しさはあなたの魅力、快活、愛敬、慈悲

ハマナス 浜梨 浜茄子

バラの仲間、日本では古くから精油の採取や、漢方薬として利用してきました。野生のバラの仲間では最も大きな花です。

細かいトゲが沢山ある枝先に、夏になると赤紫色や白色の花を咲かせます。耐寒性があり少し寒い所で育つ北海道の花です。

江戸時代にオランダ人医師のシーボルトによってヨーロッパへともたらされ、バラと交配させ様々な園芸品種がつけられるようになりました。

果実(偽果)は赤く熟し、甘酸っぱい梨に似た味がすることから「浜梨」と呼ばれていたのが訛って「ハマナス」になったようです。

果実はローズヒップと呼ばれ食用になります。

科目：バラ科トバラ属

学名：Rosa rugosa

別名：ハマナシ、ローズヒップ(実)

原産地：東アジア

開花期：4月～7月

花言葉：香り豊か、あなたの魅力にひかれ
ます、旅の楽しさ、見栄えの良さ、
悲しくそして美しい



180512



180512



180512

ローズヒップ



180621



シャリンバイ 車輪梅

本州西部、四国西南部、九州の海辺などに分布する常緑性の低木です。

小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせるところからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。葉は濃緑色で光沢があります。1年目の若い枝には茶色い毛が生えており、その後生長するとなくなります。

樹皮や材にはタンニンを多く含んでおり、奄美大島では煎じたものを大島紬の染料として利用します。

科目：バラ科シャリンバイ属

学名：Raphiolepis umbellata

別名：夕チシャリンバイ、ハマモッコク

原産地：日本、朝鮮半島

開花期：5月～6月

170521



車輪状の小枝



花言葉：純真な心

マルバシャリンバイ 丸葉車輪梅

マルバシャリンバイ(丸葉車輪梅)は、葉が丸いシャリンバイ(車輪梅)です。

花は白～薄紅色で、晩春にウメ(梅)に似た五弁花を咲かせます。晩夏～秋、黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。

今では、マルバシャリンバイもシャリンバイと同じ花として扱われるようになりました。

科目：バラ科シャリンバイ属

学名：Raphiolepis umbellata

別名：ラフィオレピス

原産地：日本、朝鮮半島

開花期：5月～6月

成実期：8月～9月



花言葉：夢見る心地、純な心

ベニカナメモチ 紅要藜

春先に葉が紅葉し、冬に緑色となる一風変わったバラ目バラ科カナメモチ属の常緑広葉木小高木です。新芽の頃の紅葉は、アントシアニンという成分で葉が赤くなります。春～初夏、泡を吹いたように白い小さな五弁花を枝先に多数つけて散房状花序を形成します。カナメモチの変種で特に新芽の紅が強いものをベニカナメモチとして区別している。似た木にカナメモチとオオバカナメモチの交配品種であるレッド・ロビン(西洋要餅)があります。レッド・ロビンはベニカナメモチより新芽の赤が更に濃く、葉が大きくて柔らかく、葉縁のギザギザ(鋸歯)が控えめです。どの木も庭の生垣や街路樹、公園樹として植えられます。

科目:バラ科カナメモチ属

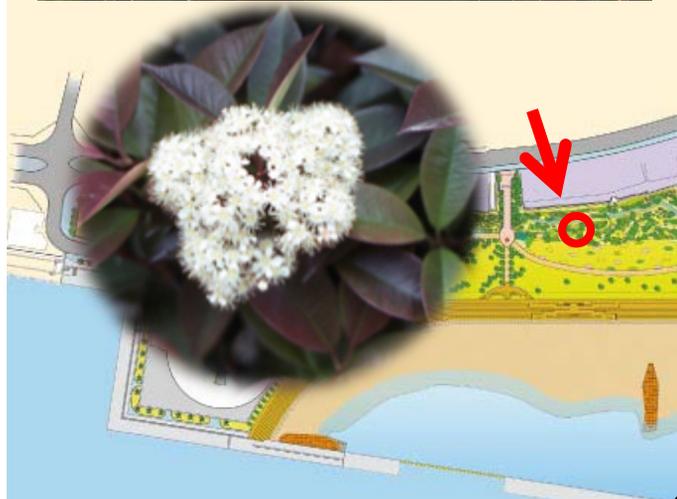
学名: *Photinia glabra*

別名: カナメモチ、アカメモチ

原産地: 日本、中国

開花期: 5月～6月

花言葉: 賑やか



クログネモチ 黒鉄藜

日本の関東より南、台湾、中国南部など比較的温暖な地域に分布する常緑性の高木です。葉は卵形で濃緑色、やや厚くて革のような質感があり表面はツヤツヤとした光沢があります。葉の縁はぎざぎざがなくなめらかで見た目は柔らかな雰囲気です。

5月～6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます。雄株と雌株があり(雌雄異株:しゅういしゅ)実を付けるのは雌株のみです。

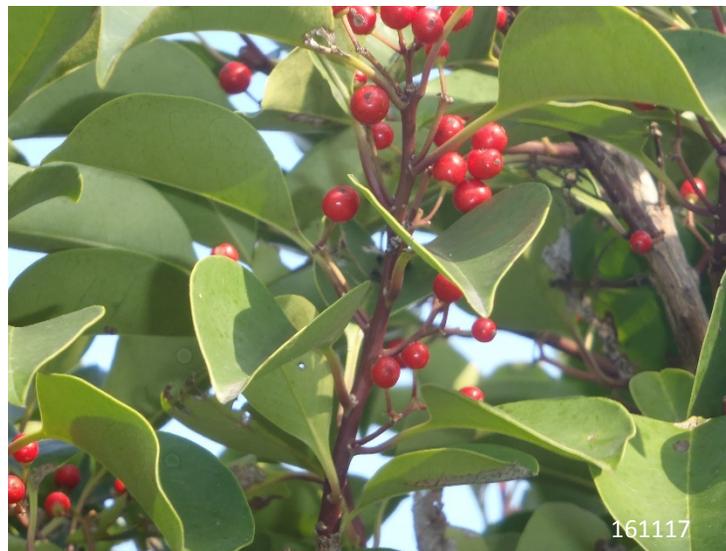
科目:モチノキ科モチノキ属

学名: *Ilex rotunda*

別名: フクラモチ フクラシバ

原産地: 日本 台湾 中国 インドシナ

開花期: 5月～6月



モチノキの仲間で、若い枝や葉柄が黒紫色であることや、葉が乾くと鉄色になることからクログネモチと名付けられ、「苦労がなく金持ち」に通じるネーミングです。



花言葉: 魅力、寛容、執着、仕掛け

タラヨウ 多羅葉

日本の関東より南の地域、中国に分布する常緑性の高木です。葉は卵形でやや厚くて革のような質感があり、表面はツヤツヤとした光沢があり、縁に浅くギザギザが入ります。5月頃に前年伸びた枝に付いた葉の付け根から緑黄色の小さな花をたくさん咲かせますが、小さいうえに色も地味なのであまり目立ちません。花後に実を付け秋になると真っ赤に熟します。雄株と雌株があり(雌雄異株:しゅういしゅ)実を付けるのは雌株のみです。葉の裏面に傷をつけると字が書けることから、「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ、各地の郵便局に植栽されています。

科目:モチノキ科モチノキ属

学名: *Ilex latifolia*

別名: ハガキノキ

原産地: 日本、中国

開花期: 5月~6月



170514



171027



171027

170514

花言葉: 伝える

ハコネウツギ 箱根空木

初夏、白や淡紅色、紅色の小花を同じ木に咲かせるマツムシソウ目スイカズラ科タニウツギ属の落葉低木です。花は漏斗(ろうと、じょうご)状をしています。一本の木や枝に、赤花と白花を付けることから、源氏の白旗、平家の赤旗をもじって、ゲンペイウツギ(源平空木)とも呼ばれます。色が混じるのは、咲き始めが白で、その後、淡紅色、紅色と花色が濃くなるためです。花は釣鐘形をしており先端で5裂します。他の花で、このように赤花と白花が混じって咲く木に、ゲンペイウメ(源平梅)があります。

科目: スイカズラ科タニウツギ属

学名: *Weigela coraeensis*

別名: ゲンペイウツギ(源平空木)

原産地: 日本

開花期: 5月~6月



花言葉: 移り気

ハクチョウゲ 白丁花

中国、台湾、インドシナなどに分布する常緑性の低木で、江戸時代から生垣や植込みなど庭園に利用されてきました。5月～6月に1センチ足らずの星形の白い花を株いっぱい咲かせます。遠目からではあまり気づかないですが、シンプルでなかなか可愛い花です。花にはおしべの長いものと短いものがありますが、一つの株に両方の花が咲くことはないようです。花の外側や新しい葉の軸は紫色を帯びる。

ハクチョウゲは丁字(フトモモ科の常緑高木)に似た白い花を咲かせるという意味で、白丁花の漢字を当てますが、鳥の白鳥とは関係ありません。

科目：アカネ科ハクチョウゲ属

学名：Serissa japonica

別名：バンティシ(満天星)

原産地：中国 台湾 インドシナ

開花期：5月～6月



170514
返り咲き



花言葉：純愛

ユズリハ 讓葉

大きくなると樹高が15mにもなる常緑性の高木です。葉は長めの楕円形でやや先端が尖り、縁はゆるく波打ちなめらかでぎざぎざはありません。葉の質は厚くて光沢があり色は濃い緑色で葉と枝をつなぐ軸(葉柄:ようへい)の部分が赤みを帯びます。

ユズリハの場合、新旧の葉の世代交代が「若葉が生えそろったら→古い葉が一斉に枯れ落ちる」という風に短期間に行われる上にとてはっきりしているのが特長です。その様子が親(古い葉)と子(若い葉)が世代交代を繰り返し(葉が枯れ落ちて入れ替わり)、家が続いていく(樹が成長していく)という「子孫繁栄」に見立てられ、縁起の良い木とされています。

4~5月になると昨年伸びた葉の付け根あたりに小さな花を総状に付けます。雄と雌が別々の雌雄異株(しゅういしゅ)で雄花には萼(がく)も花びらもなく紫がかかった褐色の葯(やく)だけが妙に目立ちます。

科目:ユズリハ科ユズリハ属

学名: *Daphniphyllum macropodum*

別名: 讓葉

原産地: 日本、韓国、中国

開花期: 5月~6月



171124



雄花



雌花

171124



171125



花言葉: 若返り、世代交代、讓渡

フェイジョア

フトモモ科の常緑低木。果物として食用に栽培されるほか、庭木や生垣用として利用される。

熱帯果樹としては珍しく -10°C ほどまでの耐寒性がある。夏に4cmほどの花を付け、花弁は内側が赤褐色、外側が白色で分厚く、糖分を含んで甘みがある。多数ある赤い雄蕊が非常に目立ち、花はエキゾチックで、果実もグリーンで特徴があり、香りもよいです。多くの品種が自家不結実性(自分の花の花粉を雌しべに付けても実がならない)なので、結実されるためには異品種を並べて植える必要がある

科目:フトモモ科フェイジョア属

学名: *Feijoa sellowiana*

原産地: ウルグアイ、パラグアイ、ブラジル南部

開花期: 5月~6月

成実期: 10月~12月



171014



180609



180609



180709



花言葉: 情熱に燃える心、実りのある人生、
甘美な思いで

ニシキギ 錦木

ニシキギは日本～朝鮮半島・中国にかけて分布する落葉性の低木で、低い山や人家に近い山林などに自生しています。

枝に「翼(よく)」と呼ばれるコルク質の羽が付くのが特長で、類似種のコマユミとも羽があるかないかで簡単に区別できます(姿は非常に似ていますが、コマユミの枝には羽が付かない)。枝に付いた羽の部分を弓矢の羽(矢筈)に例えてヤハズニシキギという別名があります。

春に淡緑色の小さな花を咲かせますがあまり目立ちません。花の大きさは5mm程度で葉の下に隠れる様に咲きます。秋になると果実が熟して裂け、中から赤橙色の種子が顔を出します。葉はだ円形で長さは5cm前後、フチには細かいギザギザがあります。

紅葉は非常に美しいですが、カエデ類と比べると落葉が早く鑑賞期間が短いのが少し難点です。枝をどこで切ってもよく芽を吹くので、生垣に利用されることもあります。

紅葉した美しい姿を「錦」に例えらて「錦木」の名前があります。カエデ(又はニッサシルバチカ)、スズランノキと並び世界三大紅葉樹のひとつです。

科目:ニシキギ科ニシキギ属

学名:Euonymus alatus

別名:ヤハズニシキギ

原産地:日本、朝鮮半島、中国

開花期:5月～6月

紅葉:10月～11月



花言葉:危険な遊び

ネズミモチ 鼠竊

主に海沿いの山野に自生し、生長すると高さ4m-7mの小高木になります。

繁殖力が高く、堅強な性質をもち、都市部の劣悪な環境にも耐える。

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラツパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。幹は灰褐色で枝が細かく出ます。

果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。

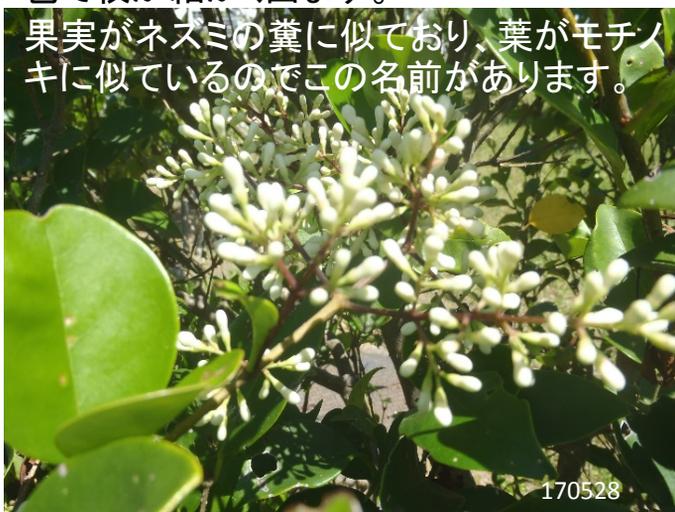
科目：モクセイ科イボタノキ属

学名：Ligustrum japonicum

別名：タマツバキ、テラツバキ

原産地：日本、朝鮮半島、中国、台湾

開花期：6月



シモツケ 下野

日本～中国にかけて分布する落葉性の低木です。シモツケという名前は下野国(しもつけのくに:現在の栃木県)ではじめて見つけれられたところに由来します。ちなみに栃木だけではなく北海道から九州にかけての山地に幅広く自生している花木です。

日本原産で風情のある花を初夏に咲かせます。花は3mm～5mmの小さな花が集まって花序になります。花色は赤紫からピンク、白などあります。地際からたくさんの枝を出して広がり(この状態を「株立ち」といいます)、樹高は1mほどに収まります。葉は長楕円形で長さ5cm～10cm、秋に紅葉します。シモツケ属の仲間にコデマリ、ユキヤナギがあります。

科目:バラ科シモツケ属

学名: *Spiraea japonica*

別名:キシモツケ(木下野)

原産地:日本

開花期:5月～7月



花言葉: 無益、整然とした愛、はかなさ

ガクアジサイ 額紫陽花

日本に自生する原種で、園芸品種であるアジサイのもとになったものである。本種(がくの中に花がある)を改良して装飾花だけにしたものがアジサイである。ガクアジサイの花を一塊(ひとかたまり)と見ると、中心部にある紫色をした小さな珊瑚状のものが花(両性花)で、その周辺部にある小花のように見えるものは装飾花(萼片)です。この花の構造が、額縁のように見えるということで額紫陽花(ガクアジサイ)と呼ばれます。アジサイを大きく分類すると、ガクアジサイ(額紫陽花)、ヤマアジサイ(山紫陽花)、セイヨウアジサイ(西洋紫陽花、ハイドランジア)、カシワバアジサイ(柏葉紫陽花)があります。

科目：ユキノシタ科(アジサイ科)アジサイ属

学名：Hydrangea macrophylla f.normalis

原産地：日本

開花期：5月～7月

花言葉：謙虚



イトラン 糸欄

リュウゼツラン科ユッカ属の常緑多年草。茎はほとんどなく、短い根茎が肥厚して横に這う。葉は叢生(そうせい=草木などが、群がってはえること)し、長剣状で細く、長さ30~45cm、幅2~3cm、しなやかで上半部が垂れ、粉白緑色である。縁(へり)から白い糸となって繊維がほぐれ出るので、この名がある。6~7月ごろ、高さ1~2メートルの花茎に円錐(えんすい)花序をつけ、長さ約4cmの6弁の白色花が下向きに開く。

科目:リュウゼツラン科ユッカ属

学名: *Yucca filamentosa*

別名: ユッカ(ユッカ属の総称として)

原産地: 北米南部

開花期: 6月~7月

「**ユッカ**」はリュウゼツラン科ユッカ属の総称
キミガヨラン(君が代欄)花期春6月頃

葉は長剣状で、下部の葉は外に折れ垂れる。葉先は棘状に鋭く尖り触ると痛い。花は白クリーム色で大きな花序に下向きに咲く。

イトラン(糸欄)花期春6月頃

葉はキミガヨランより細長くしなやかで、地上付近から出て上向きに伸びるが、外側の葉は折れ曲がって垂れる。葉の縁から糸状の繊維がほぐれ出る。

アツバキミガヨラン(厚葉君が代欄)

花期春6月頃と11月頃の2回

葉は大きな短剣状で、厚くて固く垂れない。



170618



花言葉: 勇壮、偉大、勇ましい、私に近づかないで

マサキ 柎

日本、中国を原産とする常緑の広葉樹で、主に葉や樹形を楽しむ庭木です。耐陰性が強く、排気ガスなどの大気汚染や潮風にも比較的強く生長が早いので生け垣によく利用されます。葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3～4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。葉だけでなく、この熟して裂けた実も美しいです。

科目：ニシキギ科ニシキギ属

学名：Euonymus japonicus

別名：シタワレ、フユシバ

原産地：日本、中国

開花期：6月～7月



マサキの名前は冬でも葉っぱが真っ青な木＝真青木からきているという説もあります。

花言葉：厚遇

アメリカノウゼンカズラ

北米原産の落葉ツル植物。

中国原産のノウゼンカズラとそっくりであるが、全体的に小型である。花序(かじょ=枝上における花の配列状態のこと)はノウゼンカズラのように長くならず、一カ所に花が集まって咲く。花は小さく、より花筒が長い。がくは花と同色の赤又は黄色、中国原産のノウゼンカズラはがくが緑色。花の色は濃い赤色が多いが、黄色のものもある。観賞用に庭などで栽培されているが、時折崖地などに野化している。

科目：ノウゼンカズラ科ノウゼンカズラ属

学名：Camptis radicans

原産地：北米

開花期：6月～7月

花言葉：華やかな名誉



ノウゼンカズラは
がくが緑色



バイカウツギ 梅花空木

バイカウツギは高さ約2mの落葉低木で、6月から7月に枝先に白いさわやかな花を咲かせます。また、茎が中空のためにウツギの名前がついています。

花はウメの花(5弁)に似ていますが、花弁は4枚、直径3~4cmの白色で、ほのかな芳香があります。樹形は、枝分かれして成長するためにブッシュ状(主幹がはっきりせず、地際から何本か枝を出し、高さが2mを肥えない樹木のこと)になります。積雪地帯では枝折れを防ぐために雪囲いが必要です。近年ではヨーロッパで改良されたセイヨウバイカウツギ(西洋梅花空木)の園芸品種が流通するようになっています。

科目: アジサイ科バイカウツギ属

学名: *Philadelphus satsumi*

別名: モックオレンジ(西洋梅花空木の種類)

原産地: 日本

開花期: 6月~7月



180512



180505



返り咲き

171104



180512



西洋梅花空木

花言葉: 思い出、気品

モッコク 木斛

モッコクはツバキ科の常緑性の広葉樹。葉は表面に光沢のある長楕円形で濃緑色、やや厚みがあり革質です。葉のフチにはギザギザがなくなめらかで、軸の部分は紅色を帯びます。7月頃になると淡いクリーム色の花をうつむきかげんに咲かせます。花後には球形の果実ができ、秋に赤く色づきます。果実の皮は厚く、熟すと不規則に裂けて中から濃い赤色の種子が顔をのぞかせます。株によっては雄蕊と雌蕊がある両性花を咲かせるものと雌蕊が退化して雄蕊のみ雄花を咲かせる株があります。雄花の株は実を付けません。

科目：ツバキ科モッコク属

学名：Ternstroemia gymnanthera

原産地：日本、朝鮮半島、中国、台湾、東南アジア

開花期：6月～7月

花言葉：人情家



171125

雌花

180709

両性花



雄花

180709

171120

素人目には何の変哲もなく、名前を覚えてもらえない木ではあるが、モチノキ、モクセイとともに「三大庭木」にも数え上げられ、地味ですが風格があり、庭の主役として扱われてきました。



171120



171214

ネムノキ 合歡木

日本(本州～沖縄)、朝鮮半島、中国などに分布する落葉性の樹木で大きくなると高さ10～15mほどに成長する高木です。細長いほわほわの刷毛のような形をした淡紅色の花を梅雨頃に咲かせます。ひとつの花に見えるものは実は小さな花が10～20個集まったもので、淡紅色の糸のような部分は花びらではなく、長く伸びた雄蕊(おしべ)です。小さな花からたくさんの雄蕊が出て、それが集まってひとつの形になります。花後に幅の広い長さ10cm～15cmの豆莢(まめさや)をたくさん付け、落葉後まで残ります。タネは長さ1cmほどの平たい楕円形です。

科目: マメ科ネムノキ属

学名: *Albizia julibrissin*

原産地: 日本、朝鮮半島、中国

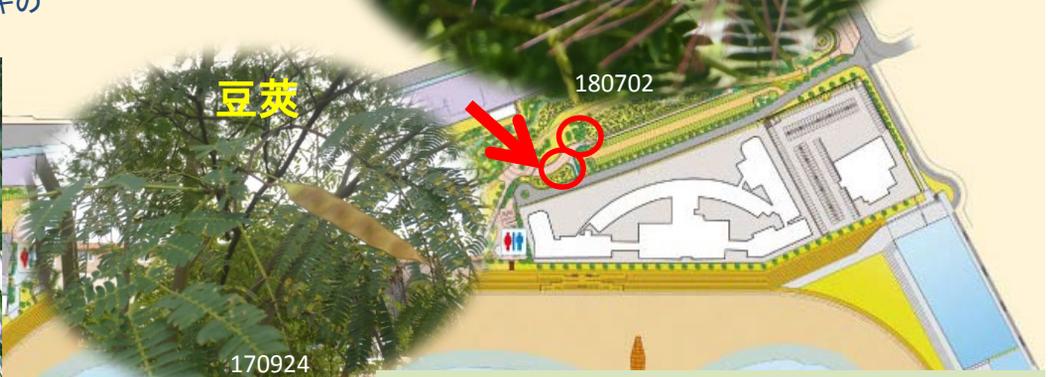
開花期: 6月～8月



葉は夕方になると閉じ、その姿が眠りにつくように見えるところからネムノキの名前がつけました。



豆莢



花言葉: 歓喜、繊細、夢想、安らぎ

ヒペリカム・ヒドコート(大輪金糸梅)

ツバキ目オトギリソウ科オトギリソウ属の耐寒性半落葉低木です。

葉は、楕円形で緑色をしており、秋に紅葉します。枝に艶のある黄色い五弁の丸花を多数つけます。花は全開します。キンシバイ(金糸梅)の園芸品種で、似ていますが、葉の付き方がキンシバイは2列対生、大輪金糸梅は十字対生に付きます。また、金糸梅に比べて大輪金糸梅は花弁が大きく平開咲きで、葉も大きいです。金糸梅は花弁は小さく平開しない。大輪金糸梅(ヒペリカム・ヒドコート)は、次頁の西洋金糸梅(ヒペリカム・カリシナム)とも似ています。

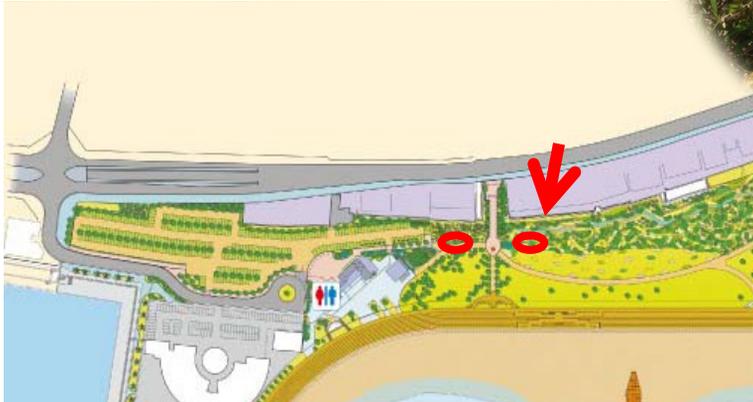
科目:オトギリソウ科オトギリソウ属

学名: *Hypericum patulum* 'Hidcote'

別名: 大輪金糸梅

原産地: 中国原産の金糸梅の園芸品種

開花期: 5月~7月



「金糸梅」

花径は大輪金糸梅より小さく、平開しない

「大輪金糸梅」

金糸梅の園芸品種で、それより大きな花で平開咲き



花言葉: きらめき、悲しみは続かない

ヒペリカム・カリシナム(西洋金糸梅)

初夏に黄色い五弁花を咲かせるツバキ目オトギリソウ属の小低木です。葉は卵状長楕円形で暗緑色、長さは5~10cmある。花は6月~8月に咲き、黄色で直径7~8cmある大形の花をつける。花の中央には、1つの基部から出た長い雄蕊が多数あり、ほぼ同じ高さで整然と纏まってつきます。さく果(成熟すると複数室に裂けて種子を放出する)は卵形で褐色に熟する。小アジア原産で、耐寒性は比較的弱い。庭木、グランドカバー、ロックガーデン用とする。

科目:オトギリソウ科オトギリソウ属

学名: *Hypericum calycinum*

別名: 西洋金糸梅

原産地: ヨーロッパ南部、ブルガリア、トルコ

開花期: 6月~8月



170610



160611

次頁のビヨウヤナギに似ているが、雄蕊が直線的に伸びてその数も多いのが特徴。



170610

170610

花言葉: きらめき、元気、有用

ビヨウヤナギ 美容柳

中国原産。約300年前に日本に渡来した。半常緑性の小低木で、よく栽培されている。花期は5-7月頃で、直径5センチ程度の黄色の5枚の花弁のある花を咲かせる。キンシバイにも似るが、特に長い雄蕊が特徴、よく目立つ。雄蕊の基部は5つの束になっている。葉は十字対生する。枝先がやや垂れ下がり葉がヤナギに似ているので、ビヨウヤナギと呼ばれるが、ヤナギの仲間ではない。

科目：オトギリソウ科オトギリソウ属

学名：Hypericum chinense

別名：美容柳、未央柳

原産地：中国

開花期：6月～7月

花言葉：多感、薬用、有用、幸い



前頁の西洋金糸梅(ヒペリカム・カリシナム)に似ているが、雄蕊の数が少なく(バラバラの感じ)、雄蕊が直線的ではなく内側に曲線を描くように伸びるのが特徴。



キョウチクトウ 夾竹桃

インド原産、強い日射しと澄んだ空が似合う、夏を代表する花木のひとつです。非常に頑健で病気・害虫にも掛かり難く大気汚染などによく耐えて防音効果も期待できるため、工場や車の往来が多い幹線道路の緑化に利用されます。葉は濃緑色で光沢があり、夏になると枝の先端に4cm前後の花をたくさん咲かせます。花には芳香があります。花色は紅や白の一重が基本ですが、淡い黄色や八重咲き、葉に模様の入るものなどがあります。花はつけ根が筒状で、先端が大きく分かれて花びらになります。花びらは左右非対称でややひねりの効いた船のスクリューのような形になっています。花や木や葉や実も全体に毒がある。燃やすと毒性のある煙が出る。自宅の焼却炉で燃やしてはいけません。

科目：キョウチクトウ科キョウチクトウ属

学名：Nerium oleander var.indicum

原産地：インド

開花期：6月～9月

花言葉：注意、危険、用心



和名は、葉がタケに似ていること、花がモモに似ていることから夾竹桃。



アベリア

アベリアとはツクバネウツギ属のラテン名で、園芸で単に「アベリア」というと、19世紀中期にイタリアで作出された交配種を指すのが一般的です。

いくつかのツクバネウツギ属の交配から生まれた園芸品種で、初夏から秋までの長期間にわたり白や薄ピンクの小さな花を咲かせます。枝先に釣鐘状の小さい花を多数房状に咲かせ、花の香りは非常に強い。葉は小さめの緑色で、斑入りや黄金葉の改良種もあります。

寒冷地ではほぼ落葉しますが、暖地では葉をかなり残して越冬します。とにかく丈夫な花木で、刈込にも強く公共施設の生垣によく用いられています。

科目：スイカズラ科ツクバネウツギ属

学名：Abelia × grandiflora

別名：ハナツクバネウツギ

原産地：園芸品種

開花期：6月～10月



170724



180709

150607

180709



花言葉：謙遜、謙讓、強運

アベリア・ホープレイズ

アベリアの斑入り改良種で、黄色の外斑と長期間咲き続けるピンク(白)の小花が美しい。花の特徴は枝先に円錐花序(下のほうになるほど枝分かれする回数が多く、全体を見ると円錐形になる)を出し、白ないし淡い紅色を帯びた花を付ける。乾燥に大変強いので、今後サツキなどに取って代わる植込み材料になるでしょう。

科目：スイカズラ科ツクバネウツギ属

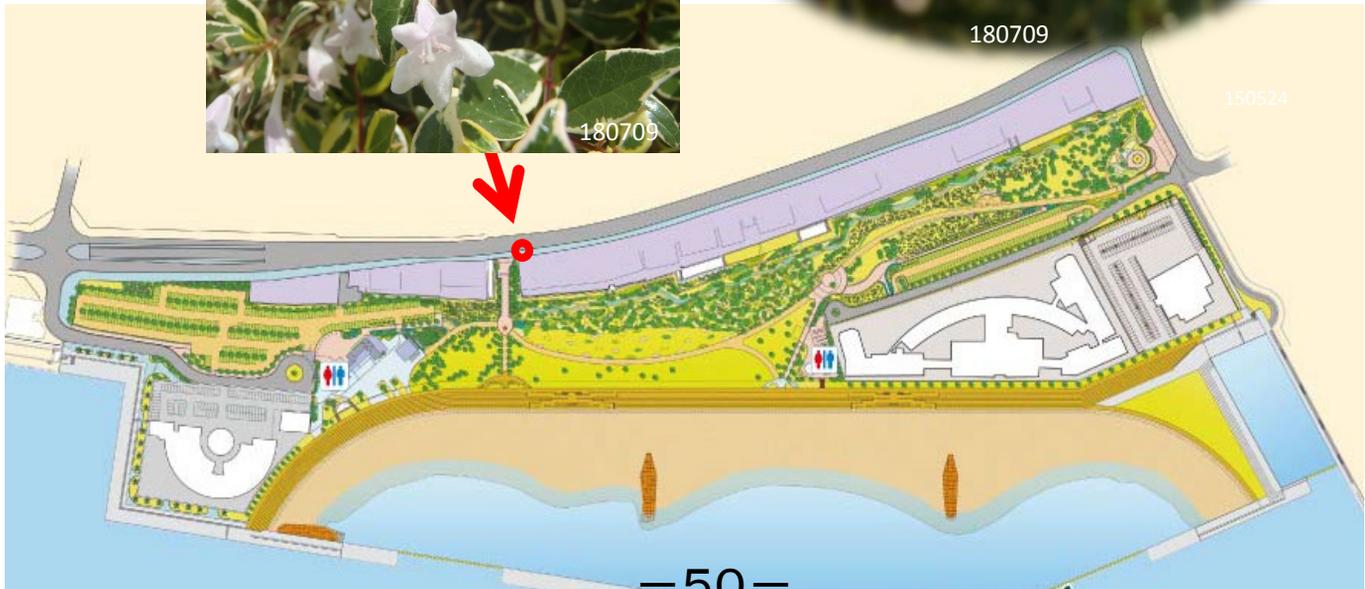
学名：Abelia × grandiflora 'Hopleys'

別名：ハナツクバネウツギ

原産地：園芸品種

開花期：6月～10月

花言葉：謙遜、謙譲、強運



ハマゴウ 浜栲、蔓荊

ハマゴウは海岸の砂地に生える常緑の低木。本州・四国・九州からアジア東南部から南大西洋、オーストラリアにも分布している。葉の裏面には灰白色の毛が密生しており、白い。夏に美しい唇形の花を咲かせる。花冠は長さ1~1.5cmで青紫色。おしべは4本。砂質の海岸に生育し、砂質海岸と周辺森林との境界部分に群落を形成していることが多い。地表を這って群落を拡大するが、花を咲かせるときには先端部が立ち上がって高さ60cmほどになる。

別名はハマハイ、ハマボウ(アオイ科にもハマボウがあるので混同しないよう注意)。

科目: シソ科ハマゴウ属

学名: *Vitex rotundifolia* L. fil.

別名: ハマハイ、ハマボウ

原産地: 日本、朝鮮半島、台湾、東南アジア

開花期: 7月~9月



花言葉: 愛の喜び

ハマボウ 浜朴

関東以西の本州・四国・九州に分布し、韓国にも分布する落葉低木。内湾や河口の海岸近くの塩性湿地(塩生植物)に生育する。幹は枝分かれし、樹高は3mほど。7月から8月にかけて、オクラやケナフに似た黄色の美しい花を咲かせる。中心部は暗赤色であり、中心の雌しべに多数の雄しべが合着している点は、アオイ科の特徴である。朝開いて夕方には咲き終わる一日花だが、株全体では次々と花をつける。日本原産のハイビスカスである。

科目:アオイ科フヨウ属

学名:Hibiscus tiliaceus

別名:黄槿(ハマボウ)

原産地:日本、韓国濟州島

開花期:7月~8月



*「ハイビスカス」はアオイ科フヨウ属の総称であるが、日本語の「ハイビスカス」はブツウゲ等を南国のイメージのある植物をハイビスカスと言い、より狭い意味で用いられることが多い。



花言葉:楽しい思い出

フヨウ 芙蓉

日本(四国・九州・沖縄)、台湾、中国、済洲島などを原産とする、やや寒さに弱い半耐寒性の樹木です。幹は直立してよく枝分かかれし、夏から秋にかけて最大直径15cmほどの花を咲かせます。花色は品種によって白～ピンクまで色幅(濃淡)があります。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花で、ひとつの花自体は短命ですが最盛期は暑さにめげず毎日新しい花を途切れなく咲かせてくれます。花後には果実ができて晩秋から冬にかけて黄褐色に熟し、冬は落葉します。

咲き始めは白色で時間が経過するにつれてピンクがかってきて夕方しぼむ頃には濃いピンク色になる八重咲きのスィフヨウ(酔芙蓉)などの変種が知られています。これは徐々に赤みがかってくる花色の変化を酔っぱらっていくのに例えて付けられた名前です。

古くには芙蓉の樹皮は下駄の鼻緒や和紙の補強剤、縄などに加工されて身近な生活用品として使われていました。

科目:アオイ科フヨウ属

学名:Hibiscus mutabilis

別名:木芙蓉(ハス水芙蓉として区別)

原産地:中国、台湾、日本

開花期:7月～10月



花言葉:繊細な美、しとやかな恋人

ムクゲ 木槿

中国原産でシリア、インドなど東南アジアまで自生している高さ3～4mになる低木です。韓国の国花でもある。

花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがあり花びらの形や枚数によってさらに細かく分類されます。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花ですが、夏から秋に絶え間なく新しい花を次々と咲かせます。夏の炎天下の中でも花を咲かせ、冬の寒さにもめげない気丈な花木で、北海道南部～沖縄までほぼ日本全国で植栽できます。

科目：アオイ科フヨウ属

学名：Hibiscus syriacus

別名：ハチス キハチス

原産地：中国、東南アジア

開花期：7月～10月

フヨウとムクゲ

フヨウ(芙蓉)とムクゲ(木槿)は同じアオイ科フヨウ属の樹木で、花の咲く時期や姿形も何となく似通っているので間違えることがよくあります。フヨウはよく枝分かれして上だけでなく横にも枝がよくはりこんもりと茂るのに対して、ムクゲはすらっと直立した樹形になります。また葉や花もフヨウの方がムクゲよりも明らかに大きいので、案外ちゃんと見れば見分けが付きます。



花言葉：信念、新しい美

サルスベリ 百日紅

中国南部を原産とする夏を代表する花木の一つで、冬は落葉します。

春に伸びた枝の先端に夏から秋にかけて花を咲かせます。花色は白、ピンク、紅、紅紫などがあります。花びらは6枚でフチが強く波打ちます。満開時期の姿はよく目立ちます。花後に球形や楕円形の果実をつけ、熟すとはじけてタネが散ります。タネには薄い羽のような翼(よく)が付いています。樹皮は褐色で所々はがれて白い肌があらわれ、縞模様になります。樹皮のはがれた部分はずるずるとしているところから、「猿も滑って落ちる→猿滑り」というのが、名前の由来とされています。漢字では「百日紅」という漢字を当てますが、これは開花期間が長いところにちなみます。

科目：ミソハギ科サルスベリ属

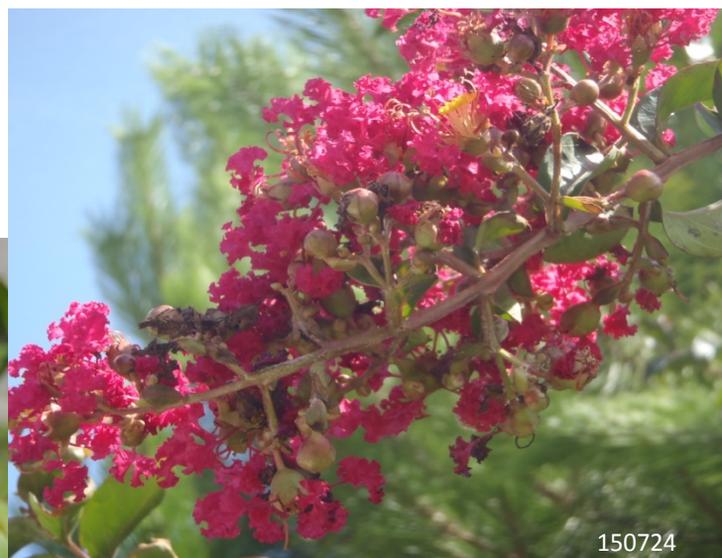
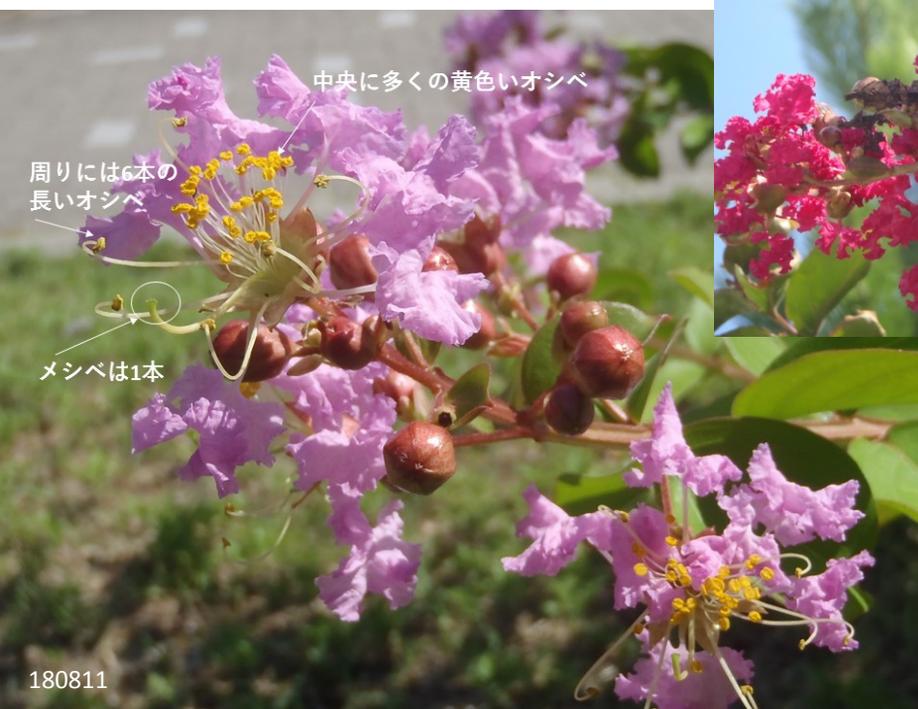
学名：Lagerstroemia indica

別名：百日紅=ヒャクジツコウ

原産地：中国

開花期：7月～10月

花言葉：雄弁、愛嬌、不用意



クコ 枸杞

東アジア(中国～日本)原産のナス科の落葉低木。食用や薬用に利用される。日当たりのよい原野、海岸、川辺の土手、林縁、道ばたなどに多い。

高さ1～2mになる。枝は稜があり、葉腋(ようえき=葉の付け根部分)や枝先には刺がある。開花期は夏-初秋で、直径1cmほどの小さな薄紫色の花が咲く。果実は長さ1-1.5cmほどの楕円形で、赤く熟す。

科目:ナス科クコ属

学名: *Lycium chinense*

別名:

原産地: 中国、日本、東南アジア

開花期: 7月～11月

花言葉: お互いに忘れましょう、誠実



ヒイラギモクセイ 柗木犀

ヒイラギ(柗)とギンモクセイ(銀木犀)の交雑種と考えられている。生垣などによく利用されている。常緑小高木。花期は10月で親譲りの良い香りのする白い花を咲かせ、葉腋(ようえき=葉の付け根)に束生する。雌雄異株(しゆういしゆ)で、日本ではほとんど雄株中心で流通していません。普通に見られる花は雄花で結実しません。取り木で繁殖させます。葉の大きさはキンモクセイ程ですが、ヒイラギのように縁には棘があります。ギンモクセイの葉にも僅かに棘がありますが、ヒイラギモクセイほどはっきりしたトゲトゲではない。

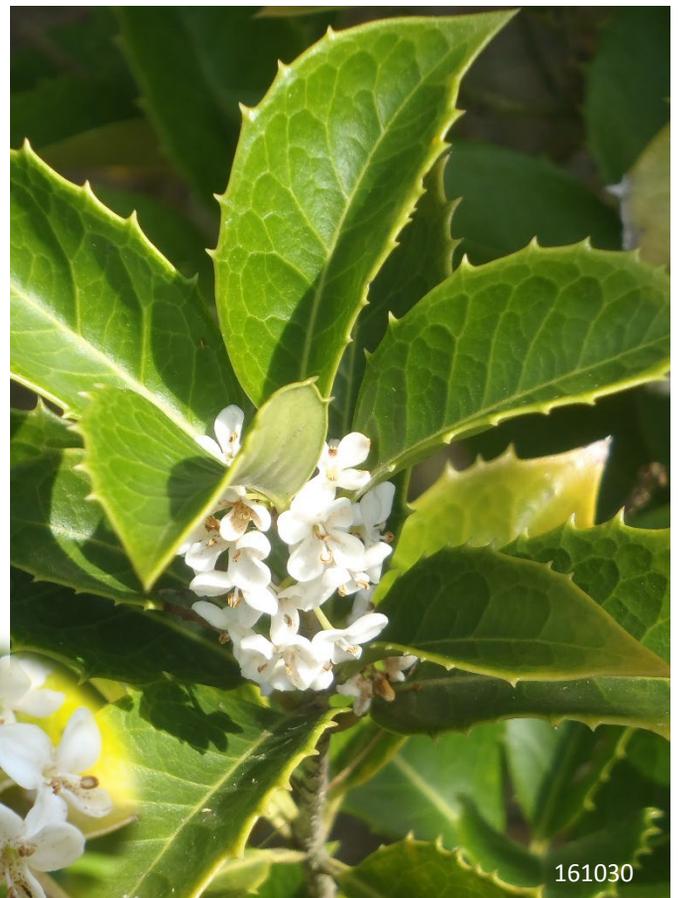
科目:モクセイ科モクセイ属

学名: *Osmanthus × fortunei*

原産地: 柗と銀木犀の交雑種

開花期: 10月

花言葉: ためらい、遅延、躊躇、あの日を思い出す



161030



181027

181027



ナワシログミ 苗代茱萸

ナワシログミは中部地方以西の本州、四国、九州、中国に分布する常緑の低木。枝の先は、しばしば棘になる。マツ林などの明るい二次林や林縁などに生育している。葉の表面には星状の毛が点々とあり、独特の模様となっている。裏面は星状毛が密生しており、銀白色で、点々と褐色の鱗片がある。花は10月頃の稲刈りの季節に開花する。花弁が4枚のように見えるが、実は花弁はなく、顎であり、雄しべは4本。果実は4月から6月の「苗代」を作るころに赤熟するので、ナワシログミの名がある。

根には放線菌が共生しており、空中チッ素の固定能力がある。この性質に着目され、荒れ地の緑化などに利用されることがある。

科目：グミ科グミ属

学名：Elaeagnus pungens

別名：トキワグミ、タワラグミ

原産地：日本

開花期：10月～11月

成実期：4月～6月



サザンカ 山茶花

花の無い時期に咲く貴重なツバキ科ツバキ属の耐寒性常緑高木で、日本の固有種です。花色には桃色、赤、白等があります。同属同科の ツバキ(椿)と似ており、見分け方が難しい。サザンカは、葉縁がギザギザしており、花卉がバラバラに散り、ツバキは首から落ちる。地面に落ちた花で確認するのも一つの方法です。サザンカも、ツバキと同様に、実がなり、油も採取されます。ツバキの開花期は12～4月です。

* サザンカ(山茶花)の一種としてカンツバキ(寒椿)を捉(とら)えることもあります。

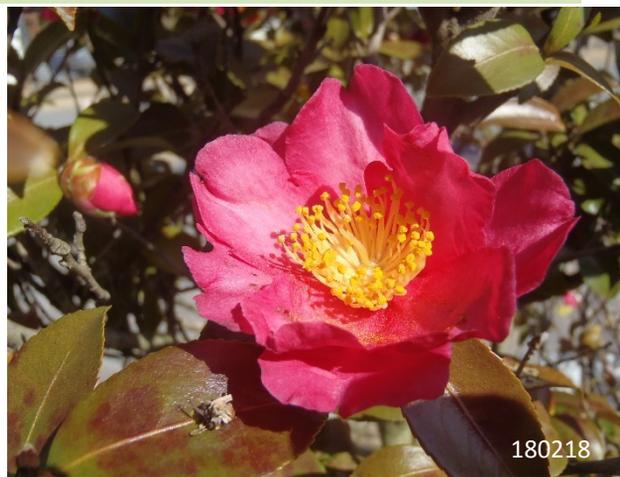
科目：ツバキ科ツバキ属

学名：Camellia sasanqua

別名：イワナビ、ヒメツバキ、ヤブサザンカ

原産地：日本

開花期：10月～2月



椿と違って山茶花は花卉がバラバラになって落ちる



花言葉：困難に打ち克つ、ひたむきさ、理想の恋

カンツバキ 寒椿

一般的にはカンツバキ(寒椿)は、ツバキ(椿)とサザンカ(山茶花)の交雑種とされるツバキ目ツバキ科ツバキ属の常緑中低木です。花卉と雄蕊が合着している椿の特徴、花卉が一枚ずつ散る山茶花の特徴、性質を合わせ持ちます。冬の代表的な花木であり八重咲きの薄紅花が代表ですが、赤や白、桃色の一重や八重咲きもあります。葉は暗緑色で小さな槍形をしており葉縁に鋭い鋸歯があります。常緑で、横に広がりやすく、刈り込みに強い性質なので、庭木や垣根に使われます。背丈が高くなる品種もあるので、山茶花と見分けが付きません。



科目: ツバキ科ツバキ属

学名: *Camellia hiemalis* Nakai 中国原産
Camellia sasanqua Kantsubaki 園芸種

原産地: 日本、中国

開花期: 11月～12月

花言葉: 愛嬌、謙譲、申し分のない愛らしさ

寒椿と山茶花を別物と捉えることは難しく、寒椿は山茶花の一種と捉えることが主流になってきています。

「寒椿(カンツバキ)」

- ・枝が横方向に伸び背丈が高くない。
- でも立寒椿(好カンツバキ)や獅子頭と呼ばれる品種は背丈が高くなる。
- ・花びらの数は多く14枚以上
- ・花びらはあまりしわしわにならない

「山茶花(サザンカ)」

- ・背が高い
- ・花びらの数は5～10枚
- ただし数の多い品種もある
- ・花びらはしわしわになるものが多い

* 椿の種類自体も非常に多く国内だけでも200種類以上とも500種類以上とも言われ、中には「山茶花のように一枚ずつ花びらが散る椿」もある始末。寒椿と山茶花のみならず椿との違いもどんどん分かりづらくなっているようです。

ローズマリー 迷迭香

葉に爽快で力強い香りのあるシソ科の常緑低木です。乾燥させた花や葉っぱがハーブティーや薬草、香辛料、食料として使われます。

草丈20～200cmまで生長し、秋から春まで茎の先に小さな白や淡い青、ピンク、薄い紫色などの花が咲き続けます。

古代ギリシャ時代からヨーロッパでは神秘的な力をもつ花として扱われ、祝福や葬儀の場などの冠婚葬祭には欠かせない植物です。

科目：シソ科マンネンロウ属

学名：Rosmarinus officinalis

別名：マンネンロウ(万年蠟)メイトツコウ(迷迭香)

原産地：地中海沿岸

開花期：10月～5月

花言葉：思い出、記憶、変わらぬ愛、あなたは私を蘇らせる



ユリオプスデージー

ユリオプス属は南アフリカを中心に、95種ほどが分布しています。ユリオプスデージーはユリオプス属の常緑低木。小さいうちは草花のような姿ですが、年を経ると茎は太くなって表面がごつごつした樹木らしい姿になります。晩秋から春まで、黄色い花を長期間咲かせます。葉や茎に細毛が生えているので、全体が灰白色に見えます。

科目：キク科ユリオプス属

学名：Euryops pectinatus

原産地：南アフリカ

開花期：11月～5月



花言葉：円満な関係、夫婦円満、明るい愛

オカメザサ 阿亀笹

日本原産であるが、野生種の発見は難しい。各地で栽培されている。

高さ1-2mの背の低いタケ類である。

見かけが小さいのでササの名を持つが、新芽にある鞘がすぐに剥がれるのはタケの特徴である。日本で一番背の低い竹です。地下茎の節間が短いため、桿(かん:タケやササの茎のこと)は密集して出る。その上、葉の幅がやや広いので葉が密集して見える。グランドカバーによく使われる。

科目:イネ科オカメザサ属(竹)

学名:Shibataea kumasaca

別名:ブンゴザサ、ゴマイザサ

原産地:日本



171125



171125

■「竹」と「笹」の違い

	竹	笹
成長後の皮	・成長するにつれて皮がはがれ、茎の部分ツルツル	・成長しても枯れるまで皮が残っている
葉っぱ	・葉脈は格子状	・葉脈は平行
枝の出方	・節目から枝2本出る	・節目から枝3本以上(5~6本)出る



ヘデラ 西洋木蔦

北アフリカ、ヨーロッパ、アジアに8種が分布する常緑のつる性樹木です。這うように広がったり、枝の節々から気根を出して壁や樹木にくっついてよじ登ります。観葉植物から公共緑化にいたるまで、非常に用途の広い植物です。

種類

・ヘリックス[H. helix] ヘデラの代表、かつ基本種です。日本には明治時代末に入ってきました。和名はセイヨウキヅタ、英名はイングリッシュアイビーです。生長すると高さは数十mに達します。秋に花を咲かせて翌年の夏に果実が熟します。少なくとも500以上の園芸品種があり、葉の形・大きさが7~8タイプに分類されます。

・カナリエンシス[H. canariensis] カナリー諸島・北アフリカ原産で、和名はカナリーキヅタです。葉はハート型で長さ20cm前後になり、ヘリックスよりもずいぶん大きいです。オカメヅタの名前でも広く親しまれています。寒さに当たると赤褐色に色づきます。

・葉にクリーム色の模様が入るヴァリエガタ['Variegata']も広く普及します。こちらは、寒さに当たると主にクリーム色の部分が紅色に色づきます。どちらも平面・壁面緑化によく利用されます。ヘデラの中ではやや寒さに弱く、寒冷地での植栽は不向きです。

科目：ウコギ科キヅタ属

学名：Hedera

別名：キヅタ アイビー(つた)

原産地：ヨーロッパ 北アフリカ アジア



ワシントンヤシ(白髪椰子)

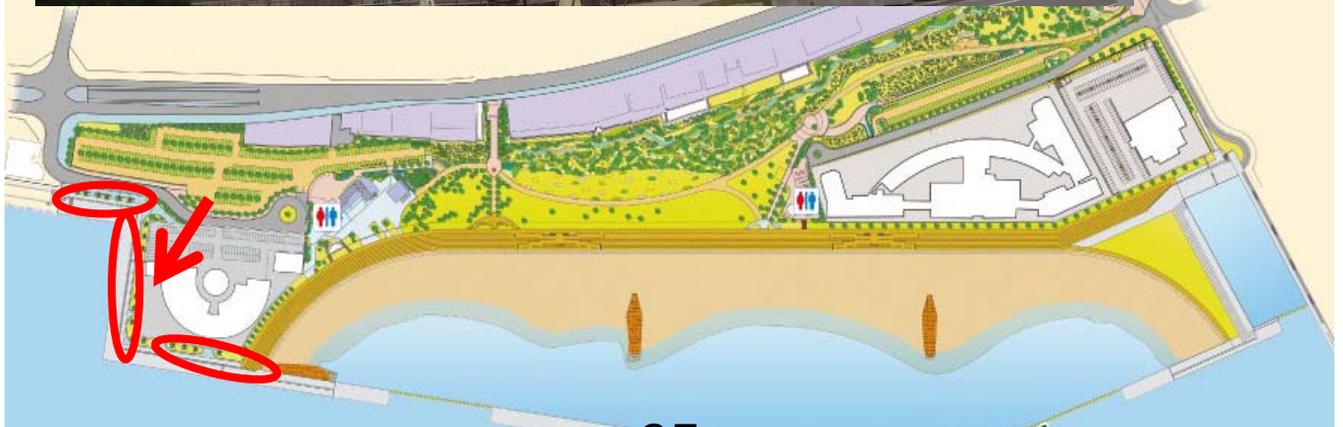
アメリカのカリフォルニア州南東部、アリゾナ州西部それにメキシコのバハ・カリフォルニアに分布しています。単幹で高さは12～18メートルになります。葉は茎の先端につき、羽状複葉です。葉は多くの裂片に中裂し、長い葉柄があります。果実は甘みがあり、食用になります。耐寒性があり、庭園樹や公園樹として植栽されています。和名では「しらがやし(白髪椰子)」と呼ばれます。

科目：ヤシ科ワシントンヤシ属

学名：Washingtonia filifera

別名：パームツリー、しらがやし

原産地：北米



海滨植物

コウボウムギ 弘法麦

コウボウムギは海浜に生育する多年生の草本。東アジアの海岸に広く分布し、砂丘上にやや疎(まばら)な群落を作る。葉は厚く、表面は滑らかで縁に細かい鋸歯がある。雌雄異株(しゅういしゅ)で根茎を伸ばし、節から新しい株を出す。古い葉鞘(ようしょう=鞘のように茎を包んだ葉の基部)の繊維が地下に残り筆のような形になり、実際に筆として使われたこともあると言われ、別名のフデクサ(筆草)はこれにちなんでいる。これを弘法大師の筆にたとえ、雌小穂と実の形が、ムギに似ているため弘法麦と呼ばれる。

海岸は海水の飛沫や強い風など、海からの影響を強く受けるため、植物にはきびしい環境となる。海岸はおよそ浜・磯・河口などに分けることができるが、たいていの場合、種類は少ないもののその環境に適応した植物が生育している。砂浜は風による砂の移動が激しいが、砂が安定するにつれて生育する植物は増えてくる。コウボウムギはそうした中でも砂浜の最前列の環境に適応している。

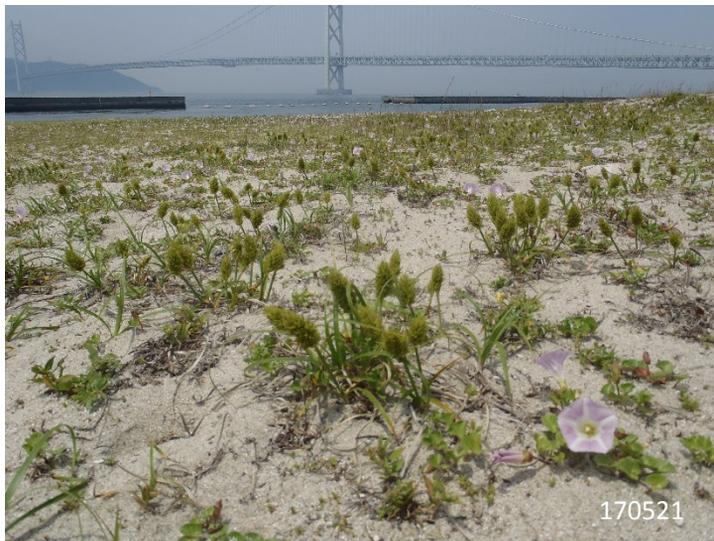
科目:カヤツリグサ科スゲ属

学名: *Carex kobomugi*

別名: フデクサ

原産地: 東アジア

開花期: 4月～6月



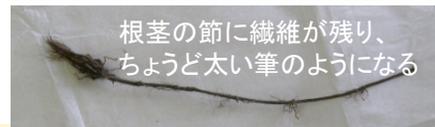
170521

雌株 緑色の穂を付けます



170521

根茎の節に繊維が残り、
ちょうど太い筆のようになる



雄株 茶色の穂を付けます



170521



コウボウシバ 弘法芝

コウボウシバは海浜に生育する多年生の草本。東アジアの海岸に広く分布し、砂丘上にやや疎(まばら)な群落を作る。草丈10~20センチ、春から初夏に茎の上部でつぺんに長さ2~3センチで赤褐色のフワフワしたオス(雄性)の穂を付け下部の葉腋(ようえき=葉の付け根のすぐ上の部分)にブツブツがハッキリしたメス(雌性)の穂を出します。

名前の由来は、同じ砂浜に生育する弘法麦が元になっており、筆を作るのに使われたことから、筆ならば弘法大使様! という名前ようです。その弘法麦よりも実が小さいことによります。

科目: カヤツリグサ科スゲ属

学名: *Carex pumila*

別名:

原産地: 東アジア~オーストラリア

開花期: 4月~6月



170422



170604



ハマボウフウ 浜防風

セリ科の多年草。葉は1~2回3出複葉で、葉身は濃緑色で厚い。葉柄は赤みを帯びる。茎は初夏に約40cm伸び、複散形花序をつけ、白色の小花が密に開く。根はゴボウ状で、主根から多く分岐し、深く伸びる。東アジアの海岸に分布し、日本各地の海岸の砂浜にも自生する。若芽を刺身のつまとし、また、おひたしや和(あ)え物、漬物などにする。海岸に生え、野菜のようにして食用とするので、ヤオヤボウフウ(八百屋防風)ともいい、また葉柄が赤いのでサンゴナ(珊瑚菜)の名もある。

薬用: 日本では根を浜防風といい、中国産防風の代用品として漢方治療(感冒などの解熱、鎮痛薬)に用いるが、両者は種も薬能も異なっている。ハマボウフウは中国の海岸の砂地にも広く分布しており、その根を中国では北沙参(ほくしゃじん)と称して沙参(ツリガネニンジンの根)と同様に肺の熱をとり、鎮咳(ちんがい)、止渴作用があるとしている。これに対し防風は、ボウフウの根からとるもので、感冒のほか、関節痛、筋肉麻痺(まひ)などの治療に用いられる。

科目: セリ科ハマボウフウ属

学名: *Glehnia littoralis*

別名: 八百屋防風、珊瑚菜

原産地: 地中海沿岸、中央アジア

開花期: 5月~7月



ハマヒルガオ 浜昼顔

日本全土の海岸の砂地に生える。砂の中に白色の地下茎を長く伸ばしてふえる。茎は砂の上をはい、なにかあれば巻きついたりして広がる。葉は互生し、長さ2～4cm、幅3～5cmの腎円形で基部は深い心形。厚くて光沢がある。葉腋(ようえき=葉の付け根部分)から長い花柄をだし、先端に淡紅色の花をつける。花冠は直径4～5cmの太い漏斗(ろうと、じょうご)形。雄しべ5個と雌しべは花筒の中にある。苞(ほう=花の根元に付く小型の花)は広卵状三角形で萼(がく)を包んでいる。さく果はほぼ球形で、黒い種子が入っている。花期は5～6月。

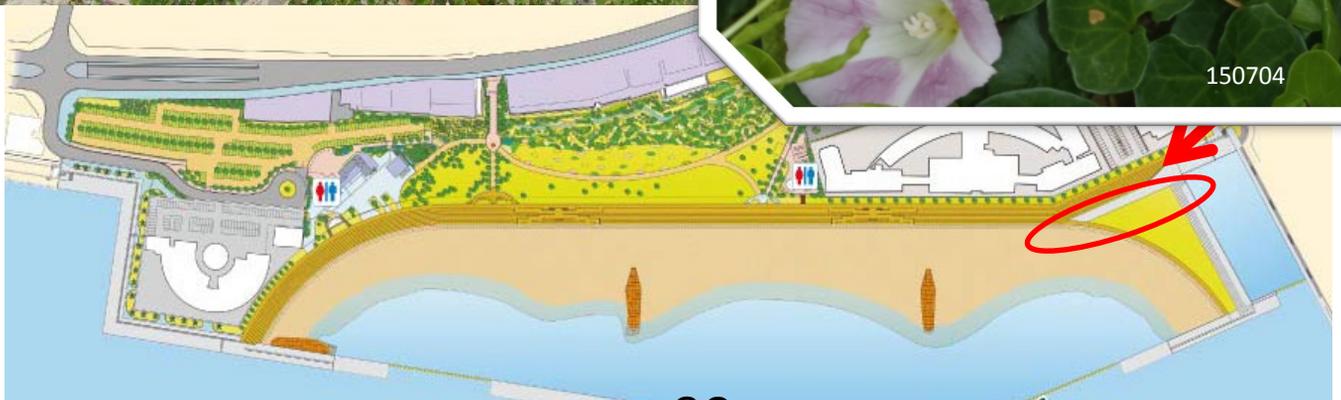
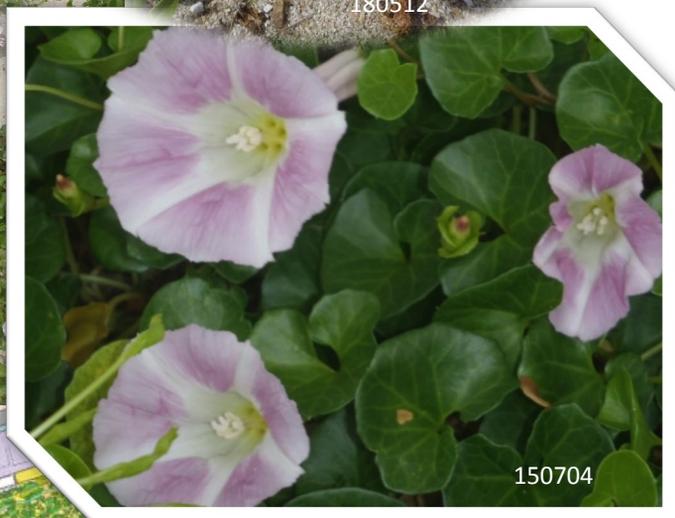
科目: ヒルガオ科ヒルガオ属

学名: *Calystegia soldanella*

原産地: 世界各地

開花期: 5月～6月

花言葉: やさしい愛情、友達のよしみ、絆、休息



ハマユウ 浜木綿

日本や韓国の済州島に分布する毎年花を咲かせる多年草で、主に海岸線に群生します。正式な和名はハマオモト(浜万年青)ですが、ハマユウの名前でよく知られています。葉っぱは先端の尖った帯状で、表面には光沢があります。長さは50cm~80cmで球根から斜め上に向かって伸びます。開花期は7月~9月、中空の太い花茎を長く伸ばしてその先端に10数輪の花を咲かせます。花は夜に開いて芳香を放ちます。花びらは白で細長くて基本は6枚、付け根の部分でくっついていきます。雄しべ(花糸)は下の方が白で上の方に行くと紫色になります。花の様子は、コウゾなどの樹皮を細く裂いて作った繊維から作った布と似ており、神道神事で用いられる白い布をゆう(ゆふ)と呼ぶ。別名のハマオモトは、肉厚で長い葉がオモト(万年青)に似ることから。

科目:ヒガンバナ科ハマオモト属

学名: *Crinum asiaticum var. japonicum*

別名:ハマオモト(浜万年青)

原産地:日本、朝鮮半島

開花期:7月~9月

花言葉:清潔、汚れがない、あなたを信じる、どこか遠くへ



150724



150808

イソギク 磯菊

伊豆半島や房総半島等の海岸に自生し群生する野菊の一種です。磯に自生するのでこの名前があります。細い地下茎を四方に伸ばして生長していきます。茎は斜め上に伸び、葉っぱが密につきます。葉っぱは長さ5cm程度でしっかりとした厚みがあります。葉周囲に白い縁取りマーカアの波型のギザギザがあるのが特徴です。秋に、多数の黄色い筒状花だけで形成された小さな丸い頭花を散房状に咲かせます。目立つ花びら(舌状花)はなく、筒状花のみですが、全体が鮮やかな黄色なのでよく目立ちます。園芸品種も各地で栽培され庭植えや鉢植えで観賞されています。

科目：キク科キク属

学名：Chrysanthemum pacificum

別名：イワギク(岩菊)

原産地：日本

開花期：10月～12月



花言葉：感謝、清楚な美しさ、大切に思う、静かな喜び

ハナイソギク 花磯菊

イソギクと園芸品種のイエギクとの自然交雑とも言われ、イソギクの先祖帰りという説もあります。

イソギクの外側に花弁がついた種類をハナイソギクと言われます。

白色の舌状花が小さいイソギクに近い品種など個体差があります。

このハナイソギクは白い花びらがあるのでハマギクにも似た品種があります。

ハマギクは関東以北の太平洋岸に自生し群生する野菊の一種です。ハマギクの白い花弁はもっと細長くマーガレットに似たスマートな花です。

科目：キク科キク属

学名：Chrysanthemum × marginatum

原産地：日本

開花期：10月～12月

花言葉：清楚な美しさ、精一杯の美しさ



草花

ニホンズイセン 日本水仙

日本で通常の水仙と認識される花で、12～翌3月、芳香のある小さな盃状の花を咲かせる耐寒性多年草(球根植物)です。花は直径3cm～5cmほどで、3枚の花弁、顎片3を付けます。ニホンズイセンの花は中心に黄色い筒状の副花冠があり、雌しべ1雄しべ6です。葉と茎は緑色で細長く厚みがありショウブの葉を小さくした形をしています。球根で増やします。全草、特に球根に毒があるので、食べると危険です。

科目:ヒガンバナ科スイセン属

学名: *Narcissus tazetta* var. *chinensis*

別名: 水仙、房咲き水仙

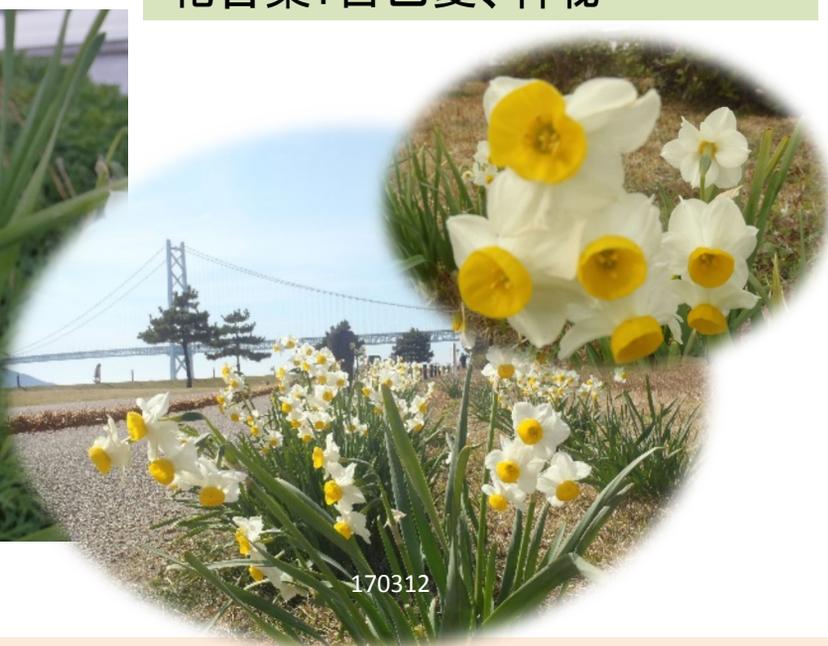
原産地: 地中海沿岸→中国南部→日本

開花期: 12月～3月

花言葉: 自己愛、神秘



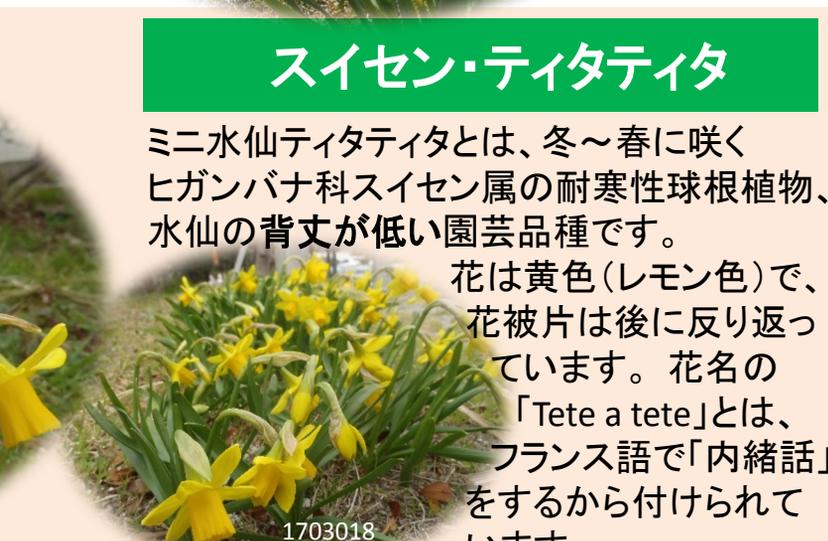
180106



170312



1703018



1703018

スイセン・ティタティタ

ミニ水仙ティタティタとは、冬～春に咲くヒガンバナ科スイセン属の耐寒性球根植物、水仙の背丈が低い園芸品種です。

花は黄色(レモン色)で、花被片は後に反り返っています。花名の「Tete a tete」とは、フランス語で「内緒話」をするから付けられています。

オオイヌノフグリ 大犬陰囊

和名はイヌノフグリに似てそれより大きい
ために付けられた。フグリは陰囊のことで、
イヌノフグリの果実の形が雄犬の陰囊に
似ていることからこの名前がついた。オオ
イヌノフグリの果実はハート形。花弁は4
枚。色はコバルトブルーだが、まれに白い
花をつけることがある。冷たい北風が吹く
中、春の到来をいち早く知らせてくれます。
小さな花ですが、アップで見ると青い鮮や
かな色が美しい。近縁種にイヌノフグリ、タ
チイヌノフグリ、フラサバソウなどがある。
いずれもオオイヌノフグリより小型で、花は
はるかに小さいので目立たない。

科目：オオバコ科クワガタソウ属

学名： *Veronica persica*

別名：星の瞳、瑠璃唐草、天人唐草

原産地：ヨーロッパ

開花期：2月～4月

花言葉：信頼、神聖、清らか、忠実



180324



180324



フラサバソウ

180324

▼オオイヌノフグリ(帰化植物)



▼イヌノフグリ(在来種)



▼フラサバソウ(帰化植物)



10mm



果実はハート形



3~5mm



3~4mm

花が小さい分、
萼のへりの毛
がよく目立つ。

— 74 — 果実は雄犬の陰囊(フグリ)似ている

ホトケノザ 仏の座

和名の「仏の座(ホトケノザ)」は、茎を取り囲むようにつく半円形の葉を仏さまの蓮華座に見立てたものといわれます。別名の「三階草(サンガイグサ)」は、葉が段々につくことにちなみます。

花の特徴は上部の葉の脇に紅紫色をした唇形の花を数個ずつ輪生する。葉の間からすくっと立ち上がり、細長い筒状の花の先が上下2列に分かれて、唇くちびるのような形をして(唇形花序しんけいかじょ)、下唇は2列し濃い紅色の斑点がある。春の七種(ななくさ)のひとつに「仏の座(ホトケノザ)」がありますがこの植物ではありません。春の七種の「ホトケノザ」は、キク科の「小鬼田平子(コオニタビラコ)」を指しますご注意ください。ホトケノザはシソ科の越年草又は一年草。

科目:シソ科オドリコソウ属

学名: *Lamium amplexicaule*

別名: サンガイグサ(三階草)

原産地: 日本、アジア、ヨーロッパ、北アフリカ

開花期: 2月~5月

花言葉: 調和、輝く心



ヒメオドリコソウ 姫踊り子草

ヨーロッパ原産のシソ科オドリコソウ属の越年草。他の花が少ない時期にはミツバチにとっては重要な蜜の供給源となる。しばしばホトケノザとともに生えており、葉と花の色が似ているが、上部の葉の色は赤紫蘇の葉をうすくしたような色、下のほうは緑の紫蘇の葉に似ている。



ミチタネツケバナ 道種浸け花

ごく最近(1970年代とも言われます)に欧州から渡来し急速に日本各地に広がった外来種です。アブラナ科タネツケバナ属の越年草または一年草。空地や道端などに生える雑草。在来種のタネツケバナよりもやや乾燥した場所に生えていることが和名の由来。市街地で見られるほとんどがミチタネツケバナで、在来種のタネツケバナはあまり見られません。

タネツケバナは日本全土の水田の中や土手、溝、小川などの常に水分がたっぷりある場所に生えます。水田に植える稲の苗を育てるために、種粃(タネモミ)を水に浸けるころに花を咲かせるのでタネツケバナの名前がつけました。

ミチタネツケバナの花は在来種より小さく、花弁がやや乱れたように咲き、茎は無毛です。タネツケバナの茎はびっしりと白い毛が生えているのが特徴。

科目：アブラナ科タネツケバナ属

学名：Cardamine hirsuta

原産地：ヨーロッパ、東南アジア

開花期：2月～5月

花言葉：勝利、情熱、熱意、不屈の心



ミチタネツケバナ

180224



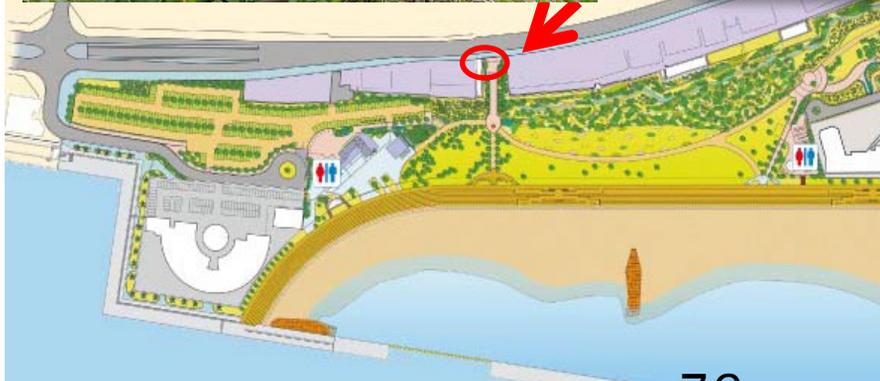
ミチタネツケバナ

170326



タネツケバナ

170409



在来種
タネツケバナ

外来種
ミチタネツケバナ



Photo y.nagata



Photo y.nagata

ハナナ 花菜

春を代表する花のひとつで、菜の花の名前で広く親しまれています。ハナナは花を楽しむためにヨーロッパで食用のチリメンハクサイから改良されたと言われていいます。葉の多くは縮れ、不規則に波状の切れ込みがあります。花は、60～70cmになる太い茎に黄色の十字形をした黄色い小花をたくさん咲かせます。花を野菜として利用するのでナバナ(菜花)ともいう。若くてやわらかい花茎や葉、つぼみを食用にします。特有のほろ苦さがありますが、ゆでると甘味が出てお浸しや和え物などにするとおいしい食材です。冬季に淡路島や千葉県の暖地で切り花として栽培されています。

科目：アブラナ科アブラナ属

学名：Brassica rapa var. amplexicaulis

別名：菜花(なばな)、菜の花

原産地：日本、中国、西ヨーロッパ

開花期：2月～5月

花言葉：快活さ、初々しい、豊かさ



170326

170326



180205

180205

180205

ナノハナ 菜の花

一面黄色に群生している「菜の花畑」は素晴らしいですね。一般的に「菜の花」というと春に咲く黄色い花を思い浮かべますが、「菜の花」はアブラナ科アブラナ属の黄色い花の総称です。

菜の花には観賞用のほか、菜種油用のナタネ、食用のなばな(はなな)があり、それぞれ品種が異なります。アブラナやセイヨウアブラナ、カラシナ、タカナは「菜の花」のよく知られた品種です。

ナズナ 薺

アブラナ科の越年草(一年草)。草丈は20～40cmほどに生長し、ハート型の細かい葉っぱを莖いっぱい茂らせます。そして、2～6月の間、下から上へと次々に小さな白い花を咲かせます。田畑や荒地、道端など至るところに生え雑草のイメージが強いですが、春の七草のひとつで、かつては冬の貴重な野菜として重宝され、薬草としても利用されていた。花名の語源には諸説あり。「薺」は「撫菜」(なでな)からの変化。なでたいほどかわいい菜、の意から。また、夏に枯れて無くなることから「夏無(なつな)」、これが変化したとも。

科目:アブラナ科ナズナ属

学名: *Capsella bursa-pastoris*

別名: ぺんぺん草、三味線草

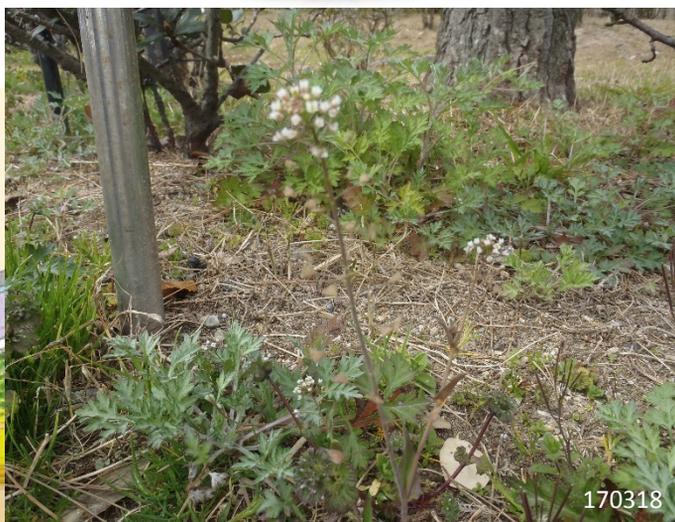
原産地: アジア ムギ類と一緒に入ってきた史前帰化植物

開花期: 2月～6月

花言葉: あなたに私の全てを捧げます



「ぺんぺん草が生える」
家や土地が荒れ果てた様子
「ぺんぺん草も生えない」
根こそぎにされる、何も残らない
「ぺんぺん」は三味線を弾く擬音語で、
花の下に付いている果実の形が、
三味線の撥(ばち)によく似ている。



ハコベ 繁縷

ハコベとは、ナデシコ科ハコベ属の総称のこと。単にハコベというときは、ハコベ属の1種であるコハコベのことを指す場合が多い。コハコベは越年草。ハコベラとも呼ぶ。春の七草の一つでハコベラ(繁縷)の名前で登場しています。葉は小鳥の餌などに使う。昔は塩と混ぜて歯磨き粉に使われていました。

茎のつけ根に花径4~6ミリの小さな白い五弁花をつける。細い花びらが10枚あるように見えるが、これは5枚の花びらがそれぞれ2つに深く裂けているためである。

科目：ナデシコ科ハコベ属

学名：Stellaria media

別名：コハコベ、朝しらげ、日出草、

原産地：ヨーロッパ(史前帰化植物)

開花期：2月~9月

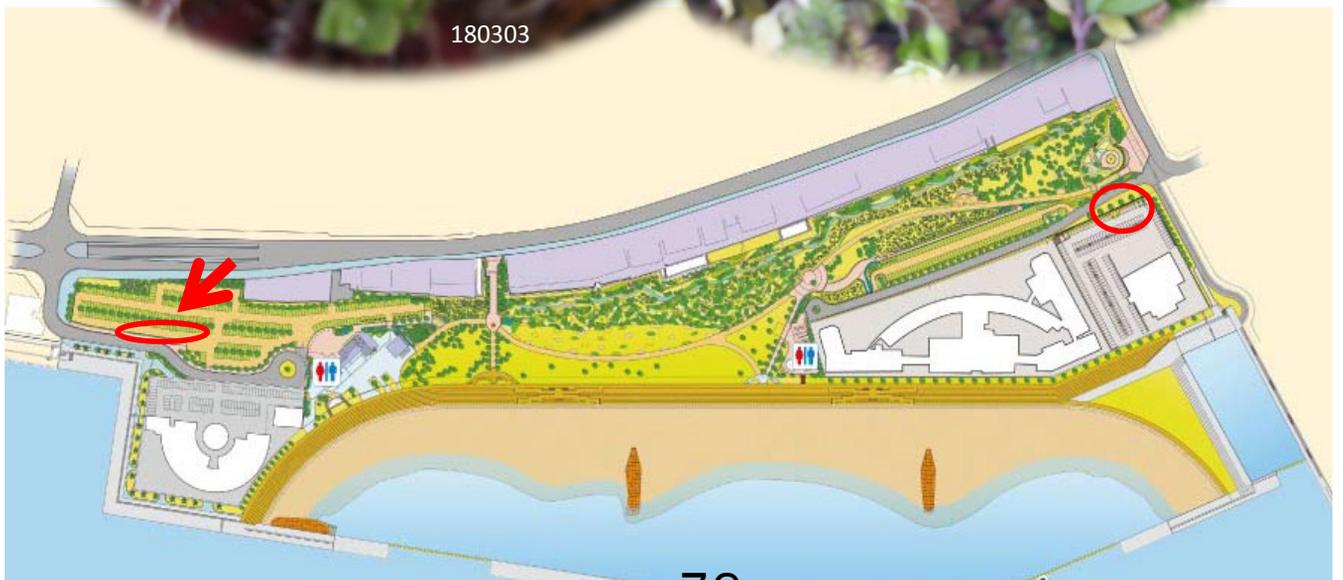
花言葉：初恋の思い出、愛らしさ、追想

コハコベ

コハコベ

180324

180303



キュウリグサ 胡瓜草

野原や道端に生息する越年草。
和名は、葉をもむとキュウリのようなにおいがすることに由来する。花径2~3ミリくらいのワスレナグサに似た淡い青紫色をした小さな五弁花を上向きにつける。花の中心は黄色くなっている。気を付けて見ないと見落とします。ワスレナグサの花径は大きく10ミリくらい。

科目：ムラサキ科キュウリグサ属

学名：Trigonotis peduncularis

別名：キュウリナ

原産地：アジア ムギ類と一緒に入ってきた
史前帰化植物

開花期：3月~5月

花言葉：愛しい人への真実の愛



ワスレナグサ

キュウリグサ



ツルニチニチソウ 蔓日々草

花期になると、上部の茎の葉の付け根から花柄を伸ばし、紫色のプロペラ状(5弁)の花(花径2~6cm程度)を咲かせます。花は花冠が深く5裂して平らに開き、中央にはスイセンなどに見られる副花冠があります。この花姿が同科のニチニチソウに似ていることから、ツルニチニチソウの名前が付いています。花色は紫、青、白。葉は卵形で表面に美しい光沢を持ち、短い葉柄で茎に対生します。

茎は地面を這うように横に伸び、節から発根しながら長さ1m以上に伸びます。美しい葉は常緑で周年観賞することができ、リーフプランツとしての利用価値が高い植物です。

科目：キョウチクトウ科ツルニチニチソウ属

学名：Vinca major

別名：ツルビンカ

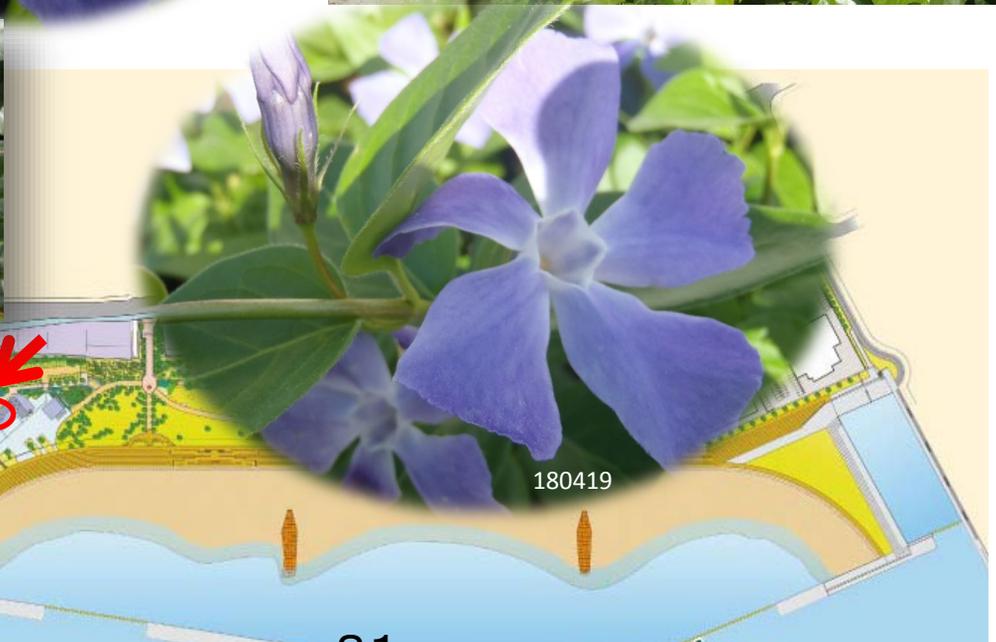
原産地：南ヨーロッパ、北アフリカ

開花期：3月~6月

花言葉：優しい思い出・生涯の友情・幼馴染み



ヘデラの中で咲いています



カラスノエンドウ 烏野豌豆

路傍や堤防や荒れ地などに極普通に生育しており、秋に芽生えて越冬し、4~6月に紫紅色の花を咲かせ、果実を付ける。果実には5~10個の種子が入っており、熟すと黒色になる。若い果実は中の種子を出して笛を作ったりした。果実は熟すとパチンとはじけ、中の種子をはじき飛ばす。春、若芽を天ぷらにするとおいしいらしい。ヤハズエンドウ(矢筈豌豆)が植物学的局面では標準的に用いられる和名だが、カラスノエンドウ(烏野豌豆)という名が一般には定着している

科目：マメ科ソラマメ属

学名：Vicia angustifolia

別名：ヤハズエンドウ、ピーピー豆

原産地：地中海

開花期：3月~6月

花言葉：小さな恋人たち、未来の幸せ、喜びの訪れ



野エンドウ(豌豆)三姉妹

①カラスノエンドウ

野エンドウの仲間の中でもっとも大きく、よく見かける種。



③スズメノエンドウ

カラスノエンドウに対して小さいのを雀に見立てて名付けられた。



②カスマグサ

カラスノエンドウとスズメノエンドウの中間的な大きさで、両種の名前のカとスを取ってその間ということからづけられた。



オランダミミナグサ 和蘭耳菜草

ハコベと同じ仲間で、ナデシコ科の越年草
又は一年草。春に花茎を伸ばし集散花序
に米粒大の白い五弁花を密集して咲かせる
ヨーロッパ原産の帰化植物です。

葉は緑色で毛があり対生して付きます。
花弁は先端で二裂します。

在来種のミミナグサ(耳菜草)と似ていま
すが、オランダミミナグサはミミナグサより
花茎が短いので、花が密集して咲いてい
るように見えます。花の名は、異国(外国
を表すオランダ)のミミナグサ(耳菜草)で、
ミミナグサは向かいあう柔らかな葉の形を
鼠(ねずみ)の耳に見立て、若葉が食べら
れる(菜)ことから名づけられました。

科目：ナデシコ科ミミナグサ属

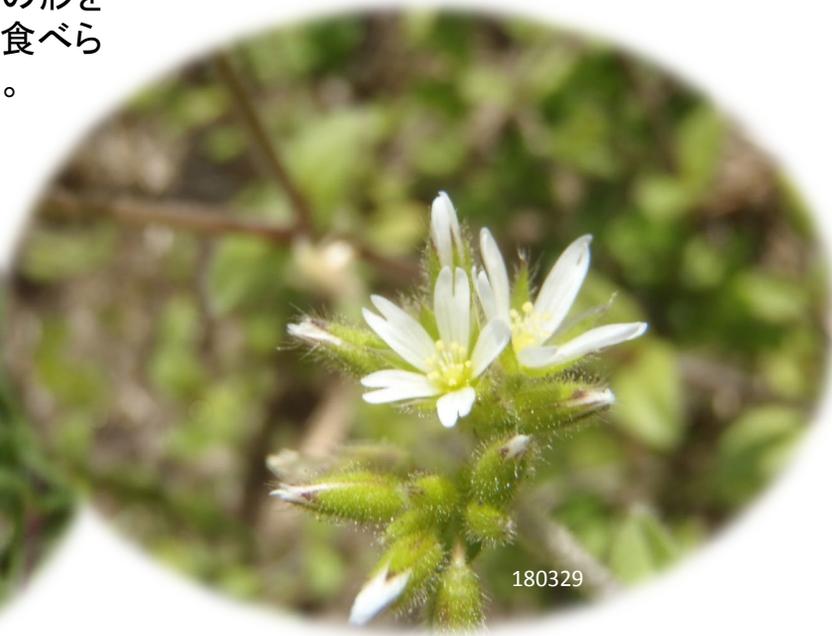
学名：Cerastium glomeratum

別名：

原産地：ヨーロッパ

開花期：3月～6月

花言葉：聞き上手、純心

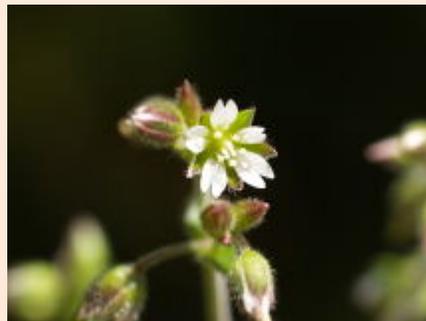


在来種のミミナグサも
外来種のオランダミミナグサも
花はほとんど同じですが、
在来種のミミナグサの花柄(カ
ヘイ: 茎)が外来種のオランダミ
ミナグサよりずっと長く、
茎やガクの部分は暗紫色
である。

▼外来種
オランダミミナグサ



▼在来種
ミミナグサ



イオノプシディウム

アブラナ科の1年草。

こんもりと茂った葉の間から、薄紫色のやさしい花を次々と咲かせます。葉は長い葉柄を持ったスマレの葉に似た心形で、花はアブラナ科特有の十字形で花径5ミリ前後の小花を多数咲かせます。それほど強くありませんが穂芳香があります。1年草なので、その花は消えてなくなりますが、花後のこぼれ種が翌年も咲いてくれます。

学名はギリシャ語のion(スマレ色)とopsis(似ている)の合成語から

科目：アブラナ科イオノプシディウム属

学名：Ionopsidium acaule

別名：ダイヤモンドフラワー・バイオレットクレスト

原産地：南ヨーロッパ(ポルトガル)

開花期：3月～6月

花言葉：さまざまな愛



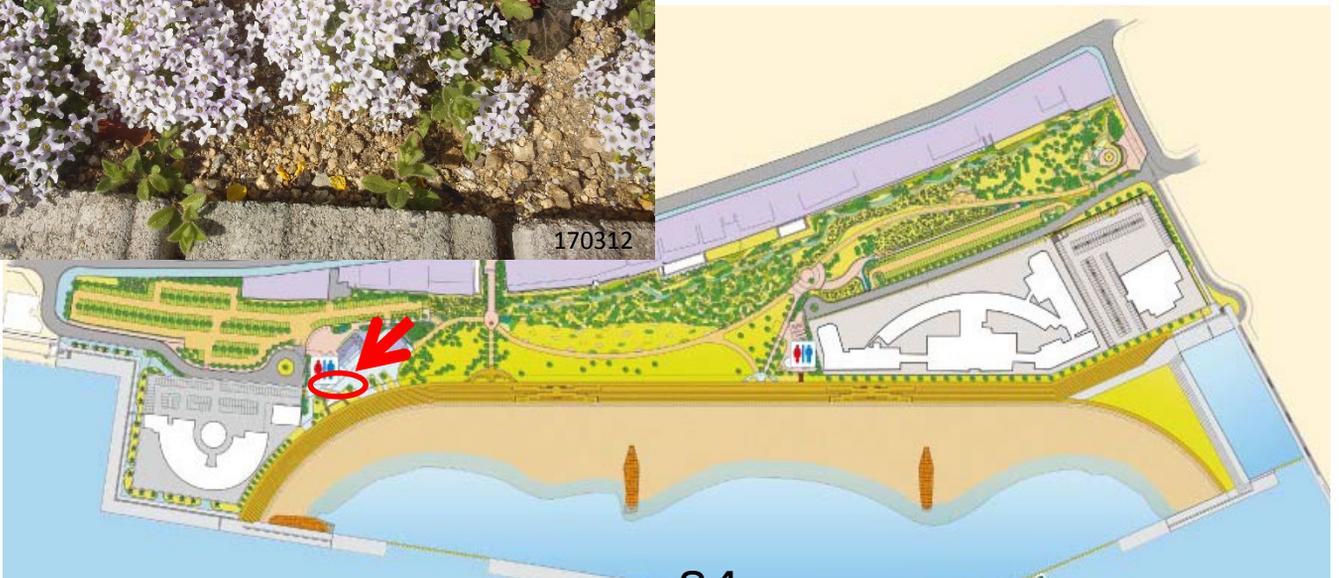
180120



180120



170312



オステオスペルマム

花色は紫、白、ピンクが中心でしたが、同じキク科で近縁のディモルフォセカとの交雑によって、黄花やオレンジ花を咲かせる、開花期間が長い園芸品種も誕生しています。花姿は菊とかマーガレットみたいなかたちです。また、葉はへら状でやや肉厚、草丈は20~30cmになります。夜間や天気の悪い日は花を閉じる性質がありますが、花が閉じにくい、もしくは閉じない園芸品種もふえています。オステオスペルマムとディモルフォセカの区別は難しく、日本ではオステオスペルマムは多年草、ディモルフォセカは一・二年草とされています。寒さに強く-5度まで耐えられます反面夏の高温多湿に弱くて、梅雨の長雨に晒されると、蒸れて傷んでしまいます。そこで梅雨前に刈り込んで風通しをよくするといいです。

科目：キク科オステオスペルマム属

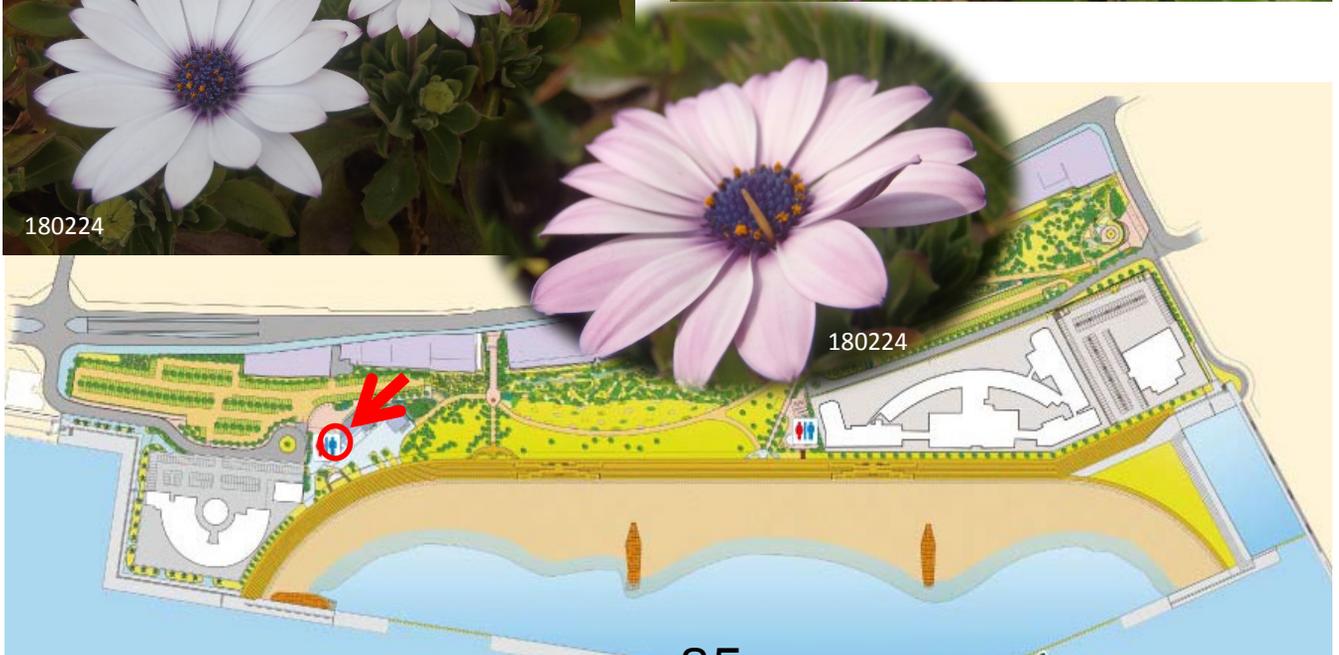
学名：Osteospermum

別名：アフリカンデージー

原産地：南アフリカ

開花期：主に3月~6月

花言葉：元気、無邪気、変わらぬ愛、ほのかな喜び



キンギョソウ 金魚草

キンギョソウは地中海沿岸(南ヨーロッパ・北アフリカ)に分布する植物です。ふわふわとした金魚のような花を茎の先端に穂状にたくさん咲かせる姿が美しい花です。花の色は赤・桃・白・橙・黄・複色。金魚草はたくさんの園芸品種が生み出され、花色や草丈のバリエーションが豊富です。一般的には草丈の低い「小型種」、草丈の高い「高性種」、その中間の「中間種」に分けられます。花姿も一重や八重など様々です。

科目：オオバコ科キンギョソウ属

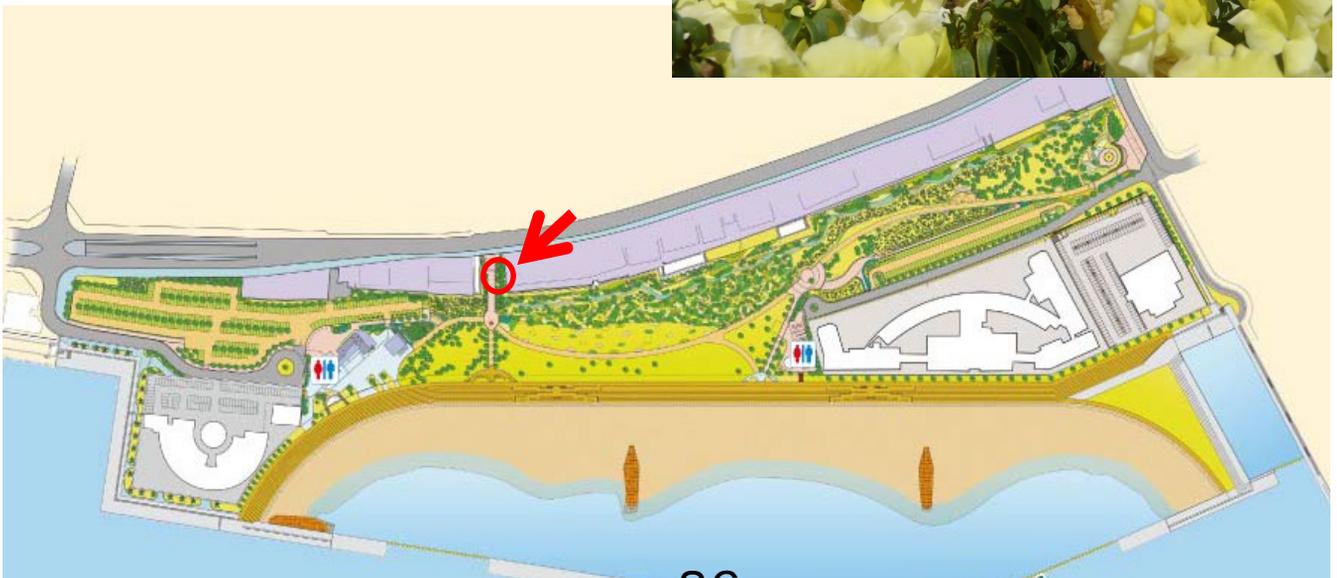
学名：Antirrhinum majus

別名：アンティリヌム スナップドラゴン

原産地：地中海沿岸

開花期：3月～6月

花言葉：おしゃべり、でしゃばり



マーガレット

半耐寒性多年草～常緑低木。17世紀末にフランスに導入されたのがはじめて、日本には明治時代に渡来しました。草丈は60cm～1m、年月を経た株は地際の莖が樹皮のように茶色くごつごつした感じになります。その姿からモクシュンギクとの和名があります。園芸品種は様々な花色・花姿がありますが野生種は白か黄色の一重咲きです。園芸において人気が高いマーガレットは白、黄色、ピンク、青等様々な色を持つ品種があり色鮮やかで可憐な花と細く繊細な葉を伸ばしお庭を可愛く彩ってくれます。耐暑性と耐寒性が弱く梅雨～夏と冬は管理に注意が必要になります。多年草なので環境が合えば毎年越冬し木質化して常緑低木になります。

科目：キク科モクシュンギク属

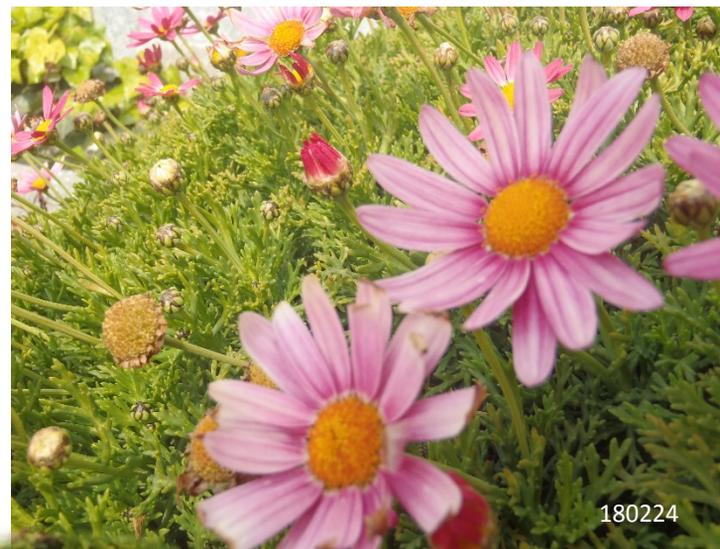
学名：Argyranthemum frutescens

別名：モクシュンギク、フランスギク

原産地：カナリア諸島

開花期：主に3月～7月

花言葉：恋占い、真実の愛、信頼



ノゲシ 野芥子

ノゲシは世界至る所に帰化している植物であり、原産地はヨーロッパであると考えられている。ムギなどの畑作の伝来とともに渡来した史前帰化植物の1つであり、現在は世界中に分布し、荒地や空き地などに生育している。秋に芽生え、ロゼットで越冬し、春から夏にかけて茎をもたげて花を付ける。種子の綿毛は絹状の毛であり細い。縁のぎざぎざ(鋸歯)の先は尖るが棘とはならず、さわっても痛くない。これが近縁種の鬼野芥子(オニノゲシ)との相違点である。葉の縁はやや内巻きになる。和名のノゲシはケシの葉に似ていることにより、春に開花することからアキノノゲシに対してハルノゲシともよばれる。

科目: キク科ノゲシ属

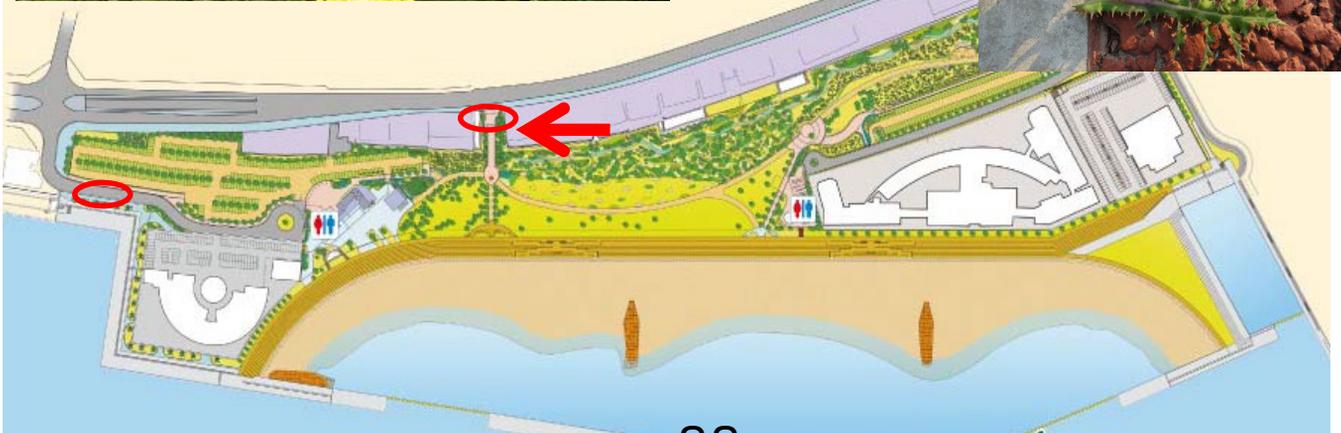
学名: *Sonchus oleraceus*

別名: 春の野芥子(別種の秋の野芥子に対比して)

原産地: ヨーロッパ(史前帰化植物)

開花期: 3月~8月

花言葉: 旅人、幼き友、悠久、
憎まれっ子世にはばかる



セイヨウタンポポ 西洋蒲公英

ヨーロッパ原産のキク科の多年草。明治時代に渡来し、現在では都市周辺ではもっともふつうのタンポポになっている。環境省指定要注意外来生物。日本の侵略的外来種ワースト100に選定されている。日本の在来種とは外側の苞(ほう)の反る点が異なる。

最近都市周辺でふえているアカミタンポポもヨーロッパ原産で、セイヨウタンポポに似ているが、そう果が赤みを帯びる。

「蒲公英」の文字は漢名の「ほこうえい」から来ている。それは、タンポポの葉を乾燥させた生薬の名でもある。

解熱薬、健胃薬として用いられている。また、タンポポの若い葉は食用にもなる。おしたしやてんぷらとして利用される。ちょっと苦味があるのが特徴である。

科目：キク科タンポポ属

学名：*Taraxacum officinale*

別名：ダンディライオン

原産地：ヨーロッパ

開花期：3月～10月

花言葉：愛の信託、真心の愛、別離



ナガミヒナゲシ 長実雛芥子

1961年東京都世田谷区で見つかったヨーロッパ原産の帰化植物で、瞬く間に全国に広がり道端の至る所に咲いている。茎先に花径2センチから5センチくらいの4弁花をつける。花の色は、橙色ないし紅色である。雄しべはたくさんある。

真ん中にある雌しべの子房は円筒形で、4本から8本の筋が放射状に伸びる。花の後にできる実はさく果(熟すると下部が裂け、種子が散布される果実)で細長い。それが名の由来でもある。

ケシ科ケシ属には50種程の花があり、栽培禁止品種を除き日本で普通に栽培されたり野生化している花は、ナガミヒナゲシ、ヒナゲシ、オニゲシ、アイスランドポピーがあり、ケシ科ケシ属の園芸品種の総称として「ポピー」と呼ばれています。

科目：ケシ科ケシ属

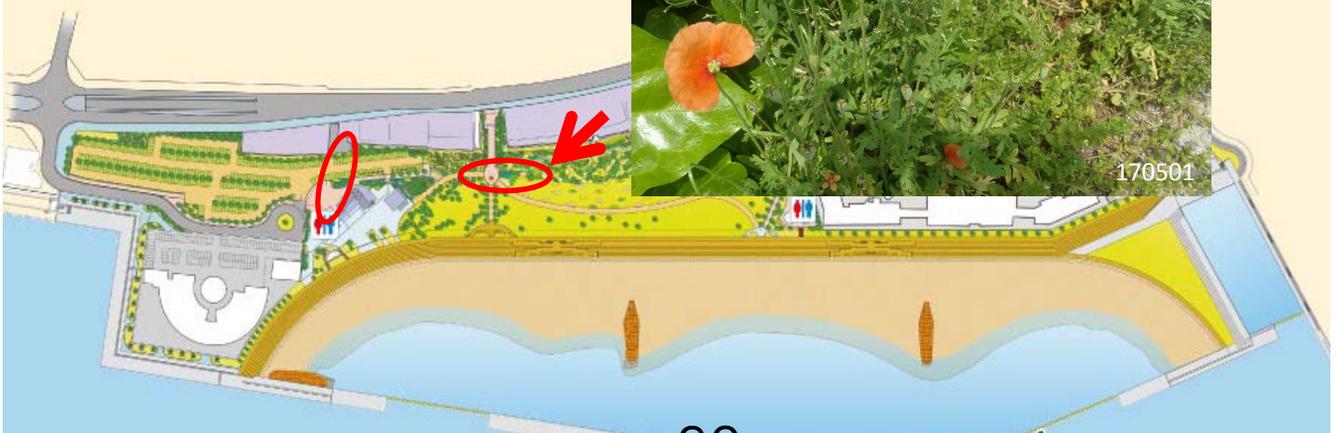
学名：Papaver dubium

別名：

原産地：ヨーロッパ地中海沿岸

開花期：4月～5月

花言葉：心の平静、慰め、癒し



スズメノヤリ 雀の槍

スズメノヤリは、小柄な野草で早春に穂を出し始めます。花っぽくなく細い茎のさきにトゲトゲの褐色のかたまりがあり、それが花となっています。

名前の由来は、昔の大名行列の時の手槍に似ていてとても小さいことから「スズメノヤリ」と付いたそうです。芝生の中などで、10cm程の茎をのぼし地味で目立たない花を付けています。

科目：イグサ科スズメノヤリ属

学名： *Luzula capitata*

別名：シバイモ

原産地：日本、東南アジア

開花期：4月～5月

花言葉：邪魔しないで



マツバウンラン 松葉海蘭

オオバコ科の越年草。風にそよぐのっぽで華奢な野の花である。1941年に帰化しているのが最初に確認され、葉の形が松葉、花が在来種のウンランに似ていることからこの名がついた。最近では普通に見かけられるようになっている。茎先に総状花序(柄のある花が花茎に均等につく)を出し、唇形をした青紫色の小さな花をつける。葉は線形で先が尖る。風にそよぐのっぽで華奢な野の花である。

科目: オオバコ科マツバウンラン属

学名: *Nuttallanthus canadensis*

別名:

原産地: 北アメリカ

開花期: 4月~6月

花言葉: 喜び、輝き

180414



180519



180419



180414



180419



ツタバウンラン



180419

ウンラン(海蘭)の仲間

外来種

①マツバウンラン



在来種

②ウンラン



外来種、園芸種

③ムラサキウンラン
(リナリア 姫金魚草)



外来種

④ツタバウンラン



コメツブツメクサ 米粒詰草

道端、河原、空き地などに生える、ヨーロッパ～西アジア原産の一年草。名のとおり、米粒のような形の黄色い小花。葉は3枚の小葉からなっており、小さいながらシロツメクサと同じ様式である。茎はよく分枝して、地をはい、高さは20cm～40cmになります。花は長さ約3mmの黄色い蝶形花で、5個～20個が球状に密集してつきます。短い柄があり、花が終わると下を向きます。葉は長さ5mm～10mmの倒卵形の3小葉からなります。葉柄は短いです。果実は長さ約2mmの楕円形です。よく似た種類に、クスタマツメクサがあります。

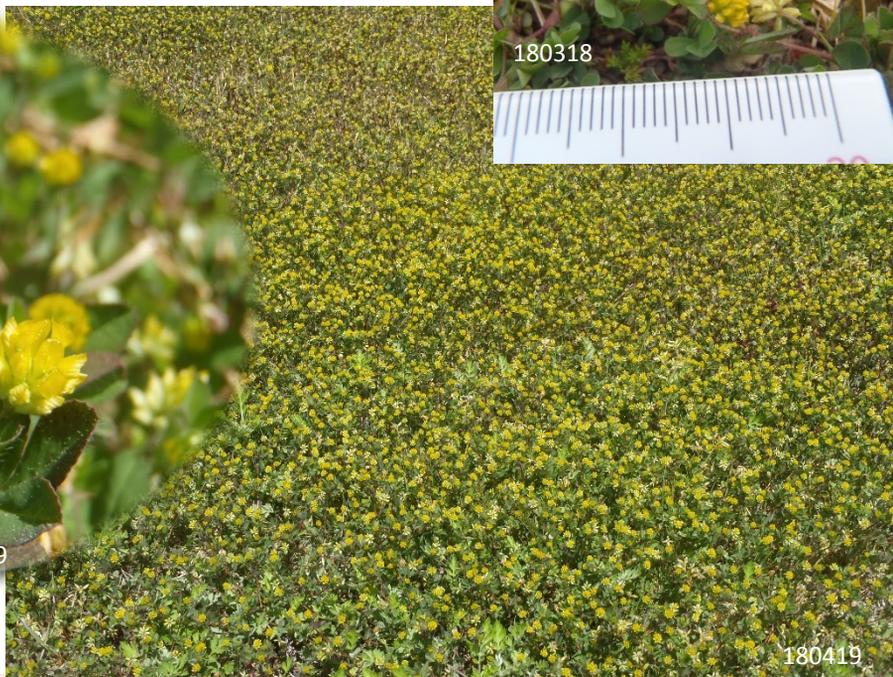
科目：マメ科シャジクソウ属

学名：Trifolium dubium

原産地：ヨーロッパ、西アジア

開花期：4月～7月

花言葉：お米をたべましょう、小さな恋人



コメツブウマゴヤシ 米粒馬肥

科目：マメ科ウマゴヤシ属
学名：Medicago lupulina
原産地：ヨーロッパ
開花期：5月～7月
花言葉：小さな秘密

花が終わると花殻は残らず丸まった果実を付けます。



クスダマツメクサ 薬玉詰草

道端、河原、空き地などに生える、ヨーロッパ～西アジア原産の一年草。

コマツブツメクサと似ているが花序の大きさ、茎が立ち上がっている様子などから区別することができる。ビールの原料に使われるホップに花序が似ていることから、別名ホップツメクサと言われている。葉は3枚の小葉からなり、半分から先端にかけて低い鋸歯が見られる。茎の中部につく葉の葉柄は、小葉の葉柄よりも長い。花期は6月から8月にかけてで、1つの花序に20個以上の花をつける。高さが50cmほどになることから、コマツブツメクサとは異なり、高さ競争に対して優れているように見える。

科目：マメ科シャジクソウ属

学名：Trifolium campestre

別名：ホップツメクサ

原産地：ヨーロッパ、西アジア

開花期：6月～8月

花言葉：小さな恋人



クスダマツメクサ コマツブツメクサ



シロツメクサ 白詰草

道ばたや畦道、芝生などに生息する多年草。花序径は15ミリから25ミリくらいある。小さな蝶形の花が球状の総状花序(柄のある花が花茎に均等につく)をつくっているのので、1つの花のように見える。

詰め草の名称は江戸時代にオランダから献上されたガラス製品の包装に緩衝材として詰められていたことに由来する。

日本においては明治時代以降、家畜の飼料用として導入されたものが野生化した帰化植物。根粒菌の作用により窒素を固定することから、地味を豊かにする植物として緑化資材にも用いられている。

「クローバー」とは、マメ科シャジクソウ属の植物の総称で、英語では“Clover”と書きます。アイルランドの国花で、牧草として用いられています。

科目：マメ科シャジクソウ属

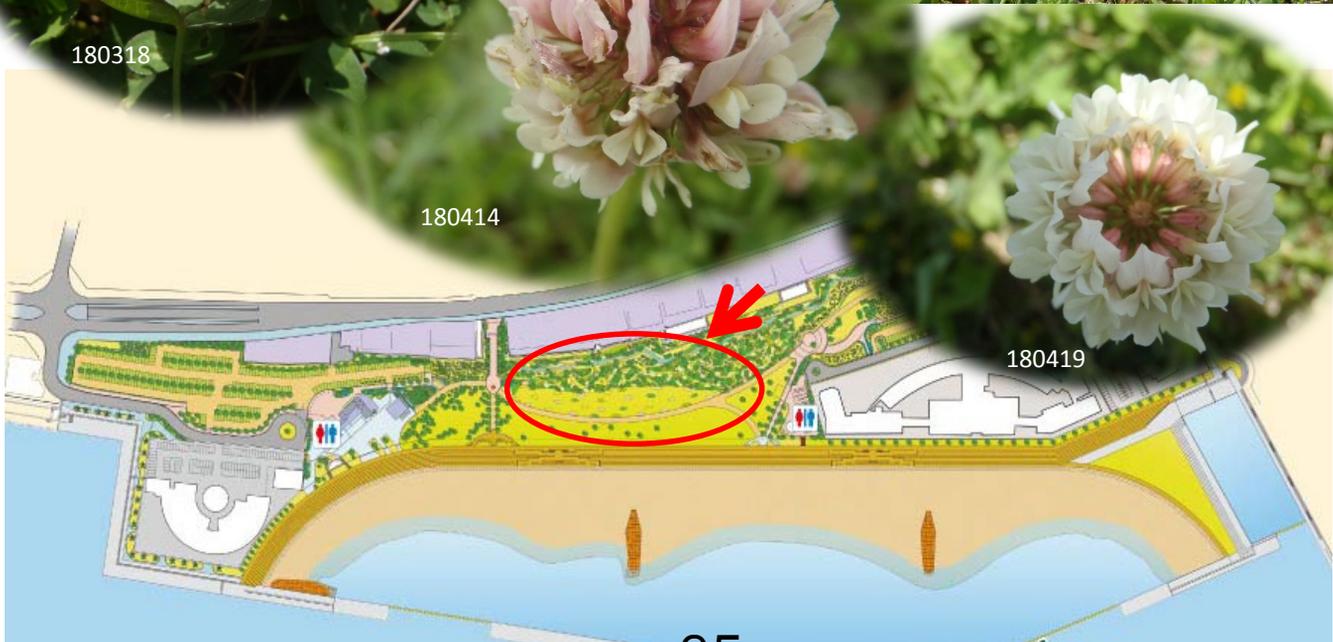
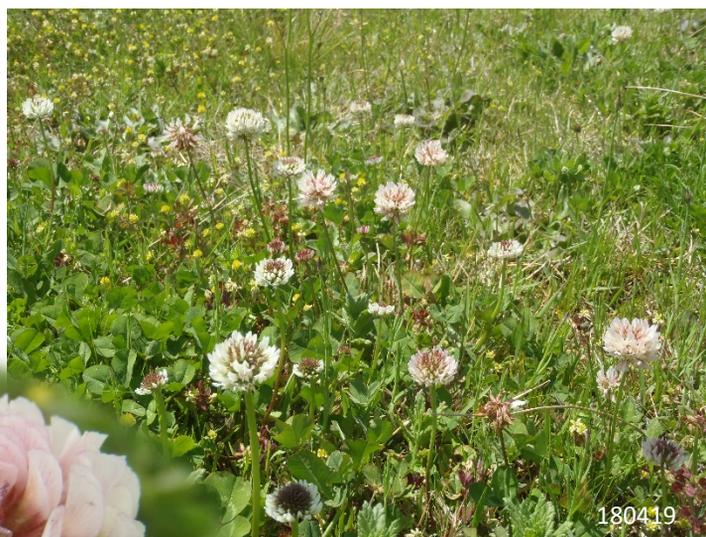
学名：Trifolium repens

別名：クローバー、ウマゴヤシ

原産地：ヨーロッパ、

開花期：4月～9月

花言葉：約束、私を思って、復讐



ナデシコ(ダイアンサス) 撫子

ナデシコはナデシコ科ナデシコ属(ダイアンサス属)の総称。

ダイアンサス属は、世界に約300種が分布しています。一年草と宿根草の2種あります。やさしい草姿に可憐な花を咲かせ、香りも魅力です。カーネーションもダイアンサス属に含まれますが、通常はカーネーションを除いたものを総称して「ダイアンサス」と呼んでいます。わが国では、秋の七草の一つであるカワラナデシコをはじめ、ハマナデシコなど4種が自生しています。和名の撫子(ナデシコ)は、花が小さく愛らしいことから、かわいい子供を撫でていつくしむ花ということでその名がついたといわれています。

科目：ナデシコ科ナデシコ属(ダイアンサス属)

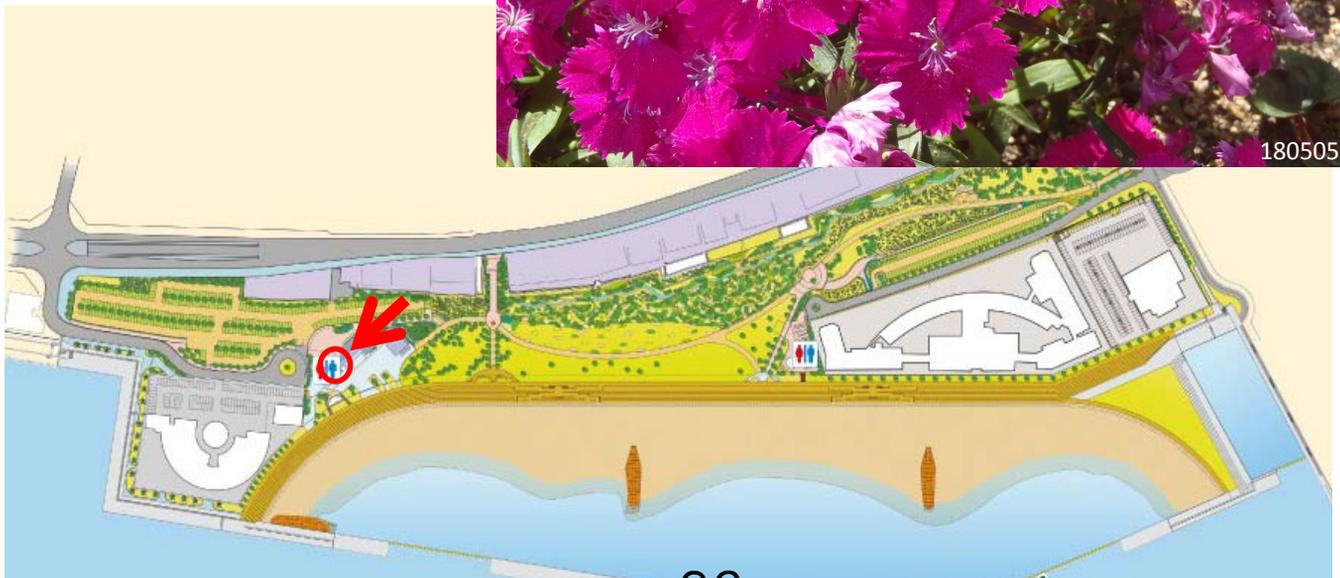
学名：Dianthus

別名：日本固有の在来種は「ヤマトナデシコ(大和撫子)」

原産地：ヨーロッパ、北アメリカ、アジア、南アフリカ

開花期：4月～8月

花言葉：純愛、大胆、貞節



オニタビラコ 鬼田平子

道端などで普通に見られる繁殖力の強いキク科オニタビラコ属の野草の越年草です。長い花茎にタンポポ(蒲公英)を地味に小さくしたような薄黄の小さな花弁を付けます。花後には白い綿毛(冠毛)が出来ます。地面際に付ける葉は深い切れ込みがあり、葉全体がロゼッタ状に開きます。似た花にもっと背の低い近縁種に水田や田の畦に生える一回り小さなタビラコ(春の七草の仏の座)、藪や田の畦などに多いヤブタビラコなどがあります。名前の由来はタビラコ(コオニタビラコ)に花がそっくり、大きいことから名付けられました。

科目:キク科オニタビラコ属

学名: *Youngia japonica*

別名:

原産地:日本

開花期:4月~10月

花言葉:仲間と一緒に、純愛、想い



オニタビラコ 鬼田平子

ヤブタビラコ 藪田平子

タビラコ 田平子
(春の七草 仏の座)
「コオニタビラコとも呼ばれています」



カタバミ 片喰

カタバミという植物は日本に古来からあって、家紋のモチーフにも使われています。日本ではその旺盛な繁殖力から「子孫繁栄」のシンボルとされています。「カタバミ紋(もん)」は古くから家紋とされ100種類以上ある。

春から秋にかけ黄色の花を咲かせる。花びらは5弁。日向では花を出す、日陰に咲いてしまうと花がしぼんでしまうのが大きな特徴である。日本全土の庭や道ばたなどにふつうに見られる。高さ10~30cm。茎は地をはって広がり、長い柄の先にハート形の3個の小葉をつける。属名の Oxalis はギリシャ語の「oxys(酸っぱい)」に由来する。この属の植物にはしゅう酸を含み酸っぱいものが多いことからきている。昔は真鍮で作った仏具や鉄製の鏡をこれで磨いていた。

科目:カタバミ科カタバミ属

学名: Oxalis cornicula

別名: スイバ、シヨツパグサ

原産地: 主に南アフリカやアメリカ

開花期: 5月~10月

花言葉: 輝く心



170326



オッタチカタバミ

180422



170514

ムラサキカタバミ

180419



アカカタバミ

180317

* 乾燥した場所に多く、葉の色が赤紫色を帯びたものをアカカタバミという場合がある。

■カタバミの仲間

①オッタチカタバミ
北アメリカ原産

②ムラサキカタバミ
南アメリカ原産

③イモカタバミ
南アメリカ原産

④オオキバナカタバミ
南アフリカ原産



中心は淡黄緑色
で葯は白色



中心は紅紫色
で葯が黄色



花径1.5~3cm
葉に紫色の斑点

ハナカタバミ 花片喰

葉の間から花茎を伸ばし、散形花序を出して濃い桃色の花をつける。

散形花序というのは、茎先からたくさん枝が出て、その先に1個ずつ花がつく花序のことである。花径は3センチから5センチと大きく、花の真ん中は黄色い。

中心は薄淡緑色で葯は黄色。

科目：カタバミ科カタバミ属

学名：Oxalis bowiei

別名：オキザリス・ボーウィー

原産地：南アフリカ

開花期：9月～11月

花言葉：心で感じる



オキザリス・桃の輝き

園芸種として持ち込まれたものを交配して日本で作られた新種かも知れません。花の形がおもしろく完全に開花すると5弁の花弁が少し重なってスクリュウのように広がるようです。夜になると花が閉じます。また夜ではなくとも、温度が低かったり暗い環境で花は閉じます。

科目：カタバミ科カタバミ属

学名：Oxalis 'momo-no-kagayaki'

別名：

原産地：南アフリカ

開花期：10月～3月

花言葉：輝く心、母親の優しさ、喜び



アメリカフウロ 亜米利加風露

戦後、牧草などに種子が混ざっていて、持ち込まれたものという。路傍や荒地、畑などに生育する。放棄畑などの肥沃な場所では高さ40cmほどに生育して大きな株となるが、路傍などの荒地では、地面を這って小型である。葉の縁や葉柄・茎は赤味を帯びることが多い。花弁は長さ5mmほどで、淡紅色からほとんど白色までの変異があるが、淡紅色のものが多い。萼の縁には毛が多く、先端はこん棒状の突起となっている。雄しべは10本で、雌しべの周りに集まっている。自家受粉するのかもしれない。

科目：フウロソウ科フウロソウ属

学名：Geranium carolinianum

別名：

原産地：北アメリカ

開花期：5月～6月

花言葉：誰か私に気づいてください



180422

アメリカフウロ

ゲンバショウコ
(フウロソウ)



ミチバナナデシコ(新称) 道端撫子

今までイヌコモチナデシコと誤同定されていた*P. nanteuillii*に、ミチバナナデシコという新称が与えられた。(松江の花図鑑より) 秋に芽生え、5月から6月にかけて花を咲かせる越年草。道路沿いや造成地などの荒れ地に生育する。根生葉は小さくて目立たず、茎とふくれた花序ばかりが目立つ植物である。茎は下部で分岐し、高さ30cmほどになる。茎は無毛型と有毛型がある。葉は線形で対生し、基部が合着して鞘状になる。茎の頂に球状の花序をつけ、直径1cmほどの淡紅色の5弁花を苞片の間から出す。種子は盾形で細かいこぶ状隆起がある。

科目：ナデシコ科コモチナデシコ属

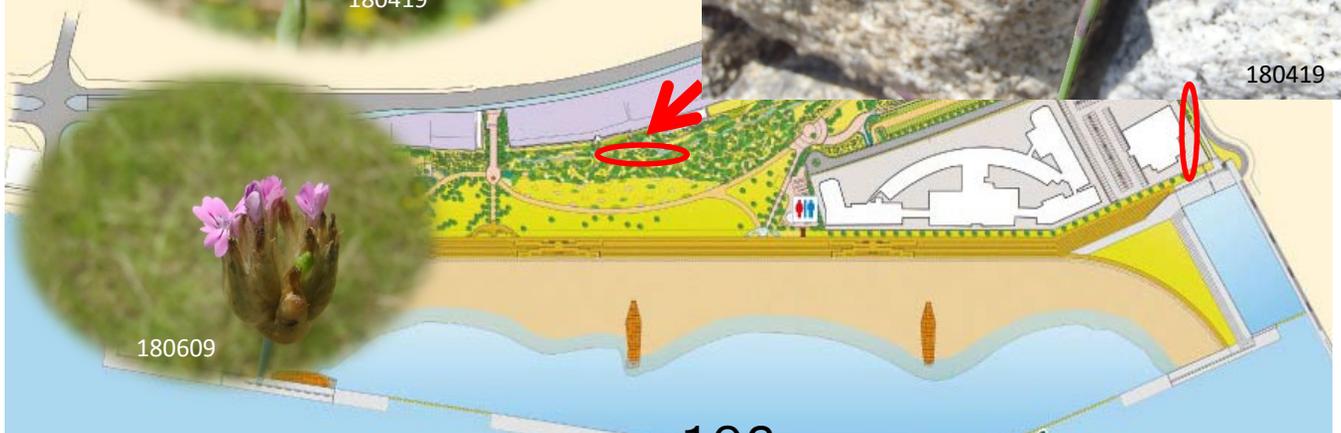
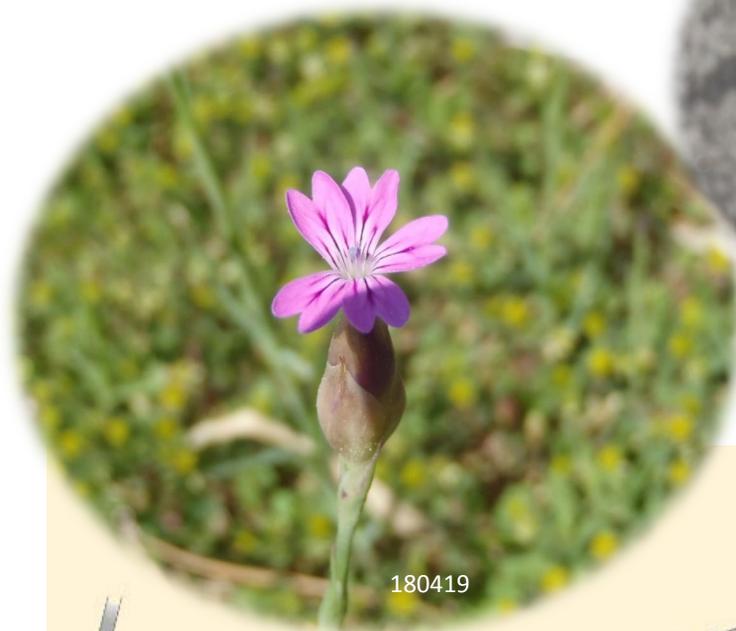
学名： *Petrorhagia nanteuillii*

別名：イヌコモチナデシコ(旧称)

原産地：ヨーロッパ

開花期：5月～6月

花言葉：・・・



シロバナマンテマ 白花まんてま

シロバナマンテマは、マンテマ属の基本種の1年草～越年草。いずれもヨーロッパ原産の帰化植物で、海岸の砂浜や草地、海岸に近い都市の植え込みなどに生える。最初、観賞用に移入されたが、現在では広く野生化している。

白花という名前だが、花弁は白色または淡紅色。全ての花が同じ方向を向いて咲いている。マンテマとは花の色がちがうので一目瞭然だが、花弁がマンテマより細身であることもちがう。

茎や萼筒に腺毛が多くべたべたする。最近ではマンテマよりシロバナマンテマを見ることのほうが多くなった。

科目：ナデシコ科マンテマ属

学名：Silene gallica var. gallica

別名：

原産地：ヨーロッパ

開花期：5月～6月

花言葉：マンテマ属として 偽りの愛、落とし穴



* イタリーマンテマ

シロバナマンテマの変種で別名を毛無マンテマという。全体に毛が無いのが特徴

シロバナマンテマ

花弁は白または薄紅色



マンテマ

花弁は赤い花を白で縁取りしている



サクラマンテマ

サクラのような花を咲かせるマンテマ フクロナデシコとも呼ばれている



セイヨウヒキヨモギ 西洋引蓬

河川敷や路傍等に自生している1年草の半寄生植物。自身にも葉緑体を持ち光合成を行う一方でヨモギなど他の植物の根に寄生して養分と摂っています。1973年に千葉県で発見された帰化植物です。茎は直立し、開出した腺毛が生える。葉はやや厚く、茎の上部で互生し、下部では対生し、基部で茎を抱き、両面に毛が生える。茎の上部で互生し、下部では対生する。5月から6月にかけて上部の葉腋から唇形の花を咲かす。花冠は黄色で、下唇が3裂している。

科目：ゴマノハグサ科セイヨウヒキヨモギ属

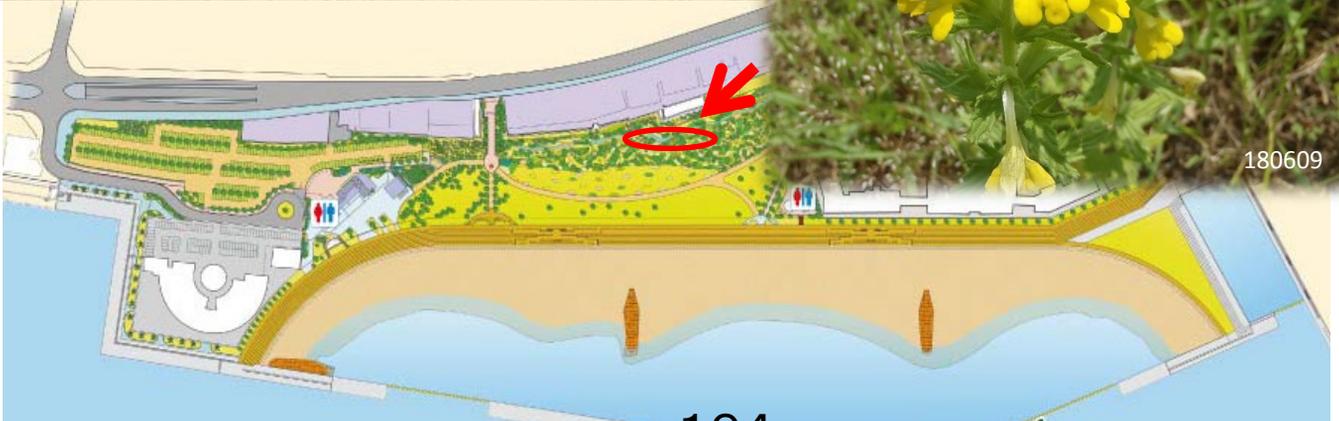
学名： *Parentucellia viscosa*

別名：

原産地：西ヨーロッパ

開花期：5月～6月

花言葉：



ニワゼキショウ 庭石菖

明治中期に渡来し、各地に広く帰化している。日当たりのよい芝生や道ばたなどに生え、高さ10~20cmになる。

直径1.5cm程度の小さな花を咲かせる。花弁は6枚に分かれる。花色は白のものと赤紫のものがあり、中央部はどちらも黄色である。花は、受精すると、一日でしぼんでしまう。

葉が石菖(せきしょう)というサトイモ科の植物に似ていて、庭によく生えるところから、庭石菖の名になった。

背が高く花は小さいよく似た仲間に**オオニワゼキショウ**がある。高さ20~30cmと、ニワゼキショウより大きくなるが、花は逆に小さく、直径約1cm。

科目:アヤメ科ニワゼキショウ属

学名: *Sisyrinchium rosulatum*

別名: ナンキンアヤメ(南京文目)

原産地: 北アメリカ

開花期: 5月~6月

花言葉: 繁栄、豊かな感情、豊富、愛らしい人、きらめき



オオニワゼキショウ 大庭石菖

科目:アヤメ科ニワゼキショウ属

学名: *Sisyrinchium iridifolium* var. *laxum*

原産地: 北アメリカ

開花期: 5月~6月

花言葉: 清らかな貴婦人

▼ニワゼキショウ



- ・花被片は同形
- ・花径1.5cm程度



・草丈10~20cm

▼オオニワゼキショウ



- ・内と外の花被片の幅が違う
- ・花径1cm程度



・草丈20~30cm

背は高いが花は小さく
さく果は大きい



花弁はニワゼキショウより細く
白色で、中心部は黄色一色
花径1cm、草丈3~10cm

セッカニワゼキショウ 雪花庭石菖

科目:アヤメ科ニワゼキショウ属

別名: コニワゼキショウ 小庭石菖

コバンソウ 小判草

日本へは明治時代の初期に観賞用として渡来。イネ科の植物(一年草)なので、小花をたくさんつけた小穂ができる。それが細い柄につり下がった形でつく。小判のような形をした黄緑色の実がなるので、小判草と呼ばれています。ユニークな姿をしたイネの仲間です。小判のような実は花びらのない花の集まりの花序になっていて、雄しべが少し出ているのが見て分かります。

科目：イネ科コバンソウ属

学名：Briza maxima

別名：タワラムギ(俵麦)

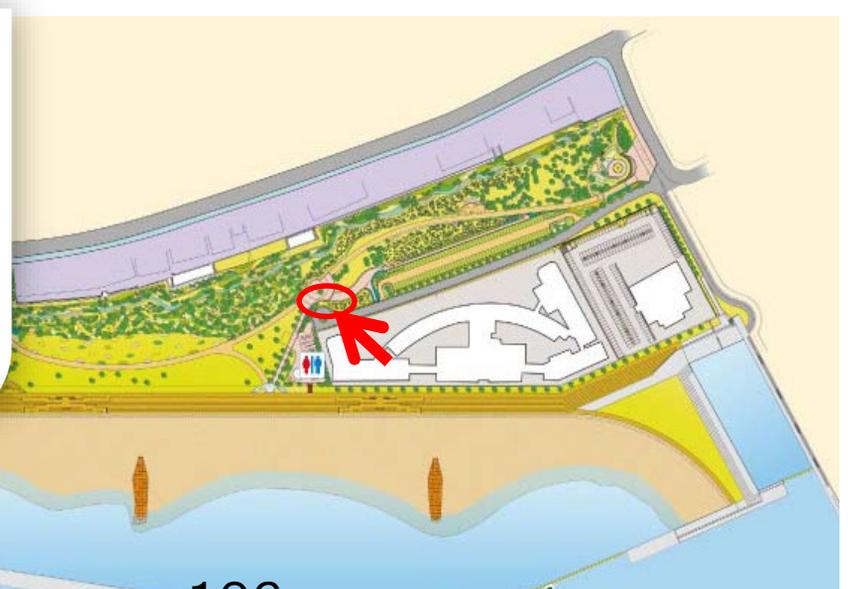
原産地：ヨーロッパ

開花期：5月～6月

花言葉：興奮



▼ヒメコバンソウ 姫小判草



チガヤ 茅萱

日当たりのよい空き地に一面にはえ、細い葉を一面に立てた群落を作り、白い穂を出す。細長い円柱形の穂を初夏に出して葉よりも高く伸び上がり、まっすぐに立ちます。

花穂は白い綿毛に包まれます。綿毛となった種子は風を受けて遠くまで飛んでいきます。

日本では、ススキなどの侵入を受けて、背の高さで劣るため、チガヤは次第に姿を消していったが、熱帯から亜熱帯にかけての雨季と乾季のはっきりした地域ではチガヤは非常によく繁殖し、「世界最強の雑草」という称号すらある。

科目：イネ科チガヤ属

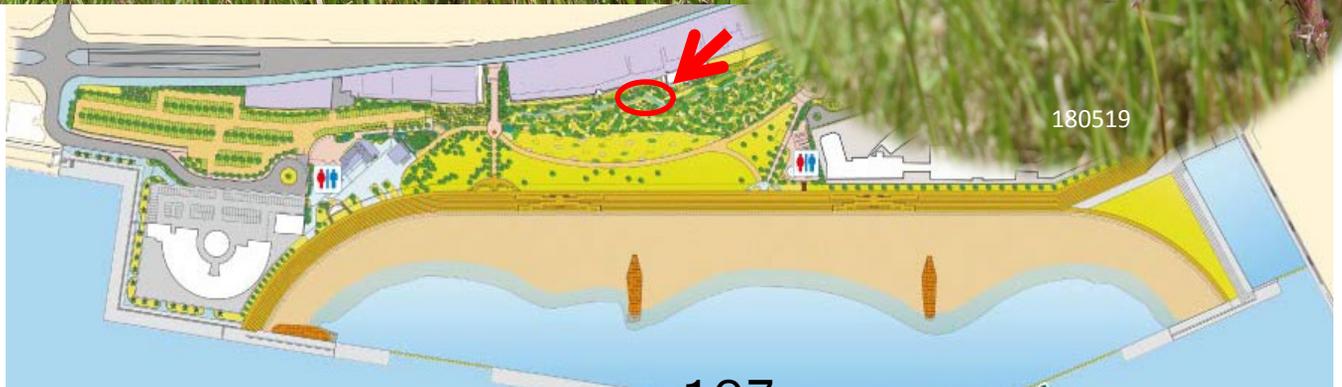
学名：Imperata cylindrica var. koenigii

別名：チバナ、ツバナ(茅花)

原産地：アジア、アフリカ

開花期：5月～6月

花言葉：守護神、親しみ深い



マメゲンバイナズナ 豆軍配齋

ナズナに似た花を咲かせ果実の形が軍配に似ているから「軍配齋」、軍配齋より小さいため「豆」とつく。アブラナ科の一年草、越年草の北米原産の帰化植物。草丈は20～60cm、茎は直立しじょうぶで分岐する。5～6月頃枝先に総状花序をだし、緑白色の小花を多数咲かせる。明治末期ごろに神戸市内で採取され、その後日本全国に広がっていった。

科目：アブラナ科マメゲンバイナズナ属

学名：Lepidium virginicum

別名：神戸齋、西洋軍配齋

原産地：北アメリカ

開花期：5月～6月

花言葉：頑張って、応援



180519



180519

180524

下記比較写真は「植物図鑑・撮れたてドットコム」より掲載

▼マメゲンバイナズナ 豆軍配齋

▼ゲンバイナズナ 軍配齋

▼ナズナ 齋



花期5月～6月



花期4月～6月



花期11月～6月

ヒナキキョウソウ 雛桔梗草

日当りのよい草地、道端などに生育している。茎はほとんど分岐せず直立し、キキョウソウに比べて茎は細く、短毛が生えている。

花は紫色の5弁花で、頂部の花以外はほとんど閉鎖花になる。開放花は少なく普通最上部の葉腋に1個付く。閉鎖花は葉腋に1個ずつ付き、花を咲かせることが無く、自家受粉して実になります。種子が成熟すると、果実の側面に窓が開き、風に揺られて種子がこぼれ落ちる。

科目：キキョウ科キキョウソウ属

学名： *Triodanis biflora*

別名：ヒメダングキキョウ(姫段々桔梗)

原産地：北アメリカ

開花期：5月～7月

花言葉：陽気で明るい、優しい愛



キキョウソウ 桔梗草

丸い葉が茎に段々に付き、花を包むようにしている。何輪もの花を一度に咲かせます。

ヒナキキョウソウ 雛桔梗草

キキョウソウより葉が小さく尖っていて、花もわずか大き目で、頭頂部に一輪しか咲かせない。茎の下に付いているのは全て閉鎖花。

ヒナギキョウ 雛桔梗

花は一個ずつ上向きに付け、葉はへら型。



ヒナギキョウ 雛桔梗

日当たりの良い原野に生育する小型の多年草。高さ20～40cmになり、小型ではあるが長い柄の先にキキョウにそっくりの小さくて愛らしい花を付ける。枝先に青紫色の花を1個ずつ上向きにつけ、花径5ミリほど。まれに白花も見られます。葉は長さ2～4cm、幅3～8ミリのへら型で、茎は細く、まばらに枝分かれする。

科目：キキョウ科ヒナギキョウ属

学名： *Wahlenbergia marginata*

別名：

原産地：日本、朝鮮半島、中国

開花期：5月～9月

花言葉：少女の優しさ、少女の恋



ヒメジョオン 姫女苑

一年草、越年草。茎は直立、高さ50～130cm、淡緑色、あらい毛がまばらに生え、中心部に白色の髓があり中空でない。根生葉は長柄があって円形に近く、大きな深い鋸歯があり、花時には消失。茎上の葉は緑色、柄は不明瞭で粗い鋸歯があり、へりと下面中央脈上には立った長毛がある。江戸時代末に観賞用（ヤナギバヒメギク(柳葉姫菊)）などの名で観賞された）として渡来、明治には雑草化。同属のハルジオンと共に、道端でよく見かけられ、花がよく似ていて混同されることがある。

科目：キク科ムカシヨモギ属

学名：Erigeron annuus

別名：ヤナギバヒメギク(柳葉姫菊)

原産地：北アメリカ

開花期：5月～10月

花言葉：素朴で清楚



ハルジオン 春紫苑



開花期 ・3月～7月(春から夏に咲く)
花びら ・ピンクほく糸のように細い
茎を折る ・中が空洞

葉の付き方 ・茎を抱くようにして葉を付ける

ヒメジョオン 姫女苑



・5月～10月(初夏から秋に咲く)
・白くて多少幅がある
・白い綿のようなもの(髓)が詰まっている
・まっすぐに抱かずに付く

ネジバナ 捩花

芝生や湿地帯の明るい場所に普通に見られる多年草です。株の中心から高さ15～40cmの花茎をまっすぐに伸ばして、らせん形に花をつけます。1つの花は5mm弱ですが、通常明るい桃色と独自の形で目立ちます。右巻きと左巻きの両方があり、中には花序がねじれない個体や、途中でねじれ方が変わる個体もある。花後、タネを散らすと株は一時休眠して、その後、芽を出します。

科目：ラン科ネジバナ属

学名：Spiranthes sinensis

別名：モジズリ、ネジリバナ、ヨリジンボウ

原産地：日本含む東アジア

開花期：5月～7月

花言葉：思慕、恋しく思うこと



ノボロギク 野檻樓菊

世界中に帰化しており、日本には明治の始めに渡来した。帽子をかぶったような黄色い花と、花穂の下の方に 黒いギザギザのような小さい受け皿部分があるのが特徴。葉はギザギザでつやがあって柔らかく、シュンギクに似た形。

和名は野に咲くサワギク(ボロギク)の意味でノボロギクと命名されたとする説が有力である。1年又は越年草でタンポポ(蒲公英)のような白いボワボワの「冠毛」が出来て、風に乗って飛散する。

科目：キク科キオン属

学名：Senecio vulgaris

別名：ネンガラグサ

原産地：ヨーロッパ

開花期：ほぼ通年(主に5月～8月)

花言葉：一致、合流、遭遇



ノアザミ 野薊

花時に、草丈50cmから1mほどになる多年草です。日当たりのよい草地を好みます。花冠は径4cmほどの淡紅紫色です。多数の筒状花からなっていて花弁(舌状花)はありません。葉は、根生葉では長さ15cm前後で放射状(ロゼット葉)に地際に広がります。葉は羽状に深く裂れ込み、葉の縁に小さなトゲが多くあり触ると痛い。茎葉にも小さなトゲがあり、基部は茎を抱きます。なお、アザミの仲間では春(~初夏)に花をつけるのはこのノアザミだけです。

科目：キク科アザミ属

学名： *Cirsium japonicum*

別名：

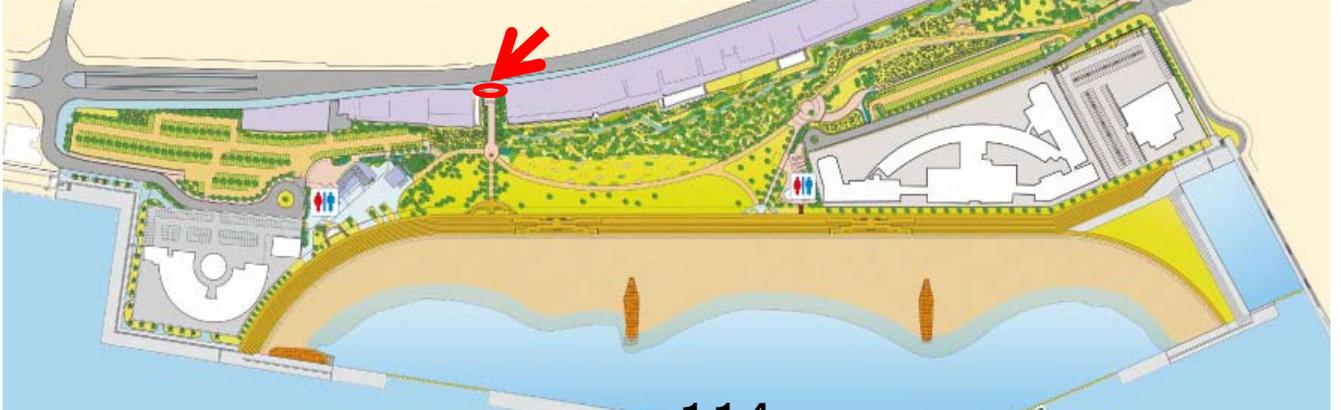
原産地：日本

開花期：5月～8月

花言葉：権利、私をもっと知ってください



170429



ブタナ 豚菜

外観はタンポポに似るが、ブタナは30～60cm程度の花茎が途中で数本に枝分かかれし、それぞれの頭に直径3cmほどの黄色い花をつけるのが特徴。また花茎に葉は付いていない。葉はロゼット状で裏にびっしりと毛が生えており、根は深い。たくさんブタナが隙間なく群生し、さながら黄色い絨毯を広げたような光景は美しいが、群生した地域では芝生が枯れてしまうなどの被害も発生するため、害草として駆除されてしまうことも多い。

ブタナの名前の由来はフランス名の「ブタのサラダ」を訳したもので、別名タンポポモドキと言われていますが、タンポポより背丈があり、茎は細めでスッキリした感じます。

タンポポ属は1つの花茎に1つの頭花をつけるが、ブタナは花茎が枝分かれて複数の頭花をつける。

世界中に帰化し、日本には昭和初期に入ってきたとされます。

科目：キク科エゾコウゾリナ属

学名：Hypochaeris radicata

別名：タンポポモドキ

原産地：ヨーロッパ

開花期：5月～9月

花言葉：最後の恋



コマツヨイグサ 小待宵草

名前の由来はその特性から夕暮れを待つようにして花を咲かせる事から、宵を待つ草という意味でマツヨイグサ(待宵草)と呼ばれ、花の大きさが小さいことから呼ばれている。マツヨイグサと違い茎は立たずに這う。マツヨイグサのように花は午後、夕方近くに開き、翌日の朝には萎んでしまう。(曇りの日には昼過ぎまで咲く)萎むと赤みを帯びている。

都会の荒れ地や河原などに生育し、特に海岸の砂浜などによく見られる。生える場所は海岸か海岸に近い草地に限られ、ほかのマツヨイグサ属の仲間のように、内陸で見ることはない。鳥取砂丘を緑化し、生態系を崩す事から外来生物法により要注意外来生物に指定され、現在各地で駆除が実施されている。

科目：アカバナ科マツヨイグサ属

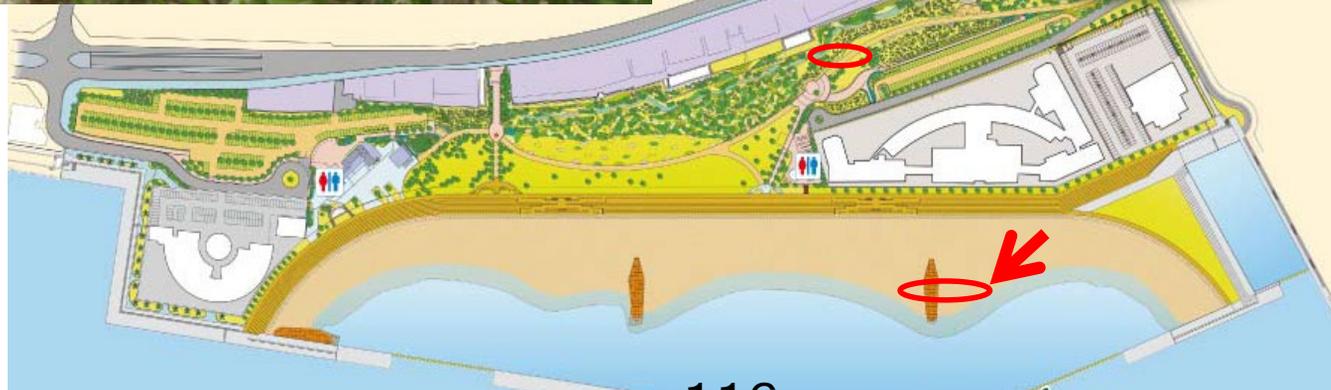
学名：Oenothera laciniata

別名：

原産地：北アメリカ

開花期：5月～9月

花言葉：ほのかな恋、入浴後の乙女



ユウゲシヨウ タ化粧

明治時代から栽培されはじめたといわれる。現在では関東地方以西に野生化している。和名の由来は夕方から咲くことによるが、現在では昼間から咲いている。

白粉花(オシロイバナ)の通称も「タ化粧」で紛らわしいため赤花タ化粧(アカバナユウゲシヨウ)の名で区別することもある。

科目: アカバナ科マツヨイグサ属

学名: *Oenothera rosea*

別名: アカバナユウゲシヨウ

原産地: 南アメリカ

開花期: 5月~9月

花言葉: 臆病



ウラジロチチコグサ 裏白父子草

昭和40年代後半に知られるようになった帰化植物。花期までは地をはうようにして茎を伸ばし、花が咲きだす茎を立たせませす。茎は太くしかりして、かなり大型で、高さ50cm以上にもなります。「うらじろ」と名のとおり、葉の裏側、茎は白い毛で密に覆われています。毛で真っ白です。葉を見ると、縁が波打っています。これも大きな特徴です。

科目：キク科チチコグサモドキ属

学名：Gamochaeta coarctata

別名：

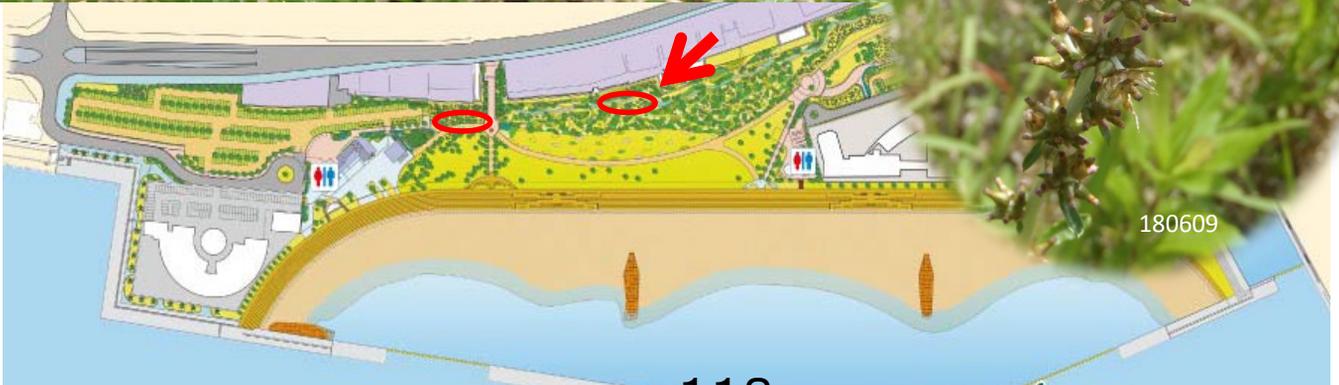
原産地：南アメリカ

開花期：5月～9月

花言葉：興奮



180609



180609

チチコグサ 父子草

乾いた丘陵や野原に自生する多年草。中国では全草を風邪・咳・頭痛などに用います。ハハコグサに比べ葉は細く表面はくすんでいる。和名はハハコグサに対してつけられたが、花は貧弱でさえない。

しかも散歩道には、古くから日本に生育しているチチコグサよりタチチコグサ、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ等のアメリカ大陸からの帰化種が繁茂している。

ハハコグサは春の七草のオギョウ(ゴギョウ)の別称で、七草ガユに入れられ食用とされたが、草餅(くさもち)の材料としても名を成した花である。

科目：キク科ハハコグサ属

学名：Gnaphalium japonicum

別名：

原産地：日本、朝鮮半島、中国

開花期：5月～10月

花言葉：父の愛情



170903



180721



ハクチョウソウ 白蝶草

北アメリカ原産の帰化植物で毎年花を咲かせる多年草。観賞用の栽培から自生に転じたものも多い。明るい林内や草地、道ばたなどに生え、高さは60～120センチになります。葉は狭披針形で粗い鋸歯があります。初夏から秋にかけて、長い花茎を伸ばして総状花序をだし、たくさんの白い花を咲かせます。鳥の白鳥の名前と誤ってしまいが、鳥ではなく蝶のこと。名前は、この花のかたちがチョウチョが舞うように見えることから。花色がピンク色や赤色などの園芸品種もあります。1つ1つの花の寿命は2～3日と短いですが、長い期間花が楽しめる植物です。

科目：アカバナ科ガウラ属

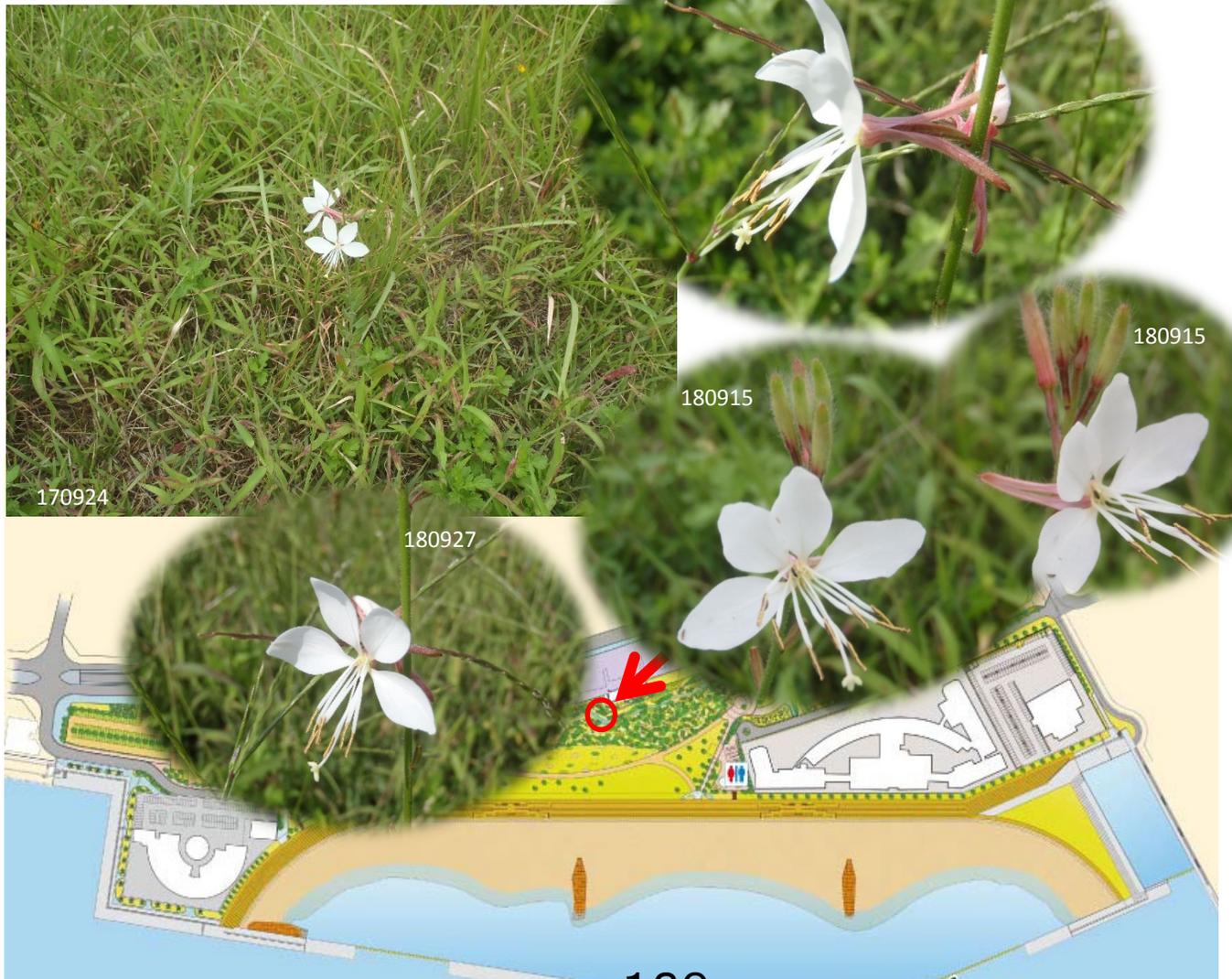
学名：Gaura lindheimeri

別名：ガウラ、ヤマモモソウ

原産地：北アメリカ

開花期：5月～10月

花言葉：負けず嫌い、清楚、我慢できない、行きずりの恋



アレチノギク 荒地野菊

南アメリカ原産の帰化植物で越年草。明治の中頃に渡来。

路地や荒地に見られ、草丈は30～50cm程。秋に葉を出しロゼット状になり越冬する。根性葉は羽根状に裂け、茎葉は鋸歯がほとんどなく、線形。夏には茎の上部に多数の花をつける。花はずんぐりした樽型の頭状花で、長さ5mm程度。舌状花は目立たず花弁がない花に見える。筒状花は灰黄色で冠毛は白色を経て淡褐色になる。

科目：キク科ムカシヨモギ属

学名：Erigeron bonariensis

別名：

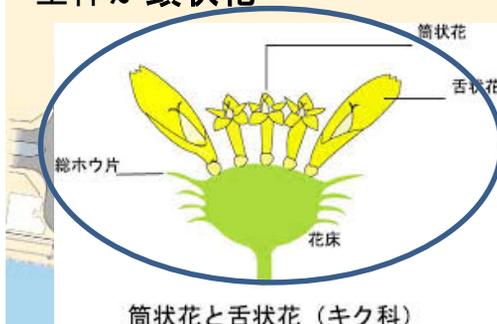
原産地：南アメリカ

開花期：5月～10月

花言葉：真実



多数の花(小花)が集まって、
一つの花の形を作るもの
全体が頭状花



■アレチノギク
樽型の頭状花
草丈30-50cm



■オオアレチノギク
細めの徳利型
草丈1.5-2m
* 姫昔蓬に似ている

ガザニア

ガザニアはキク科ガザニア属の総称です。主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(ツートンカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花径は5cm~10cmになります。一重咲きが多いですが、八重の園芸品種もあります。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。葉はヘラ状、もしくは切れ込みのある羽状で、茎はほとんど伸びず葉は地際あたりで茂ります。

科目:キク科ガザニア属

学名:Gazania

別名:クンショウギク(勲章菊)

原産地:南アフリカ

開花期:5月~10月

花言葉:あなたを誇りに思う、笑顔で答える、身近な愛



へらオオバコ 笹大葉子

ヨーロッパ原産の帰化植物で、江戸時代には渡来したという。多年生の草本で地下に太い根茎がある。細長いへら状の葉を水平から斜め上に放射状に伸ばし、その上へ茎を幾本もひよろひよろと30から50センチくらいに伸ばして花の穂をつける。穂には小さな花が密生しており、下から上へと次々に咲き上がっていく。穂の周りに細かい糸に支えられてつき、白い輪のように目立つのはおしべである。環境省指定の要注意外来生物に指定されている。生育地は路傍や牧草地、堤防などであり、刈り取りには強いものの、踏みつけには弱い。

科目：オオバコ科オオバコ属

学名： *Plantago lanceolata*

別名：

原産地：ヨーロッパ

開花期：6月～7月

花言葉：惑わせないで



エノコログサ 狗(犬)尾草

世界の温帯から暖帯にかけて広く分布する一年草である。ブラシのように長い穂の形が独特な雑草である。夏から秋にかけてつける花穂が、犬の尾に似ていることから、犬っころ草(いぬっころくさ)が転じてエノコログサという呼称になったとされ、漢字でも「狗(犬)の尾の草」と表記する。

科目：イネ科エノコログサ属

学名：Setaria viridis

別名：猫じゃらし

原産地：日本など世界の温帯地方

開花期：6月～9月

花言葉：遊び、愛敬



170820



170924



キンエノコロ

171007

エノコログサ



花期 6～9月
花序は緑色で直立

アキノエノコログサ



花期 8～11月
エノコロより大きめで先が垂れる

ムラサキエノコロ



花期 7～10月
刺毛は紫色

キンエノコロ



花期 8～10月
刺毛は黄金色で直立

ツククサ 露草

畑の隅や道端で見かけることの多い一年草。あまりにもありふれているので、遠くから眺めてツククサか、と済ませてしまいがちですが、よく見るとなかなか面白いところもあります。二つ折れになった苞(ほう)葉の間から青色の花が次々と咲く。花は一日花である。早朝に咲き出して、午後にはしぼんでしまう。3枚の花びらのうち2枚が大きい。残りの1枚は小さな白い色をしている。雄しべは6本ある。そのうち2本が長く、花粉を出す。残りの4本は黄色くて目立つが、花粉は出さない仮の雄しべである。

科目：ツククサ科ツククサ属

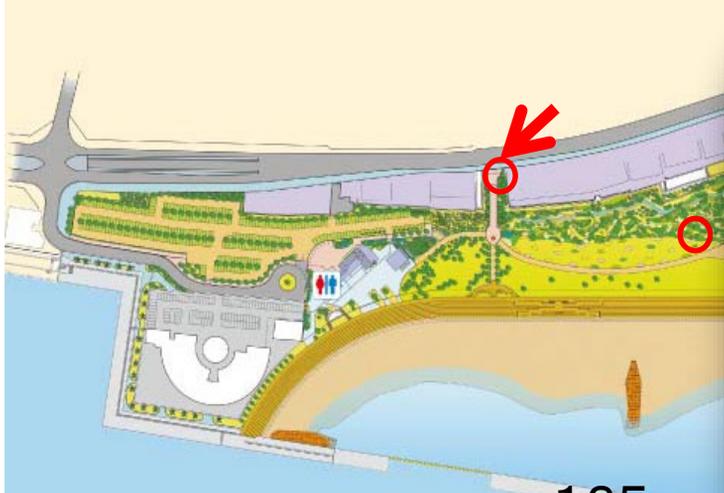
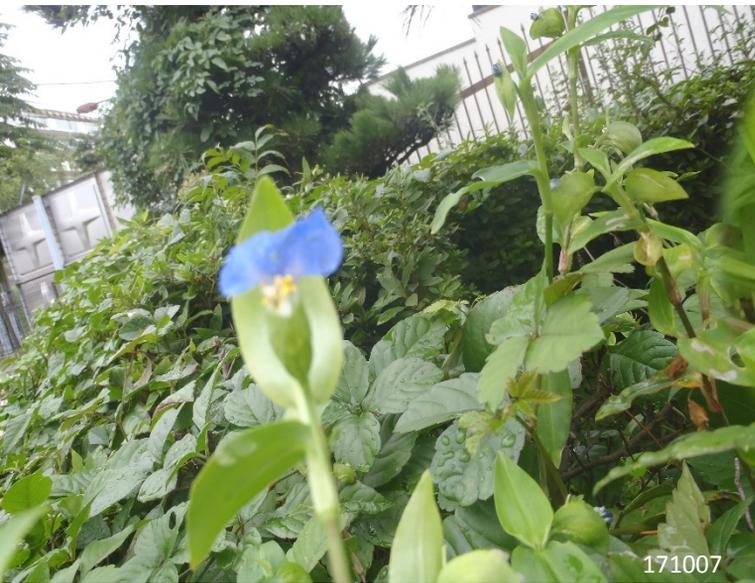
学名：Commelina communis

別名：蛍草、青草、月草、帽子草

原産地：日本、東南アジア

開花期：6月～9月

花言葉：尊敬、なつかしい関係、わずかな楽しみ



メリケンムグラ 米利堅葎

1969年に岡山県で見つかり、現在は東海、近畿以西に分布している一年草。

メリケンとはアメリカのことです。小麦粉をメリケン粉とも言いますが…

茎の断面は四角形で、地面を這って広がる。葉は細長い楕円形で向かい合って生える(対生)。葉の脇に花径1センチくらいの白い小さな花をつける。

花冠は筒形で、先は4つに裂ける。

花卉には微毛があり、朝咲いて夕方にしぼむ1日花です。

科目：アカネ科オオフタバムグラ属

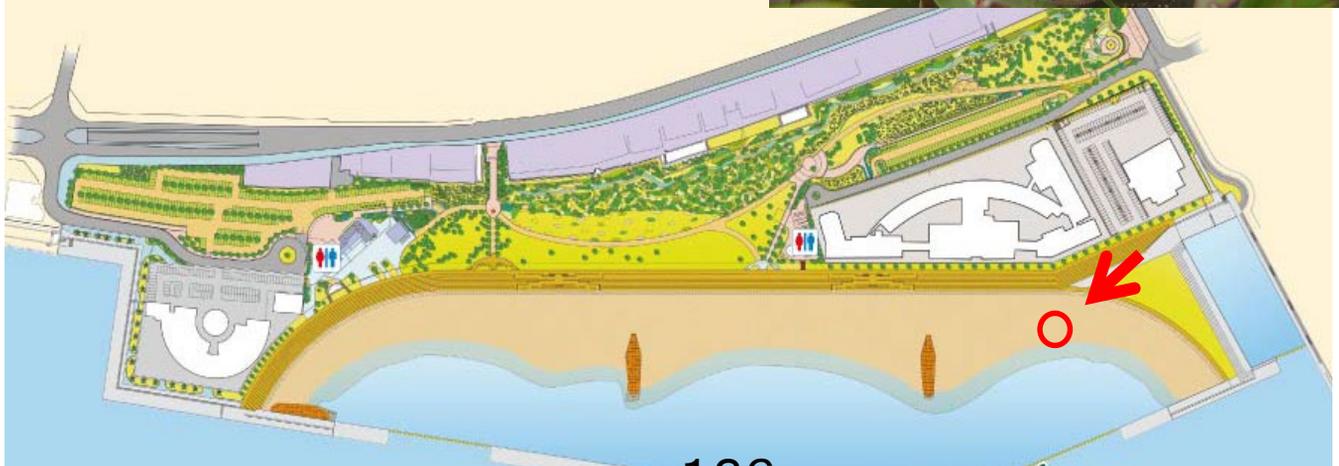
学名： *Diodia virginiana*

別名：

原産地：北アメリカ

開花期：6月～9月

花言葉：



スベリヒユ 滑莧

畑の雑草であるが、路傍や荒地にも生育している。葉は厚ぼったく、光沢がある。茎も多肉質であり、乾燥に強い対応能力を持っていることが予想される。昔から食用にされていたようで、ゆでておひたしにしたり、生や炒めてサラダにしたり、干して保存食に。ゆでると粘液がでるとのことで、それがスベリヒユの名前の由来となっている。近縁種に花が大きく花卉(カキ)園芸によく使われ、スベリヒユ属の学名に由来した「ポーチュラカ」の名で親しまれるハナスベリヒユがある。

科目：スベリヒユ科スベリヒユ属

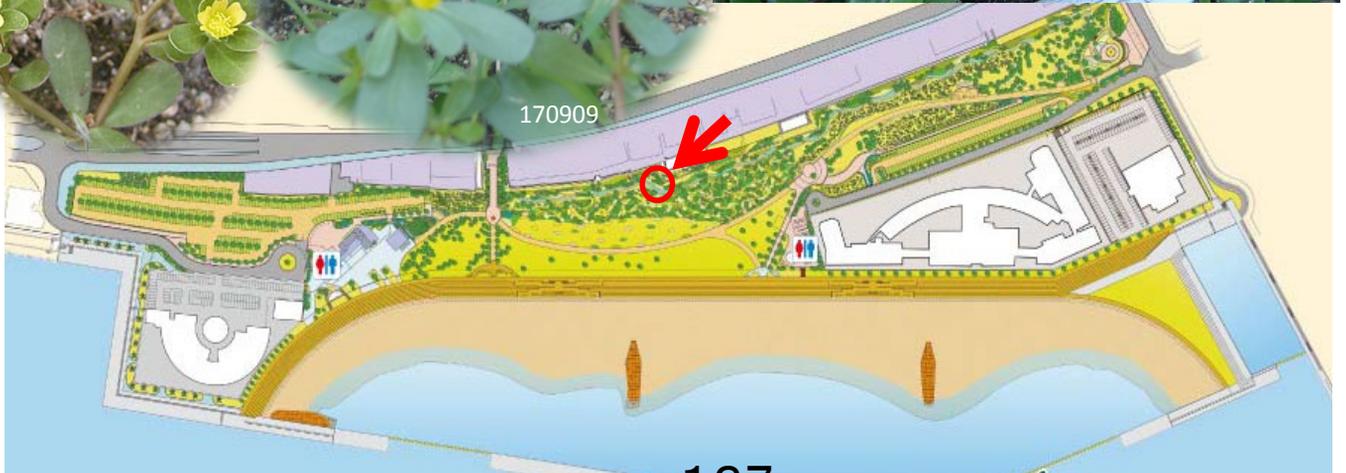
学名：Portulaca oleracea

別名：ヒデリグサ

原産地：南アメリカ(史前帰化植物)

開花期：6月～9月

花言葉：無邪気、暴れん坊



ノブドウ 野葡萄

日当たりのよい林縁やがけ地に、巻ヒゲで他の植物にからみついているつる性落葉低木。草本とする場合もあります。晩夏～初秋に径2～3mmほどの帯黄緑色の小さな花を小さな傘型(集散花序)につけます。花序は枝に比較的多くつけます。初秋に、ブドウのミニチュアのような径7mmほどの緑色の球形の果実をまばらな穂状につけますが、熟すと光沢のある青色や紫色などに色づく。白い実は本来の実であり、青色や紫色の実は虫が寄生している寄生果である。

科目：ブドウ科ノブドウ属

学名： *Ampelopsis glandulosa* var. *heterophylla*

別名：

原産地：日本、東アジア

開花期：7月～8月

花言葉：慈悲、慈愛、人間愛



170915

180818

170924



イガオナモミ 毬雄奈毛美 毬雄卷耳

戦後、日本に帰化したキク目キク科オナモミ属の1年草です。海岸近くの荒地でよく見られる。茎はよく分枝し、下向きの短い刺が生え、赤い斑点がある。葉は互生し、葉身とほぼ同長の柄がある。7～10月頃、葉腋から花序を出し、枝先に雄の頭花が、基部に雌の頭花がつく(雌雄異花)。果実は瘦果(果苞)で、棘が密に生え、表面や棘に毛がある。茶色く熟し、人間の服や動物の毛について運ばれる。

科目：キク科オナモミ属

学名：Xanthium italicum Moretti

別名：

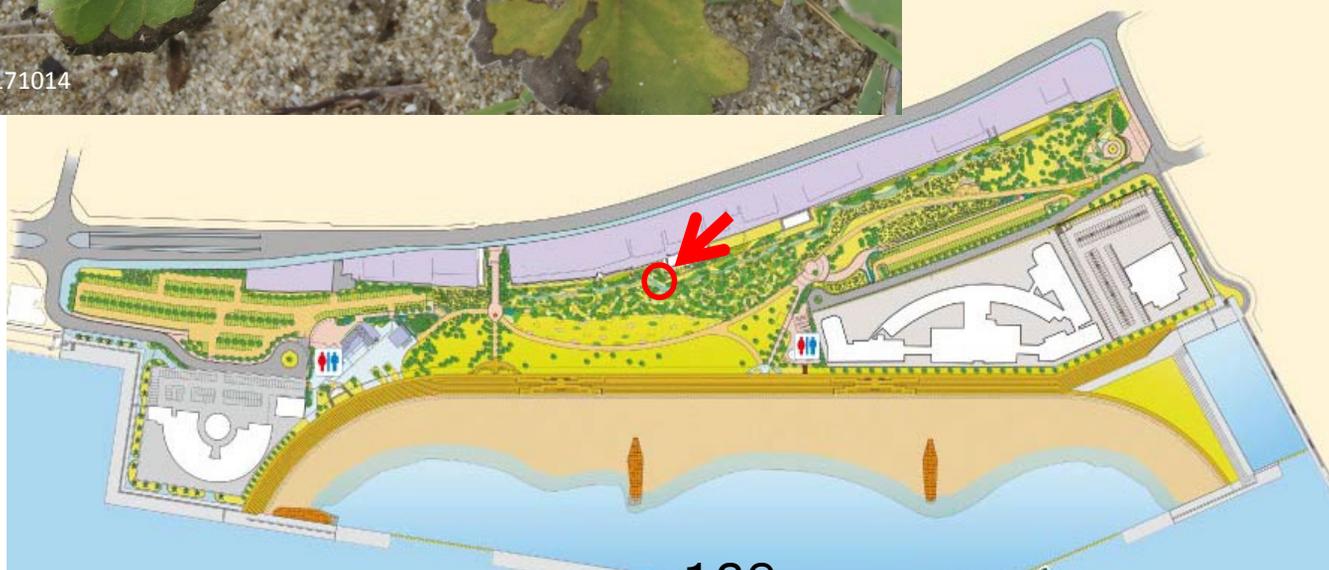
原産地：南北アメリカ、南ヨーロッパ

開花期：7月～10月

花言葉：



171014



メヒシバ 雌日芝

市街地でも里山でも普通によく見られる雑草の1つ。空き地などでは群生している。メヒシバという名はよく似たオヒシバ(雄日芝)に対応して、それより細みで優しげなのでつけられた。オヒシバより踏みつけの頻度の少ない場所に生える。高さは30~70cm程。茎は細く、基部は分枝しながら地表を這い、節々から根を下ろす。花は7月から11月にかけて咲き、3~8に分れている。花茎先端からまとまって出るが、少しずれて二段、あるいは三段に分かれる場合もある。

科目: イネ科メヒシバ属

学名: *Digiaria ciliaris*

別名:

原産地: 日本、世界中の暖帯~熱帯

開花期: 7月~11月

花言葉: 侵略者、情緒不安定



▼メヒシバ 雌日



開花期: 7月~11月

▼コメヒシバ 小雌日芝



開花期: 7月~11月
メヒシバに比べて
全体が小型である

▼アキメヒシバ 秋雌日芝



開花期: 8月~11月
メヒシバよりやや遅れて
穂をだし、茎や葉鞘に
赤味が強いのが特徴

▼オヒシバ 雄日芝



開花期: 7月~10月
メヒシバよりも葉や茎が強く、
花種も大きく男性的

ヘクソカズラ 屁糞葛

ツル性の多年草。茎は左巻きでほかの木や草などにかからまって長くのびる。基部は木質化する。葉っぱはハート型で、先端が尖っています。葉腋から短い集散花序をだし、灰白色の花をまばらにつける。花冠は長さ約1cmの釣鐘状で先は浅く5裂して平開する。秋に、茶色いパチンコ玉のような丸い実をつける。昔は実の汁を、しもやけやあかぎれに塗っていた。葉っぱや花、実をもんだり潰したりすると、悪臭を放つことで知られています。ただ、この臭いは、虫を遠ざける作用があり、ヘクソカズラが自分の身を守るために得たものです。別名の灸花(ヤイトバナ)のほうは、花の中心部の形がお灸の跡に似ているところからきている。

科目：アカネ科ヘクソカズラ属

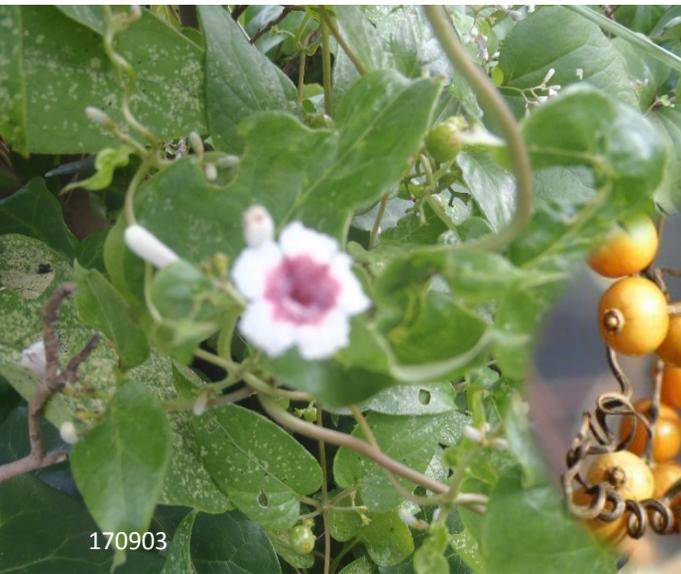
学名：Paederia scandens

別名：ヤイトバナ、サオトメカズラ

原産地：日本、東アジア

開花期：8月～9月

花言葉：人嫌い、誤解を解きたい、意外性のある



170903



180721



イタドリ 疼取 虎杖

たくさんの節がある多年草で、道ばたや土手などに生えている植物です。4～5月に採取できる柔らかい新芽は、山菜として古くから煮物や炒めものにして食べられてきました。若芽と茎は酸味があり食用になり、地下茎は薬用になる。大きめの葉に白い花。花は夏から秋にかけて咲く。秋に、ぶどうのタネみたいな実がなる。雌雄異株で、雄花はおしべが花弁の間から飛び出すように長く発達しており、雌花はめしべよりも花弁の方が大きい。夏には、白か赤みを帯びた小さな花を多数着けた花序を出す。

科目：タデ科ソバカズラ属

学名：Fallopia japonica

別名：スカンポ、スッポン

原産地：日本、中国、台湾、朝鮮半島

開花期：8月～10月

花言葉：回復



イヌクグ 犬莎草

海岸近くの草地に生育する多年草。地下に卵形の根茎がある。葉は幅3~6mmで、花茎より短く、根元に固まってつく。葉鞘は基部がやや膨れ、赤褐色を帯びる。茎頂に葉と同形の苞を3~5個出し、ブラシのような花序を固まってつける。花序の柄は長さが一定せず、ほとんどなくて頭状になることも多い。

科目：イネ科カヤツリグサ属

学名：Cyperus cyperoides (L.) Kuntze

別名：クグ

原産地：日本、東南アジア、アフリカ

開花期：8月~10月

花言葉：



アキノノゲシ 秋の野芥子

一年草、越年草。和名は、春に咲くノゲシに似て、秋に咲くことから付けられた。ノゲシも秋のノゲシもキク科ですが、共に羽状に咲ける葉がケシに似ているので野芥子と名付けられた。頭花はふつう淡黄色、まれに白色、淡紫色で、昼間開き、夕方にはしぼむ。花色が見る人によっては地味と見るかもしれませんが、優しい色合いが初秋の季節にとってもマッチして、絶妙な花色です。春の野芥子はまっ黄色の花を春から夏にかけて咲かせます。

科目：キク科アキノノゲシ属

学名：Lactuca indica

別名：チチクサ(乳草)ホソバアキノノゲシ

原産地：東南アジア(史前帰化植物)

開花期：8月～11月

花言葉：控えめな人、本当は心優しい、幸せな旅



ヒガンバナ 彼岸花

お彼岸の季節、田んぼのあぜ道や土手で見かけることが多いが、彼岸花の球根には、毒がある植物として昔から言われており、野鼠やモグラがあぜ道や土手に穴を開けるのを彼岸花の毒性のある球根を植えることで防ぐためです。またお墓の近くに彼岸花を植えられていたが、昔は遺体を火葬せずに土葬していたため、遺体を傷つけるネズミや土の中にあるモグラなどから守るためです。最近では品種改良もされ、7月～10月までに見ごろ時期を迎える花もありますが、基本となる原種は、お彼岸にあたる秋分の日の前後に赤い花が咲きます。数日で花が終わり茎だけになります。花は赤のほか白、黄色の花弁を持つものがあります。彼岸花は花が咲く時期には葉がありません。葉は花が終わった10月頃から生えてきてます。ロゼット状で冬を越し、翌年の春頃には葉も枯れてしまいます。よって、葉が枯れて花がまた咲くまで、地上からは姿が全く見せません。多くの植物は春先に芽を出し、夏の暑い時期に葉を茂らせ、秋に枯れます。彼岸花の葉は全く逆で、寒い時期に色濃く茂り、春先に枯れ始めます。

科目：ヒガンバナ科ヒガンバナ属

学名： *Lycoris radiata*

別名：曼珠沙華、リコリス

原産地：中国原産の史前帰化植物

開花期：9月

花言葉：あきらめ、悲しい思い出、想うはあなた一人



170929



花はお彼岸頃に数日咲き、茎だけで葉はありません。

170929



180212



180212



180917

ヨモギ 蓬

繁殖力が強く、日本全国いたるところに自生し、葉は大きく裂け、裏面には白い毛を密生する。夏から秋にかけ、茎を高く伸ばし、目立たない花を咲かせる。

ヨモギが体によいことを知っていた昔の人々は、すりおろしたヨモギを傷口にぬったり、餅に練り込んで「天ぷら」や「よもぎ餅」として食べたり、お風呂に入れて「よもぎ湯」にしたり、あらゆることに利用してきました。

また、傷口にヨモギの葉を塗るだけではなく、乾燥させた葉から裏面の綿毛を取れば、漢方療法の一つである「お灸」に使うことができます。

科目：キク科ヨモギ属

学名：Artemisia princeps pamp.

別名：モチグサ、モグサ、サシモグサ

原産地：イスラエル、北アフリカ、日本、朝鮮

開花期：8月～10月 新芽の旬は3月～5月

花言葉：平穩、夫婦愛



▼ヨモギとブタクサの違い ブタクサとヨモギは共に同じキク科の植物で、同じ8月～10月に開花する。(ブタクサは黄色、ヨモギは紫色ぽい花。)

葉だけを見るとキク科特有の葉状をしていて見た目の違いは分かりにくい

- ・草を採って少し揉むと草餅の香りがするのがヨモギ
- ・ブタクサは太い根が下に伸び、ヨモギの根は横へ伸び、非常に長い地下茎
- ・ヨモギの葉には産毛が生えて裏が白い、この毛を集めてお灸に使う「もぐさ」にする

メリケンカルカヤ 米利堅刈萱

和名はアメリカ(アメリカン)から来たカルカヤの意味。

乾燥した荒地から放棄水田、湿地まで広く生育するが、やや乾燥した荒地で目立つ。全体的に毛が多い植物で、花は9月頃に咲き、これまた長い毛が目立つ。この白い綿毛はやがて種子の散布に貢献することになる。タンポポのように風による種子の伝播能力が極めて高くなります。外来生物法により要注意外来生物に指定されている。

科目：イネ科メリケンカルカヤ属

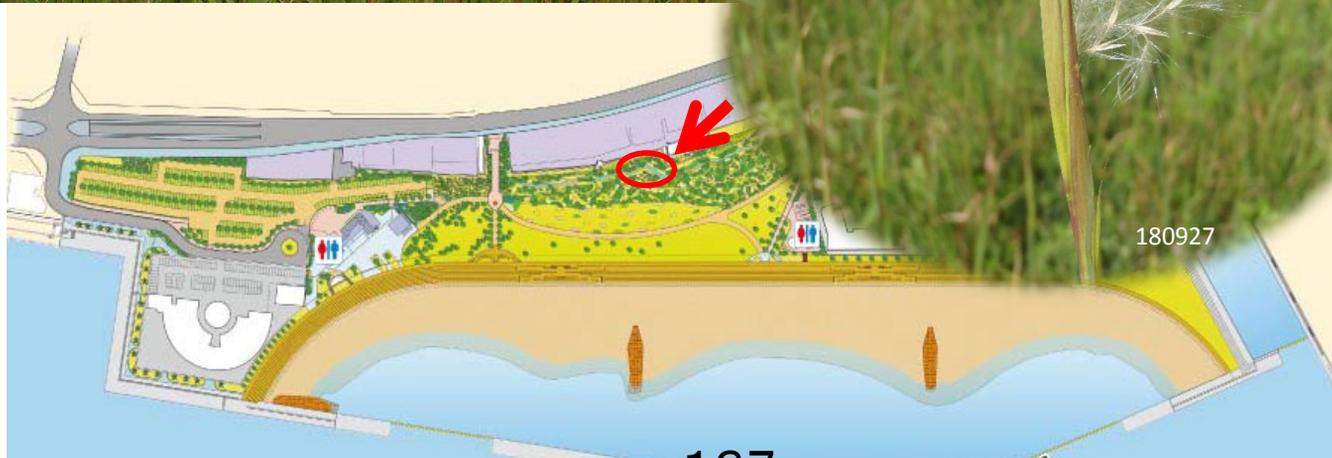
学名：Andropogon virginicus

別名：

原産地：北アメリカ

開花期：9月～10月

花言葉：元気、生命力



セイトカアワダチソウ 背高泡立草

北アメリカ原産の多年草の帰化植物。急速に広がったのは第二次世界大戦後。切り花用のハギ(萩)の代用として用いられ観賞用に栽培されていたものが野生化したり、蜜源植物として優秀であるので養蜂業者が積極的に種子を散布したとの話もある。空き地や放棄畑などに繁茂して大群落を形成することや、花粉アレルギーの元凶であるなどの濡れ衣を着せられたこともあって、嫌われる植物のひとつになってしまった。蜜源植物であることでもわかるように、セイトカアワダチソウは花粉をミツバチなどの昆虫によって媒介させる植物であり、花粉を風に乗せてばらまく植物(風媒花)ではない。秋の終わりの花の少ない季節には、虫にとって蜜の宝庫であり、いろいろな虫が集まる。鬱蒼と茂り、花粉症の風評も癒えず、悪役のイメージが強いが昆虫達にとっては強い味方である。

科目:キク科アキノキリンソウ属

学名: *Solidago altissima*.

別名: セイトカアキノキリンソウ、代萩

原産地: 北アメリカ

開花期: 10月~11月

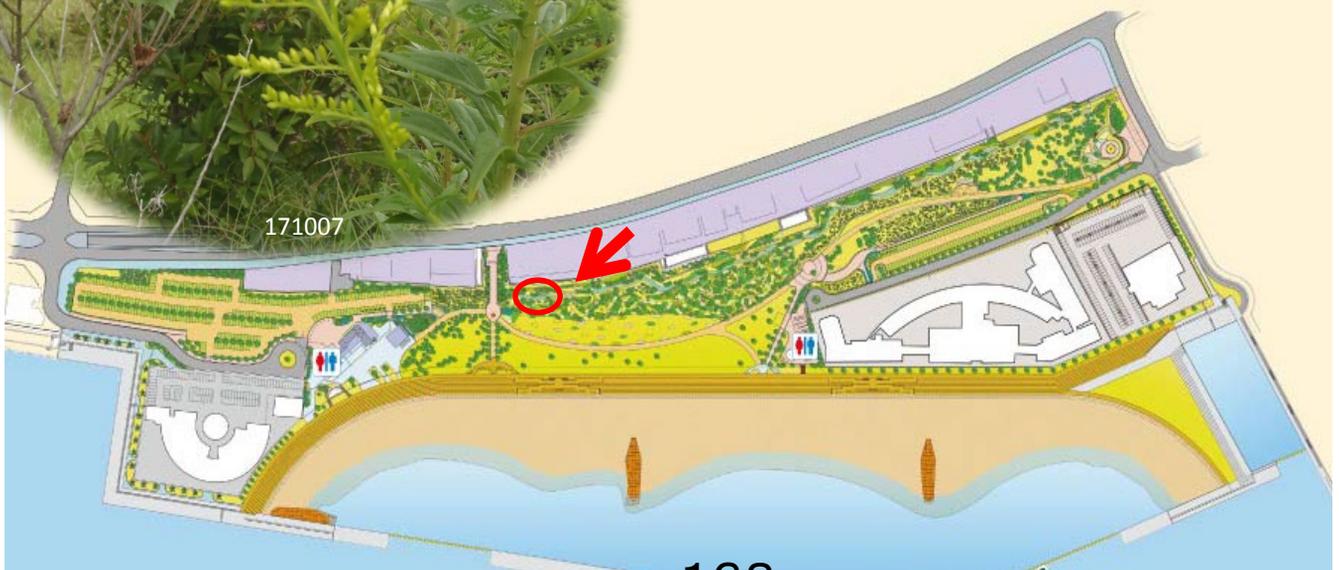
花言葉: 生命力、唯我独尊、元気



171007



171007



ツワブキ 石蓼、艶蓼

主に海に近い海岸線に自生する常緑の多年草です。葉は革質でつやがあり、円くて直径20cm前後あります。新芽は茶色の綿毛に包まれているますが、成長につれて取れていきます。地下には短いワサビ状の根茎が連なり、大きな株になります。花は株の中心から出て、先端にキクに似た黄色い花を咲かせます。キクに似た一重の黄色い花をまとめて咲かせます。花後はタンポポの綿毛のようなタネができ、風に飛ばされて散っていきます。食用としては、春伸び始めた新芽を、まだ綿糸のような細い毛に覆われているときに、茎ごと摘みとってキャラブキにしたりキンピラにも利用します。花や蕾は天婦羅や酢のものにも使っています。斑入りや色違いの花を咲かせる園芸品種も栽培されています。

科目：キク科ツワブキ属

学名：Farfugium japonicum (L.) Kitam

別名：ツヤブキ、イシブキ、ツワ

原産地：日本、朝鮮半島、中国、台湾

開花期：10月～12月

花言葉：いつも笑顔で変わらない



* 島根県の津和野の名前は「ツワ(ツワブキ)の多く生えた場所」からきているようです。

ガーデンシクラメン

ガーデンシクラメンが初めて世に出たのは1996年です。埼玉県のと田島嶽氏が、耐寒性のある原種との交雑によって、屋外での栽培が可能なミニシクラメンの系統を選抜し、「ガーデンシクラメン」として売り出したのが始まりです。

寒さに強く、花持ちのよく、花壇の寂しくなりがちな冬に花を咲かせることから、冬の寄せ植えやガーデニングにも重宝されています。

花色は赤、白、ピンク、紫、複色。長い花期の間、花は次々と開花します。葉はハート形で縁に細かい鋸歯があり、長い葉柄を持って根生します。葉には特徴的な白い斑が入ります。株は大きくなっても草丈20cm程度で、シクラメンに比べると小さく可憐な印象です。

科目：サクラソウ科シクラメン属

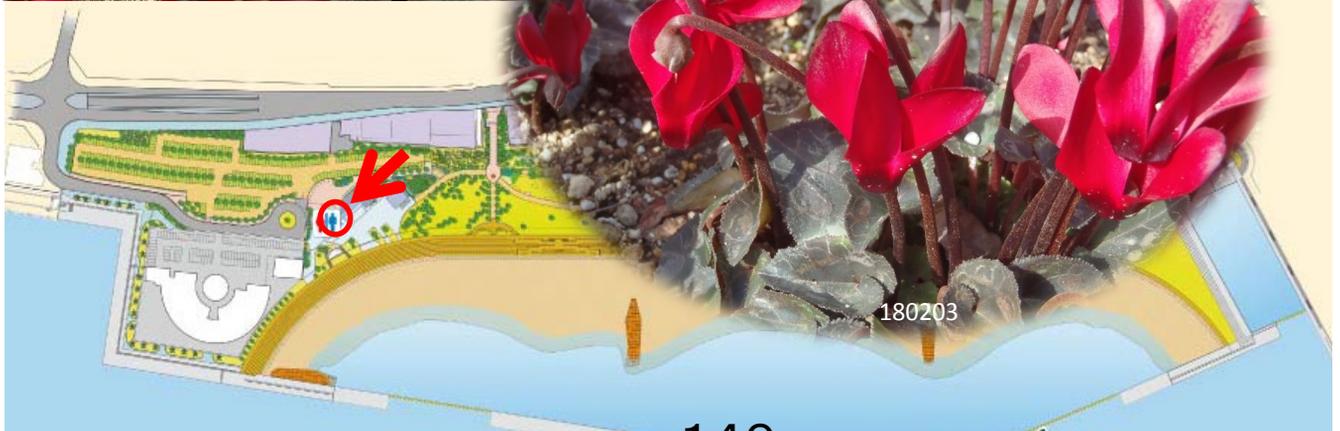
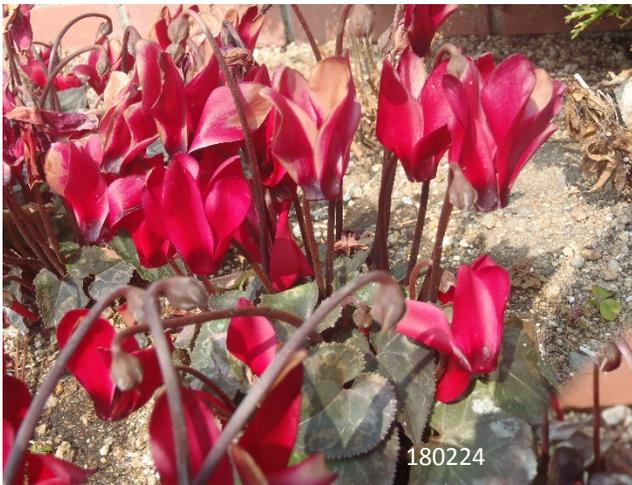
学名：Cyclamen Peesicum cv.

別名：ミニシクラメン (の寒さに強いものを選んで改良)

原産地：日本 (地中海沿岸原産のシクラメンの品種改良)

開花期：10月～3月

花言葉：内気、はにかみ、思いやり、嫉妬



ノジギク 野路菊

野路菊はリュウノウギクとならんで日本固有のキク科キク属の美しい野菊で主に西日本の本州 四国の瀬戸内海に面したところ 及び九州の東一南に分布します。兵庫県の県花です。

兵庫県は日本での分布の東端になりますが 最も多く分布するといわれています。姫路など播州地区に多数自生し 最も東限にあたる六甲山系の神戸地区にも最近かなり多くの自生地点があることが確認されています。

径2.5-4センチの花が白く輝くように多数咲き 野菊の中では最も 気品のある美しさ であるといわれています。

ノジギクとリュウノウギクは 花だけを見て区別するのは難しいほどそっくりです。しかし 葉の形が違っているので容易に区別できます。

ノジギクの葉は基部が水平です。

リュウノウギクはくさび形です。

但しノジギクの葉は変異も多く 基部が内側に切れ込んでいるものもあります。

科目:キク科キク属

学名: *Chrysanthemum japonense*

原産地:日本

開花期:11月~12月

花言葉:真実



ノジギク リュウノウギク

ノジギク
先端に花が3つなど
複数につく

リュウノウギク
先端に花が一つ
の場合が多い



フユシラズ 冬知らず

フユシラズは春咲き一年草の「キンセンカ(金盞花)」の近縁で、キンセンカ(カレンジュラ)の寒さに強い品種です。花はキンセンカを2周り程小さくした感じで、直径1~2cmくらいの黄色~オレンジ色の花をつける。日が当たると花が開き、夕方に閉じる。一年草ですがこぼれ種で翌年もよく花を咲かせます。

科目：キク科カレンジュラ属

学名：Calendula

別名：寒咲きカレンジュラ、ヒメキンセンカ

原産地：地中海沿岸

開花期：11月~5月

花言葉：悲嘆、悲しみに耐える



クリスマスローズ

「クリスマスローズ」の名前は本来ヘレボラス属の中でも「ニゲル」という一つの種につけられた名前ですが、日本ではヘレボラス属全体を指すのが一般的です。言い換えれば、前者は「狭い意味でのクリスマスローズ」、後者は「広い意味でのクリスマスローズ」ともいえるでしょう。日本では春に開花するオリエンタリスを元とした園芸品種が広く普及しており、それを見てなぜクリスマスと名前が付くのか首をかしげる方も時々おられますが、狭い意味でのクリスマスローズ「ニゲル」が12月末頃に開花すると言うと、納得していただけたと思います。クリスマスローズの花びらは性格に言うと萼です。では、花びらはどこに行ったのかというと退化して小さな蜜腺(ネクタリー)となり、おしべの付け根を囲むような形で小さく残っています。

花はシックな色合いでうつむいて小首を傾けて咲く 遠くの音を聞いている様子。

科目：キンボウゲ科ヘレボス属

学名：Helleborus

別名：レンテンローズ、ヘレボス

原産地：ヨーロッパ、西アジア

開花期：12月～4月

花言葉：追憶、私を忘れないで、慰め



ノースポール

「ノースポール」とは、北極という意味の英語で、株全体を覆うほどたくさん白い花を咲かせる姿が、北極を連想させることに由来しています。元々はキク科の多年草ですが、寒さには強い反面、高温多湿にとっても弱いことから、日本では一年草として扱われます。比較的強健で、こぼれ種でもよく増え、雑草混じりの場所などでもよく育つ。草丈は15～30cmと低く、たくさんの枝を分かれながら伸ばし、地面をはうように生長します。その茎の先に、中心が黄色く、白い花びらのマーガレットに似た花を咲かせます。葉っぱには、キク科の植物らしい切れ込みが入っています。

科目：キク科フランスギク属

学名：Chrysanthemum paludosum

別名：クリサンセマム、寒白菊

原産地：北アフリカ

開花期：12月～5月

花言葉：誠実、冬の足音、高潔、清潔



ナルトサワギク 鳴門沢菊

1976年に徳島県鳴門市瀬戸町の埋立地で発見され、サワギクに似ていることから命名された。1986年には淡路島でも発見されており、「コウベギク」と名付けられている。温暖な気候を好み、開花は通常一年中。2cm程度の黄色い頭状花をつけ、種子は長い白色の冠毛を持ち、風によって飛散し、繁殖する。外来生物法で2006年に**特定外来生物**(ブラックバスと同じです)に指定され、栽培・移動などが禁じられている。オーストラリアでは牧草地に侵入し、牧草の生育への影響と家畜の中毒で、かなりの被害が出ているようです。観賞用として安易に栽培しないよう注意を喚起する必要もあるでしょう。

科目：キク科キオン属

学名：Senecio madagascariensis

別名：コウベギク

原産地：マダガスカル

開花期：繁殖力が強く通年開花

花言葉：私に罪はない、つれなくしないで

